Ｋｙｕｓｈｕ

Ｉｎｓｔｉｔｕｔｅ　ｏｆ

Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ

平成２３年度

現状と課題

九州工業大学大学院工学研究院・工学府・工学部自己点検・評価報告書

九州工業大学大学院工学研究院部局評価委員会

目　　次

１　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２　工学部・工学府・工学研究科の教育

２．１　２０１１年度卒業生アンケート（工学部）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

２．２　２０１１年度修了生アンケート（工学府・工学研究科）　・・・・・・・・・・・３９

２．３　教育達成度評価アンケート：雇用主（2009 年 3 月以前卒業生）　・・・・・・・６４

２．４　教育達成度評価アンケート：雇用主（2009 年 3 月以前修了生）　・・・・・・・７１

２．５　教育達成度評価アンケート：卒業生（2009 年 3 月以前卒業生）　・・・・・・・７７

２．６　教育達成度評価アンケート：修了生（2009 年 3 月以前修了生）　・・・・・・・８４

３　大学院工学研究院・工学府・工学部の管理運営

３．１　大学院工学研究院・工学府・工学部の組織図　・・・・・・・・・・・・・・・・・９０

３．２　各種委員会活動の点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９１

３．２．１　大学院工学研究院部局評価委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９１

３．２．２　工学部教務委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９３

３．２．３　工学部学生委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９８

３．２．４　工学部入学試験委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１００

３．２．５　大学院工学府・工学部安全環境委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・１０３

３．２．６　大学院工学研究院情報化推進委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・１０４

３．２．７　工学部広報委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０８

３．２．８　大学院工学府学務委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１０

３．２．９　大学院工学府入学試験委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１２

３．３　教員組織　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１４

３．３．１　教員の配置　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１４

３．４　事務組織　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１６

４　大学院工学研究院・工学府・工学部の財政

４．１　運営費交付金配分状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１７

４．２　科学研究費補助金の採択状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１９

４．３　外部資金導入状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２０

４．３．１　寄附金（奨学寄附金）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２０

４．３．２　民間等との共同研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２０

４．３．３　受託研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２１

４．３．４　寄附講座　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２１
４．３．５　寄附金の利息　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２２
５　大学院工学研究院・工学府・工学部と社会とのつながり
５．１　地域貢献活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２３
５．１．１　大学公開　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２３
５．１．２　公開講座等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２４
５．１．３　北九州市民カレッジへの協力　・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２７
５．１．４　出前講義　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２８
５．１．５　情報公開　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３４
５．２　学生の国際交流　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３５
５．２．１　外国人留学生（国籍別・課程別・費用別）在籍状況一覧表　・・・・１３５
５．２．２　外国人留学生（学科別・専攻別）在学状況一覧　・・・・・・・・・１３６
５．２．３　学生の海外派遣　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３７
６　おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３８

１．はじめに

このたび、平成２３年度版九州工業大学大学院工学研究院・工学府・工学部自己点検・評価報告書「現状と課題」を発刊する運びとなりました。「現状と課題」は大学が法人化される前から、継続的に発行されてきており、そこに記載されている、各種アンケートの分析結果，各種委員会の活動報告，管理運営に関する情報は、時間割，学生便覧，シラバスとともに、工学研究院・工学府・工学部の活動を評価する貴重な資料となっています。

工学部・工学研究科は平成２０年度に工学研究院・工学府・工学部に改組されましたが、現状と評価結果を記録することは組織の改善を継続的に行ってゆく上で重要なことであり、今後も引き続き発行を続けてゆく予定です。最近の「現状と課題」の評価の主体は教育システムの評価に関するもので、修了・卒業を控えた学生，修了・卒業した学生，修了生・卒業生を受け入れた企業に対するアンケートを実施し、これらの分析を行っています。このように多くのアンケートがあり、多くの方々に負担をお願いしていますが、教育システムの改善への必要性をご理解頂き、ご協力頂いた各位には深く感謝します。

教育システムを改善するためには、分析をした結果を各種委員会や教員にフィードバックし、具体的なアクションに結びつける、改善のループを回すことが重要です。「現状と課題」を発行し、これを改善ループの回転に役立てることが、アンケートにご協力頂いた皆様への期待に応えること思い努力をしてゆきます。

本冊子は６章から構成されています。

第２章「工学部・工学研究科の教育」では、平成２４年１月に実施した卒業生・修了生に対するアンケート、同６月に実施した卒業生・修了生を採用頂いた企業に対するアンケート、そして、平成２１年３月以前に卒業・修了した本学同窓生に対するアンケートの結果について、過去４年間のデータと比較し述べています。卒業・修了後３年を経過した本学同窓生を対象としたアンケート，企業に対するアンケートは必ずしも十分とは言えないかもしれませんが、法人評価の観点からは貴重な情報と考えています。全体としては、大きな変化は現れていませんが、教育システムは大きな慣性をもっており、急に悪くもならない代わりに、急に改善することもできませんので、小さな変化をみのがさず常に改善の努力を継続することが重要と考えています。

第３章「大学院工学研究院・工学府・工学部の管理運営」では、平成２２年度の大学院工学研究院・工学府・工学部組織および各種委員会の活動等について記載しています。

第４章「大学院工学研究院・工学府・工学部の財政」では、外部資金の獲得状況，民間との共同研究等について記載しています。

第５章「大学院工学研究院・工学府・工学部と社会のつながり」では、公開講座、出前講義，国際交流等について記載しています。

第３章から第５章に記載されているデータは、工学研究院・工学府・工学部の活動をよくまとめており、組織の活動を知る上で重要な資料と考えています。

平成１８年度版より、閲覧の利便性などを考慮して本報告書を工学部のホームページに掲載しております。これにより、学内外に九州工業大学大学院工学研究院・工学府・工学部の内容を公表し、社会に開かれた大学としての役割を果たしたいと考えています。

最後となりますが、平成２３年度版「現状と課題」は多くの教育職員および事務職員の皆さまの協力により纏められました。この「現状と課題」が当部局の現状の達成状況を見つめ、更なる改善への糧となることを願っております。

平成２５年２月吉日

趙　孟佑（大学院工学研究院部局評価委員会委員長）

２　工学部・工学府・工学研究科の教育

２．１　２０１１年度卒業生アンケート（工学部）

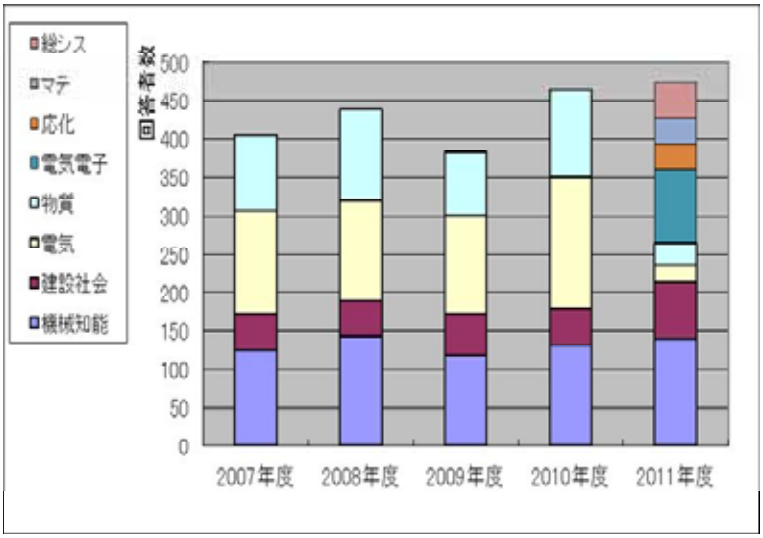
※アンケート実施年月日　平成２４年　２月３日

※アンケート回収率

学年	配付枚数	回収枚数（回答率）
４年生（卒業予定者）	５５５枚	４８７枚（87.7%）

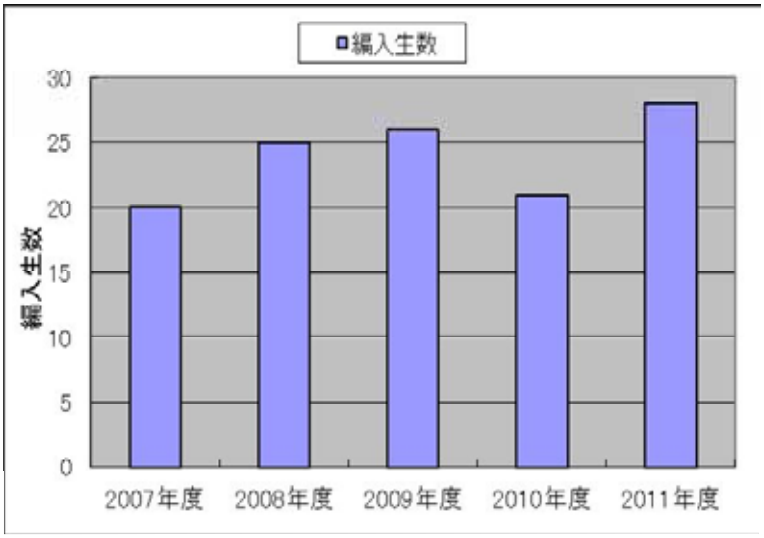
[1]所属する学科・コース名を書いて下さい。

機械知能工学科　（１４０名）
建設社会工学科　（　７３名）
電気工学科　（　２４名）
物質工学科　（　２９名）
電気電子工学科　（　９５名）
応用化学科　（　３３名）
マテリアル工学科　（　３４名）
総合システム工学科（　４７名）



回答者数が昨年と比較して僅かながら増加しここ5年で最も多い。この状況が維持できれば良い。

[1-1] ３年次編入の人は［　］に○を入れて下さい。　［２８名］

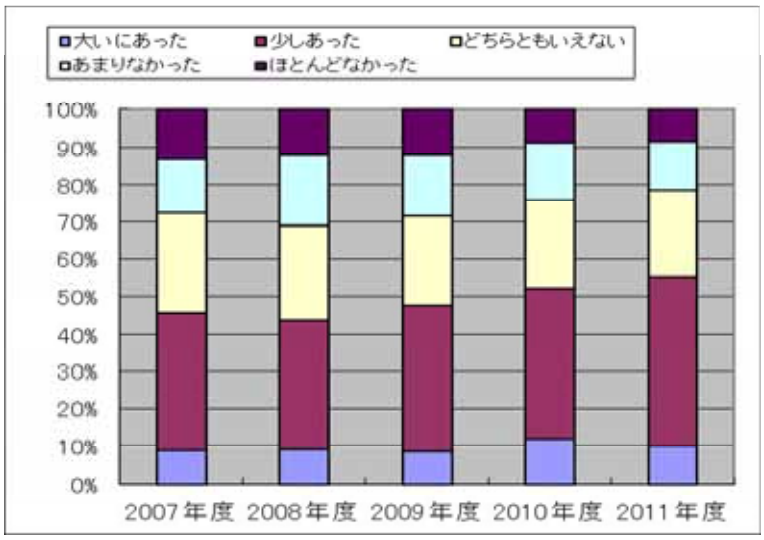


この年も，殆どすべての学生からの回答が得られている。アンケートとして好ましく機能しており、今後もこの状態を維持できればよい。

[2]大学教育があなたの成長（自己形成）に及ぼした効果についてお尋ねします。

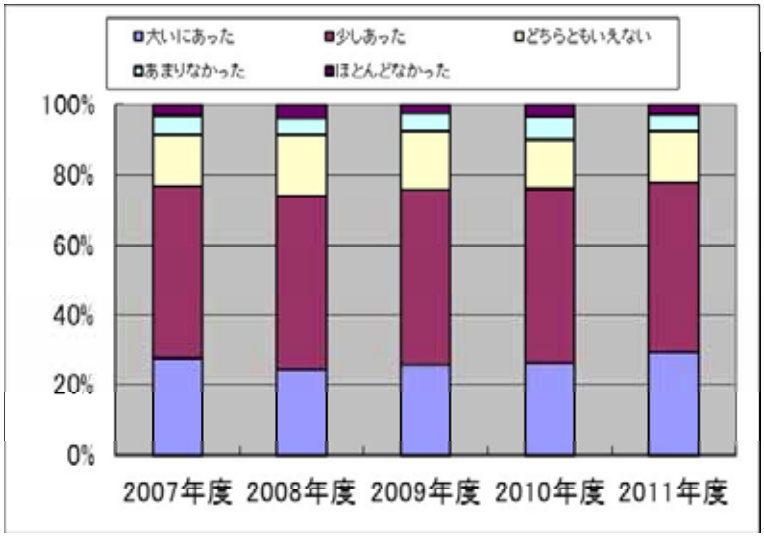
[2-1]人間科学科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。（法学、経済学、社会学、哲学、倫理学、歴史学、語学、保健体育学、文学、教育学等）

効果がない(あまりなかった＋ほとんどなかった)と回答した者の割合が徐々に減少している。これは、人間科学科目において、教育改善がコンスタントに進んでいることを表していると判断される。



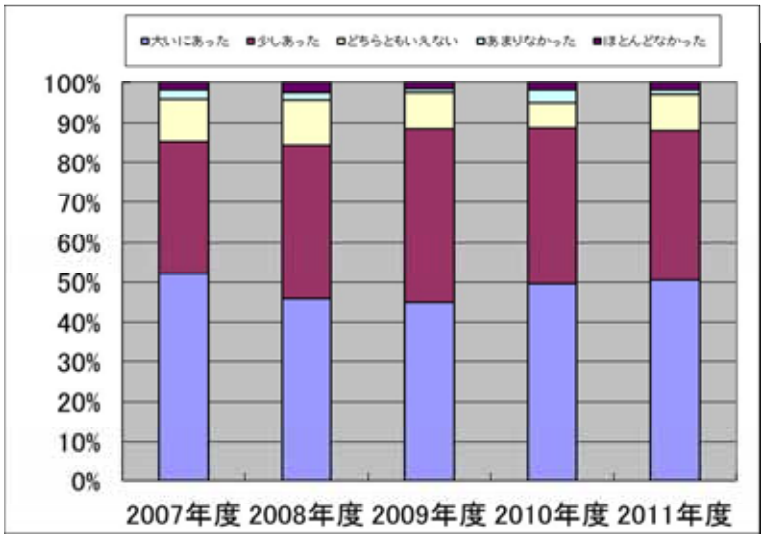
[2-2]工学基礎科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。（数学、物理学、化学、情報関連基礎科目）

効果があった(大いにあった＋少しあった)と回答した者の割合は 75%以上と高い水準を維持している。逆に効果がない(ほとんどなかった＋あまりなかった)と回答した者の割合は徐々に減り少なく維持されている。これは、工学基礎科目の教育が質のよいレベルに維持されていることを示すと判断される。



[2-3]工学専門科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。

効果があった(大いにあった＋少しあった)と回答した学生の割合は、本年度も 90%近くであり高水準が維持されている。このことは、学生の自己形成に工学専門科目教育が大いに役立っていることを示しているものと判断される。

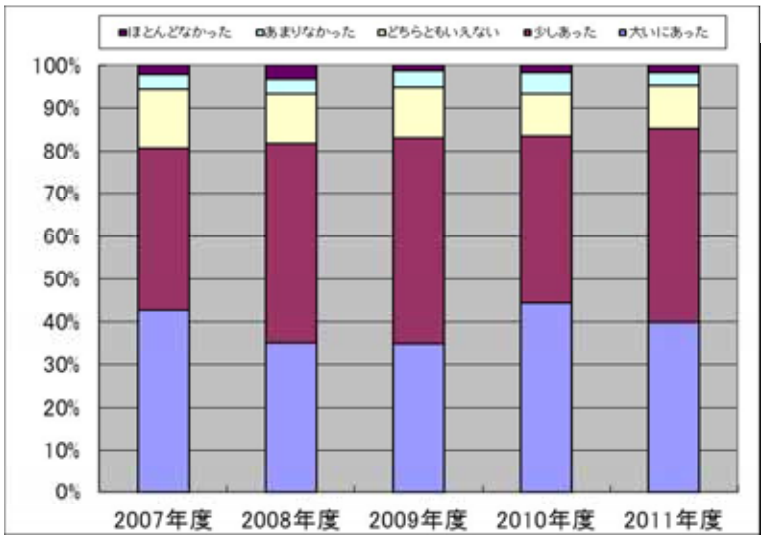


[2-4]卒業研究はあなたの自己形成に効果がありましたか。

昨年度ならびに本年度において，効果がない（あまりなかった＋ほとんどなかった）と回答した学生の割合は数パーセントであり、卒業研究が学生の自己形成に大いに役立っているものと判断され、かつ、大学に於ける卒業研究の意味が大きいことの裏付けでもあろう。

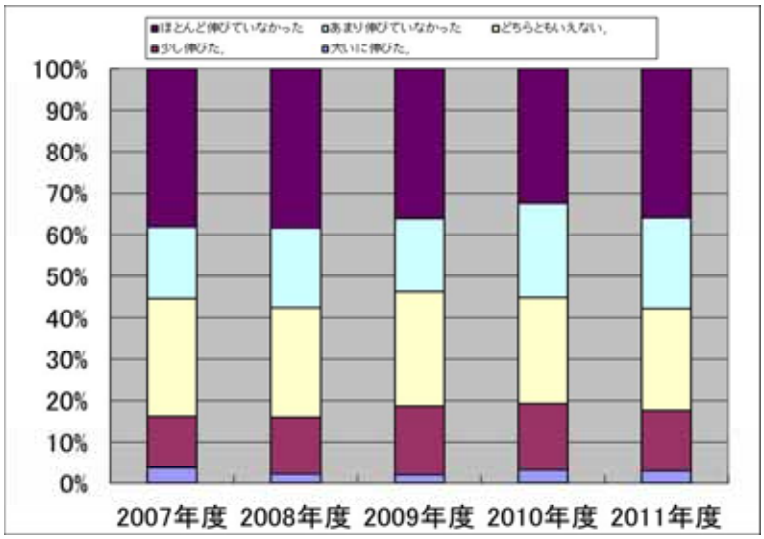
[2-5]実験・実習・演習・製図はあなたの自己形成に効果がありましたか。

効果があった（大いにあった＋少しあった）と回答した学生の割合が非常に高い水準に維持され、なお毎年度増加している。これは実験などの科目の意味が大きいことを示しており、今後もこの水準を維持することが願われる。



[3]英語力についてお尋ねします。

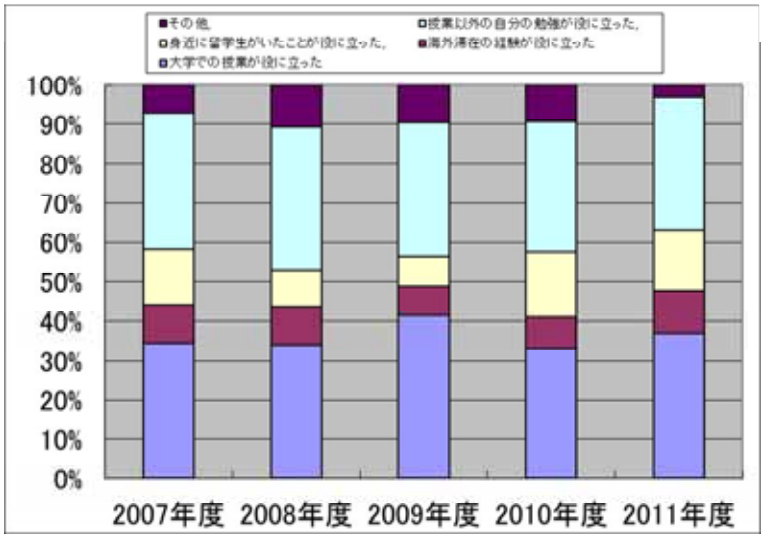
[3-1]大学の４年間であなたの英語力は伸びましたか。



英語力がほとんど伸びていないと回答している学生がこの年も１/3 程度いる。大学では高校までとくらべて英語学習に割かれる時間割合がずっと少なくならざるを得ないことから能力の向上を感じられるに至る状況を実現するのは難しいが、英語教育に関して持続的な教育改善が行われ、学生に実感できるようなレベルになることが期待される。

[3-2][3-1]でＡ（大いに伸びた）またはＢ（少し伸びた）と答えた方：その理由は何ですか。(複数回答可)

大学での授業が役に立った割合と授業以外の自分の勉強が役に立った割合がともに35%程度であり過去とその傾向に大きな違いはない。英語力は、授業だけで伸びる性格のものではないと思われるが、大学はいろいろな選択肢を提供し、自発的に、自然に英語を身につけるような仕組みづくりなどを通じて、この割合を増やす工夫は必要であろう。



Ｅ（その他）［具体的に：　　］

- **4年次の英語文献購読が良かった**
- **論文を英語で書く際あまりてこずらなかった**
- **英語論文を読んだので**

[3-3][3-1]でＤ（あまり伸びていない）またはＥ（ほとんど伸びていない）と答えた方：その理由は何

ですか。

工学部では、おのずと工学科目の負担は非常に大きく課題などに割かなければならない時間が多いため、なかなか英語力を伸ばし難い状況におかれていて、英語科目に対しては何とか単位をとることだけに留まる学生がかなりいるようである。このような現状のなかで、英語能力を英語の科目だけで伸ばすことには限界があろうから、専門科目においても英語に触れたり英語の必要性などを啓蒙するような仕組みの検討も必要になってくるのではないかと思われる。

- **英語の授業が少ない**
- **授業も1、2年次以外はほぼなく、単位をとるためだけにやった感じ。おそらく、ほとんどの学生はそうやっている。**
- **英語の授業が少ない、工学科目のふたんが大きい**
- **3、4年で英語をほとんど使わなかったから**
- **自主的な学習不足**
- **英語をほとんど使わなかったから**
- **特に英語の勉強をしていないから**
- **TOEICが悪かった、英語の勉強をしてないから**
- **英語に携わる機会が少なかったから**
- **英語をきちんと勉強する機会と意欲がなかった**
- **授業数が少ないから。使う時がほとんどなかったから。**
- **実践的でない**
- **授業が少ない**
- **英語に触れる時間がどうしても少ない**
- **授業数が少ないため。**
- **英語が苦手だから**
- **覚えていた単語すら忘れてしまっているから**
- **TOEICの点があまり良くなかった**
- **自分から進んで学ぶことがなかった。**
- **勉強量が減った。**
- **英語が合わなかった。**
- **自らの努力と授業の質**
- **英語を使う勉強がほとんどなかったため**
- **学部生の時英語の勉強をしていない**
- **勉強しなかったから**
- **講義関係以外で英語を勉強していなかったため**
- **積極的に取り組まなかった**
- **英語の授業が少ない**
- **英語を使っての会話をすることがあまりなかったので、なかなか身に入らなかった。**
- **高校時代に比べて、英語にたずさわる時間が減った（センター試験が英語力のピークという人は自分だけではないと思う）**
- **高校の時の方が英語に触れる機会が多かったため**
- **英語と離れたから**
- **週に1日だと全く英語力がつかないから**

- 英語を使わなければいけない状況がないから(授業、発表などで)
- 勉強量が少なかった。特に3、4年では授業もなく勉強する機会があまり無かった。
- 英語に対して積極的に取り組まなかったから
- 自学の時間が少なかったから。
- 英語に触れる機会、興味があまりなかったため
- 長文をひたすら訳すような授業ばかりで意味がなかった
- 今勉強していてそれを実感するから
- 高校より勉強しなかったから。
- 基礎的な単語、文法はある程度身についていたので授業で伸びるということはなかった。
- 授業数が少ない。
- 英語の授業が少し簡単だと思うから
- 英語を使うことがなかった
- 勉強をしなかったから
- 勉強しなかったため
- そもそも英語に触れる機会、時間が高校時代よりも減った
- 勉強量が減ったから
- 授業だけで伸びた感じはしなかったから自主勉で伸びた
- 暗記のみの授業とテストが多く、実用的でないため。
- 読解法などを学べなかったから。
- 高校の延長線にしかすぎなかった
- 1年のとき以降あんまりふれる機会がないから
- 高校と変わらない
- 勉強をしていないから
- 講義が英語力向上を目標としていない様な気がする
- 授業内容
- 自習していないから
- 英語が苦手だから、勉強しなかったので
- 2、3年次に英語にあまり触れなかったから
- 英語の授業が少ないので勉強することがあまりなかった。
- 授業の質が低いため
- ほとんど英語に携わっていない
- 英語の授業がないのでしようという気にならない(嫌いだから)
- 大学の授業があまり良いものではなかった
- 何を伸ばしたいのか一貫性がなかった。研究で使う英語なのか、実用的にしゃべる英語なのか、聞きとる英語なのか。いっそTOEIC講座とかしてくれるとありがたかった。
- 英語にふれる機会が減ってしまい、英語力がなくなっていったから
- 高校の方が授業のレベルが高かった。
- 英語力を伸ばす授業、機会がほとんどなかった
- 英語の教育に力を入れていないから
- TOEICの勉強をした。

- 英語にふれる機会が少なかった
- 勉強していなくてもなんとかなった。
- 英語に触れる機会があまりにも少なすぎる。
- 英語にふれる機会がないので
- 英語に関わらなかったから
- 特に英語の勉強をしていない
- 英語を学ぶ機会が少なかったから
- 英語を話す機会がないため
- 1年生のときしか授業がなかったので
- 一年時にしか英語を学ばなかったから
- 英語ではなく、中国語を磨いた
- 英語を使う機会がない
- 持続的に自分で勉強しなかった。
- 一時しのぎの勉強だったため
- 必修教科のみ、講義を受けていたため
- 英語の授業がそんなになかったから
- 入学試験のときの方が勉強していたから
- 授業でしか勉強しなかった
- 4年間であまり要領を得られなかった
- TOEICの点数があまり上がらなかったから。会話については実践する機会がなかったので上達具合がわからないから
- 教科書を読むだけでは伸びない。会話など実践的なことをしなければならないと思う。
- 高校時代と比べて英語に触れる機会が少なかったから。
- 高校の時の方が勉強していたから
- TOEICの点数がさほど上がらなかった
- 3年次の英語の授業では、基礎ではなく会話が重要であったため
- 興味が持てなかった
- 授業が少ない
- 授業が自分にあわなかった
- 継続的に取り組まなかったため
- 授業が少ない、文法をしない
- 英語を話したり、聞いたりする機会がとても少なかったから。
- 文法とかがなく、わからなかった
- 伸びる訳がない(授業の内容からして)
- 勉強不足
- 英語の勉強時間が少ないため
- 高校の時の方が英語を勉強していた為
- 勉強しなかった為
- テスト勉強程度しか取り組まなかった
- 英語力につながる勉強がなかった

- 高校の時の方が知識が多かった。
- 自主的に勉強しなかった
- 英語の授業がないため
- 高校生の時よりも、英語にふれる時間が圧倒的に減った。
- 授業だけでは身に付かない
- 英語を学ぶ機会が少なかった。
- 英語科目の絶対量が少ない
- 英語の勉強は授業以外ではほとんど行われなかったため
- 高校のときのほうが英語ができた、大学の英語はやさしすぎる
- 英語に興味がなかった。
- 嫌いだから
- 選択課目で、必修ではないので2年からは英語に触れる機会がなくなった。
- ほとんど勉強していなかったから
- 英語の勉強をしていないから
- 英語に触れる機会が減っていったから
- 継続していない
- 英語の授業が少ない。興味がないため
- 高校生の時の方が勉強していたから
- 授業の内容が…よくなかった
- 英語の講義回数が減ったため
- 英語を使う機会がほとんどなかったから。
- 1、2年時にしか授業がなく、その授業もあまり役にたたなかった。また、自ら英語の勉強を行わなかったため。
- 授業回数が少ない
- TOEICにとりくんでいないため、英語にふれる機会がない
- 英語を使う時間が少なすぎたため
- 英語に触れる機会が少なかったから。
- 授業内容のレベルが低かったから
- 英語を勉強していない期間が長い
- ほとんど英語に触れてないし
- 勉強してないから
- 必修のレベルも高くない授業はほとんどなく、自分で勉強するしかなかった。
- 3年以降英語がないため。
- 常に勉強していなければ、大幅に成績が伸びることにつながらない。自分にはそれが足りていなかったと思う。
- 楽しく受けることができなかった
- 1年の時にしか英語の授業がなかったから
- 英語は話す場がない
- 授業以外で英語に接する時間が皆無
- 英語に関わる事がなかった
- 講義以外で勉強しなかった

- 授業時間が高校と比べ激減したため、英語に触れる機会が少なくなった。
- 英語にふれていない
- 授業しか受けていないので
- 英語で話す機会がなかった
- 普段使う機会がなかったため
- 勉強時間が少ない
- 大して英語の勉強をしていないから
- 高校時代の方が英語ともう少し多く触れ合えていた
- 自分自身の英語学習に対する意識が低かったので。
- 週に数回程度の授業ではあまり身につかなかった。
- 英語使用する事がなく、高校時より学習時間が少なかったため
- 英語の勉強時間が少ない
- 英語にふれる機会が少ない
- 英語に触れる回数が減った
- 単位をただとることに意識を向け、学ぶ姿勢が足りなかったから
- 高校時代よりも英語を勉強しなくなったから
- 英語を勉強する機会があまりなかったため
- 英語を勉強する機会が少なかった
- 1、2年で英語授業がなくなるため。
- 高校時代に比べると週の英語の学習量が大幅に減ったこと
- TOEICの点が悪い
- 勉強不足
- 勉強する時間が確保できなかった
- 2年次以降に授業がないから
- 前、後期で先生が変わり、一貫性がなかったから
- 1、2年のとき受けていらいうけなくなるから忘れる
- 勉強しなかったから。自分の努力次第だと思う
- 実用的に英語に触れる機会が少なかった。だからといって増やすべきだとも思わない
- 会話的な部分ではわからないが、語学的な部分ではTOEIC等で思ったような得点を取れていないから。ただあまり英語力を量る場がなかったので正直よくわからない。
- 学習していないから
- 英語の何を学んでいるのかがよく分からなかった
- 授業回数も少なく、英語にふれていない期間が長くなるため
- 英語力が伸びたという実感が得られなかったから
- 自己学習をあまりしなかった。
- 簡単なものしかやらなかったから
- 総勉強量に占める英語の割合が少ないから
- ほとんどしないから
- 講義のコマ数が少なかったと思う
- 授業のコマが少なすぎる

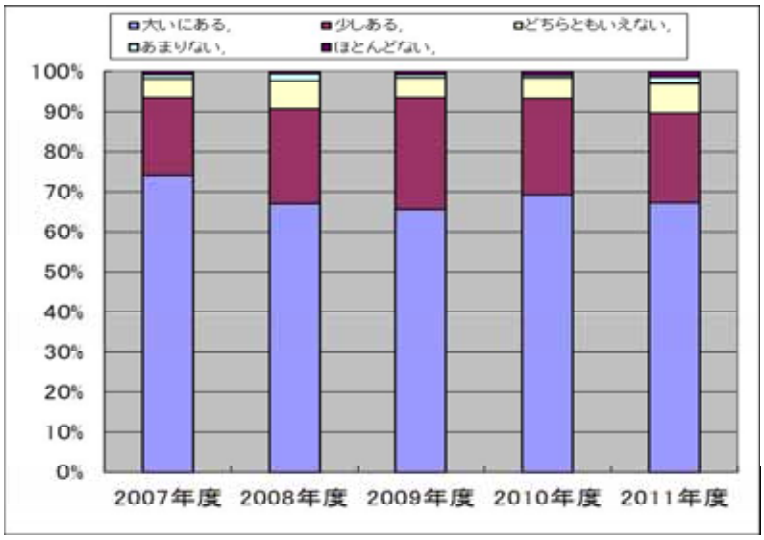
- 授業以外での使用の場があまりなかったため
- 英語に触れる機会が少ない
- 真剣に学ぼうとしていないため
- 編入のため英語科目を受けていないため
- 工学専門科目を重視した為
- 高校までの授業の方がレベル高かった
- 英語を話していない
- 苦手意識が強いから
- 自分自身に英語のやる気が無いため
- 受験英語の延長でしかなかった。
- 授業が簡単
- あまり英語にふれる機会がなかったから。
- 勉強不足
- 英語に触れる機会が少なかったから
- 大学に入って英語の授業を受けていない
- レベルが低かったので
- 毎年英語の講義がないから
- 英語にふれていない
- ほとんどの授業が中、高等学校の英語の授業と同じだったため
- 高校の時より明らかに英語の勉強時間が減ったため
- 単位を取るための勉強しかしなかったから
- 英語にふれる機会が減った。
- 授業が少ない。自主性がなかった。
- 英語の授業のレベルが低すぎる
- ほとんど英語を使う機会がなかった
- 特に外国人の先生の授業が中学生レベルの内容だったから
- 必要性が無かったため
- 興味が持てなかったため
- 1年の時しか授業はなかったし、英語論文を読むのに苦労した。
- 反復練習を怠っていたから（TOEIC前だけ勉強など）
- 英語にふれる機会が少なかった
- 英語は3、4年でほとんど触れなくなったので
- 英語を学ぶのが1年のときだけで忘れてしまったから
- 英語に触れる機会が少なくなった
- 授業が少ない
- 英語に触れる事がほとんど無かったため
- 英語に触れる機会が少なかった
- 授業以外で勉強しなかったから
- 工学専門科目のレポートや勉強に追われて、英語を勉強するヒマがなかった。
- 1年生のときしか授業を取っていないため。忘れてしまっている。

- 英語の科目以外で使うことがないため
- 自主的に学ぼうとしていなかった
- 英語の授業が少し少なく、英語に関わる時間が減ったから
- 英語学習時間の不足
- 勉強しなかったから。
- 絶対量の不足
- 一切勉強しなかったため
- 英語を使用する機会が無かったから
- 絶対的に学習時間が少なかった。
- 授業が中途半端だったから
- 何もしてないから
- 英語への苦手意識がなくならなかった
- 努力しようとしなかった。
- 量的問題
- もともと苦手でした
- 英語に接する時間が少なかった
- 英語への取り組みにあまり熱心でなかった。また、大学での英語に触れる機会が少なかったから。
- 継続した学習を行わなかったため
- 1、2年の授業と4年のTOEICでしか勉強していないため
- 高校時に比べて学習時間が減ったため。
- 英語への意識が低かったから

[4]卒業研究についてお尋ねします。

[4-1]卒業研究の意義はあると思いますか。

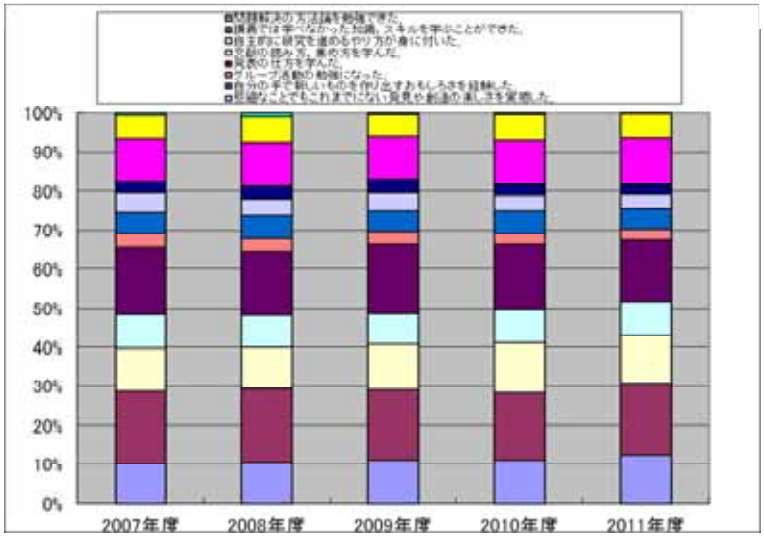
卒業研究の意義について、ある（大いにある＋ある）と回答した学生の割合は、この年も９０％であり、その意義は常に高いものである。教員が卒業研究を通して行っている学生教育への負担は非常に大きく、その当然の帰結として反映されていることを示すものである。今後もこの水準が維持され、有能な学生を社会に送り出せれれば良いと考える。



[4-2][4-1]でＡ（大いにある）またはＢ（少しある）と答えた方：その理由は何ですか。（複数回答可）

例年と同じく、卒業研究を意義がある（大いにある＋ある）と回答した理由としては、研究の仕方や問題解決方法が学べた、発表の仕方が学べた等、講義では学べなかった知識・手法が学べた、が多かったが

他の様々な理由を挙げる者も多い。工学部では卒業研究を通じて多角的な能力の向上を目的としており、卒業研究を行うことの意義が高く広いことがこの回答からも確認できる。



L(その他)[具体的に：　　]

- **将来の職へとつながることをやらせてもらえたから**
- **普段さわれない試薬、機械、会うこともなかったであろう人に接することができた。お金をかけずに。**
- **B4の間(一年間)では期間が短い。理解し始めた頃に卒業になってしまう。**
- **魅力的な実験装置を扱えた。**
- **大学、というよりは1つの組織として、上の先輩に積極的に聞きに行くなど、仕事に対する姿勢。**

[4-3][4-1]で卒業研究の意義がD(あまりない)またはE(ほとんどない)と答えた方：その理由は何ですか。

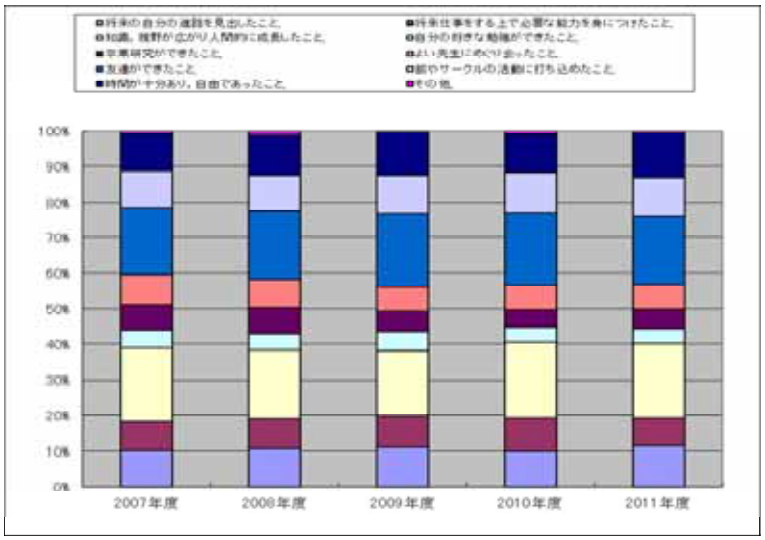
僅かながら卒業研究の意義がない（あまりない＋ほとんどない）と回答した学生がいる。自分自身の希望していた研究テーマではない等の理由により、卒業研究を行う意欲が低くなってしまっていることが原因ではないかと推察される。学生が研究テーマの意義を理解しないことによる場合もあると思われるが、研究室配属方法の改善等でこのような学生を減らすことの検討も必要かもしれない。

- **非常にこうそくされるから**
- **知識はあまり増えなかったから**
- **自分は何も考えなかったため**
- **精神的に追い込まれるから**
- **興味がないから**
- **卒業研究に用いるスキルが将来のためになる実感がない**
- **就職に関係なかったから**
- **大変すぎた。卒論ではなく、講義の単位数にしてほしい**
- **データ整理作業がほとんどだったから**
- **時間の無駄、会社はそんなの求めてない**

[5]大学生活を振り返って、どのようなことがよかったと思いますか。（複数回答可）

例年と同じような割合で、知識や視野の広がり、友人が出来たことなど、多面的でバランスのある回答をしている。このことは、大学生活が全般的に有意義であったと感じていることの証しであると思わ

れる。

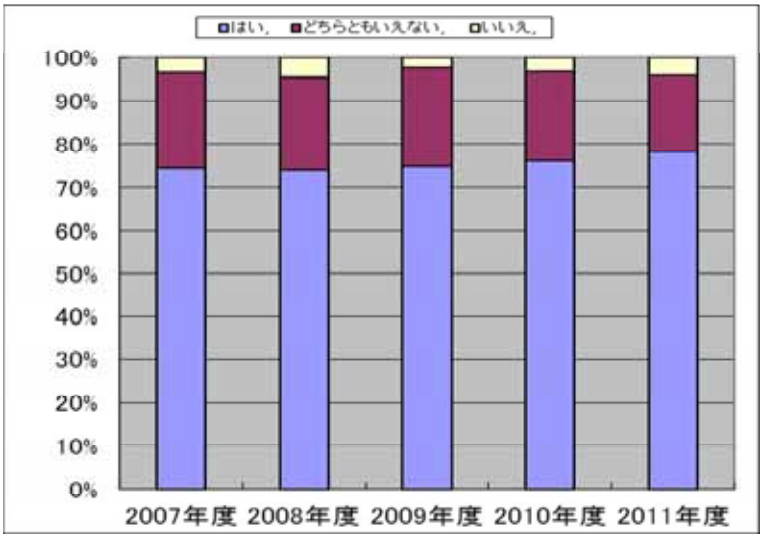


J（その他）［具体的に：　　］

- **ストレスに対する耐性**
- **酒の飲み方。いわゆるノミュニケーション**
- **きつかったが、製図科目、特に設計製図III（ロケット打上げ）と卒業研究が楽しかった**
- **自分自身について振り返ることができたこと（得手、不得手、自分がどれほどまで出来るのか。）**
- **研究や学業において、計画をたて自主的に取り組むようになった。**

[6]入学した学科についてお尋ねします。

[6-1]現在の学科に入学してよかったと思いますか。



入学した学科については、良かったと思った学生の割合は80％近くであり、この数値は必ずしも希望の大学を受験したとも限らないことや、合格した学科が希望の学科であるとも限らないことを考慮すれば、かなり高いと思われる。現在の学科に入学してよかったと思うということは、現在の学科の教育内容などにも満足していることが反映された結果であると思われる。

[6-2][6-1]でC（いいえ）と答えた方：その理由は何ですか。

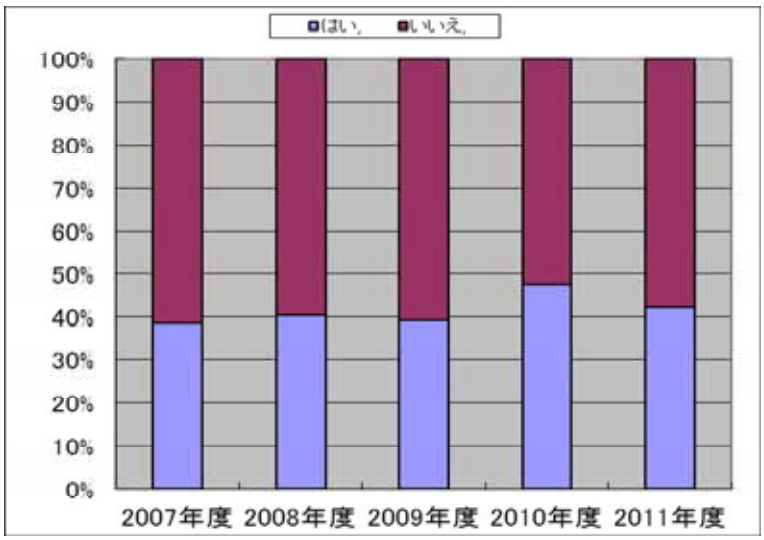
もともとその学科に興味がなかったといったことが入学した学科について良かったと思わない理由では多いようである。入試やコース配属方法などに工夫をすることや弾力的運用でこれに対応する方法

もあろうが、実行には逆の弊害もあることを留意しておかなくてはならない。

- **パンフレットに書いてあることと違っていた。**
- **専門分野が何か分からなくなり、軸がない。**
- **探り探り感が否めなかった。**
- **どっちつかず**
- **おもしろくないから**
- **学科ごとで授業難度に違いがあり、不公平だと思った**
- **就職先が比較的少ない**
- **つまらない**
- **他大学に行きたかった**
- **やりたいことと違った。**
- **やりたいことを見いだせなかったから**
- **就職先が制限された**
- **高卒で働いた方が人間的に成長出来たと感じています。**
- **文系の公務員に職が決まったので法学部に行けばよかった。**
- **卒業研究の期間が約半年しかなかったから**
- **やりたいことと違った**
- **電気･電子の方がよっぽど楽で設備が充実している。したがって、自主性が持てた。**
- **私は大学に入って人文学に向いていると感じたから**

[7]入学時の目標の達成についてお尋ねします。

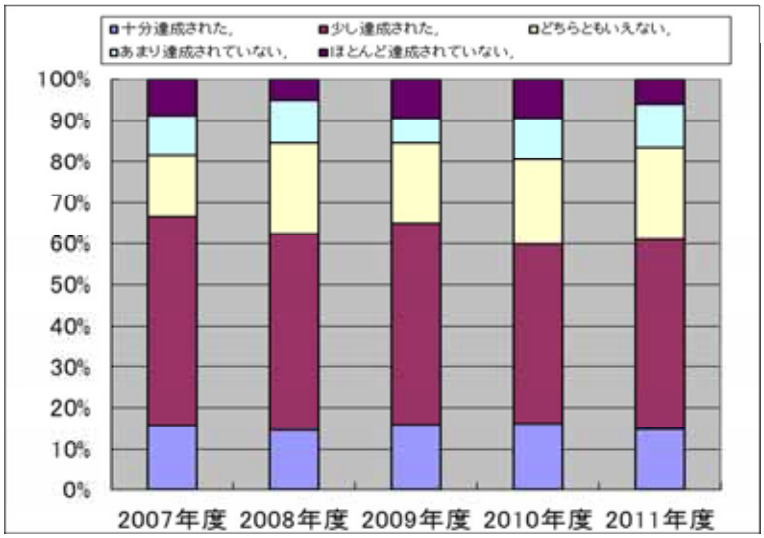
[7-1]あなたは入学の時に大学で達成したい目標がありましたか。



入学時に達成したい目標を持って入学した学生は例年約40%で推移している。目標があるかないかは、個人の目的の意識レベルに依るものとも思われるので、この結果が一概に好ましくないとも言えないであろう。また、本観点は、高校までの教育で目的や目標を設定することをどう盛り込むのかという教育哲学に係わる事項であり、深い議論が必要となろう。

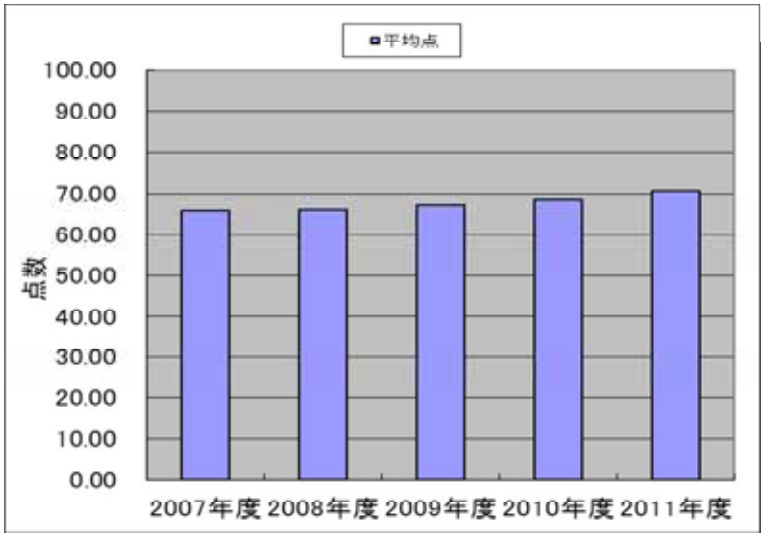
[7-2][7-1]でA（はい）と答えた方、それは現在どの程度達成されていますか。

目標の中には、例えば到達が困難なレベルの場合もあろうから、結果にある、達成された（十分達成された＋少し達成された）と感じている学生の割合の約60%という値はかなり高いと思われる。



[8]在学中の学生生活の満足度に対して１００点満点で点を付けるとすれば何点と思いますか。

満足度は、今年も微増し、70点を超えている。大学全体として努力している成果が現れているものと考えられる．今後もこの水準が維持されることが望まれる。



[9]卒業により取得予定の資格についてお答え下さい。

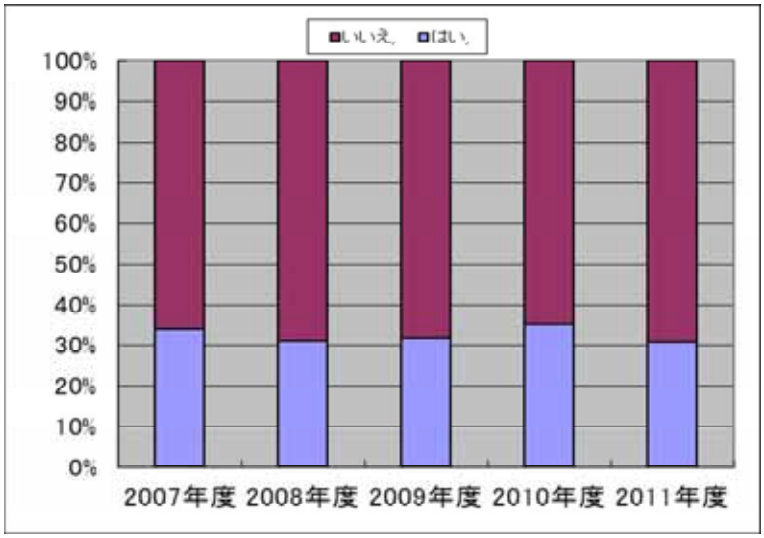
（本学の教育目標に適合しない資格（自動車免許等）は除外します。）

[9-1]あなたは教員免許取得を目標としていましたか。

教員免許の取得を目的としている学生の割合はずっと 10%を下回るレベルで推移している。実際、免許を取得して教員になることを目的に入学する者の数それほど多くないと思われるが、教員免許取得希望を持っている者がこの程度いることは認識しておくべきである。

[9-2]教員免許（数学）が可能でしたら、あなたは取得を希望しましたか。

多くが数学教員になりたくて本学に入学したとは思えないが、教員免許取得希望者は毎年度 30%以上いる。工学部として数学教員免許取得が可能なカリキュラム導入については、希望者の希望内容の把握がまず必要であろう。



[9-3]あなたは卒業後資格（教員免許を除く）を取得する予定ですか。

卒業後の資格取得を予定している学生の割合は、毎年度 30%程度で横ばいである。

取得を考える資格が就職先において必要となりそうな場合は取得をしたいと考えるのはごく自然であり、固有の就職分野・業界との関連で取得を考えているものと予想される。

[9-4][9-3]でA（はい）と答えた方：どのような資格を取得する予定ですか。

就職分野や業を意識しつつ多種多様な資格の取得を考えているようである。

- **電験3種**
- **電験**
- **電験3種**
- **電験**
- **基本情報処理技術者、応用情報技術者**
- **電験等**
- **未定**
- **電験3種等**
- **電気技能系の資格**
- **情報系**
- **危険物取扱や劇物取扱など**
- **仕事にかかわる資格**

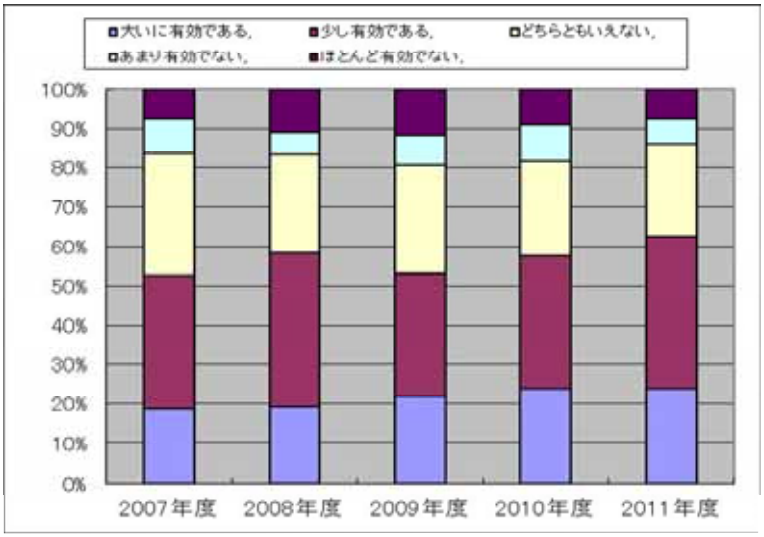
- 詳しくはまだわからず
- 危険物取扱い
- フォークリフト
- 危険物取扱　甲種
- 危険物、劇毒物、知財
- 衛生管理者、社会保険労務士　等
- 公害防止管理者
- 企業に必要な資格
- 化学研究に役立つもの
- 危険物
- 知的財産管理技術検定
- 会社がとれと言う資格
- 毒劇物取扱者
- 運転免許
- 劇物･毒物管理
- 化学工学修習士
- 情報系
- 無線
- 電気系、通信系
- 情報系、中国語
- 第一種陸上無線技術士
- 無線通信
- 基本情報技術者、ITコーディネータ　等
- 電気･主任技術者
- 電験
- 情報処理、TOEIC、TOEFL、電気主任技術者
- 電験
- 電験など
- 電験3種
- 電気主任技術者
- 電気主任技術者
- 電気主任技術者
- 電験
- 未定　電験など
- 電気主任
- 電験三種
- 電験1種
- 電験3種
- 電験3種
- 教員免許（数学）

- 電気主任技術者
- 電験3種
- 電気主任技術者
- 電気関係の資格
- 電気主任技術者
- 電験
- 電気主任技術者
- 電験3種、2種
- 電気主任技術者
- 情報処理技術者
- 技術士
- 技術士
- 施工土木技術者管理技士
- 土木施工管理技士
- 技術士補　等
- 電気工事士
- 技術士
- 技術士
- 技術士
- 技術士
- 技術士
- 建築士
- コーディネーター系、建築士
- 技術士
- 技術士
- 技術士
- 建築士
- 逆に具体的に書いて
- 建築士（将来的には1級）
- 1級建築士
- 建築士（1、2級）
- 技術士、一級建築士
- 技術士試験
- インテリアデザイナー
- 技術士
- 1級建築施工管理技士
- 測量士補
- 電気工事士、施工管理士
- 宅建
- 土木施工管理技士

- **技術士、土木施工管理技士**
- **コンクリート技士**
- **空調系**
- **情報処理技術者試験関係**
- **基本情報処理など**
- **応用情報処理技術者試験**
- **情報技術者**
- **消防設備士**
- **ＳＥ関連全般**
- **電験**
- **電験など**
- **技術士　等**
- **溶接**
- **技術士**
- **技術士**
- **どのような仕事につくか分からないのでナゾ**
- **技術士**
- **危険物**
- **技術士**
- **技術士　等**
- **技術士**
- **ボキ**
- **簿記など**

[9-5] [9-3]でＡ（はい）と答えた方：大学の授業は資格取得に有効ですか。

資格取得に大学の授業が『大いに有効である』と考える学生の割合が徐々に増加し、有効でない（あまり有効でない＋ほとんど有効でない）と考える学生の割合は逆に徐々に減少している。直接的ではなくても大学で学ぶ内容は資格取得には役立つと認識しており、このことは教育内容がこのような点でも意味があることを示している。



[9-6] [9-5]でＤ（あまり有効でない）またはＥ（ほとんど有効でいない）と答えた方：その理由は何ですか。

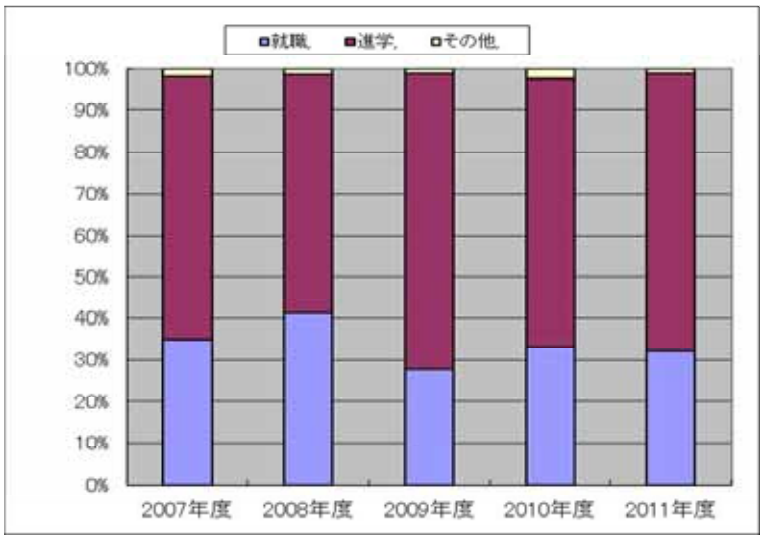
専門分野とは異なる資格の取得も希望として挙げているようで、それゆえ学生の想定する取得資格に大きな幅がある。資格に直結するような教育内容とすることには無理があるので、あくまで大学が提供すべきは資格対応より普遍的に重要な教育内容であろう。

- **具体的な知識があまり身につかず、単位を取る為の勉強になりがち。実験系、卒論は有効だと感じた。**
- **関係ないから**
- **有効だと考えない**
- **どんな資格があるか分かっていなかった**
- **専門が異なる**
- **授業ではあまり役に立たなかった**
- **授業（学課）とまったく関係がない資格のため**
- **卒業後の実務が必要だから**
- **授業内容と関係があまりないから。**
- **時期**
- **そのような授業はなかった**
- **テーマが飛びすぎている。講義で理解してもうらおうと思っていない先生が多い。**
- **資格を取る為に講義を受けていた訳ではないから**
- **自習学習が重要**
- **関係ない**

[10]卒業後の進路についてお尋ねします。

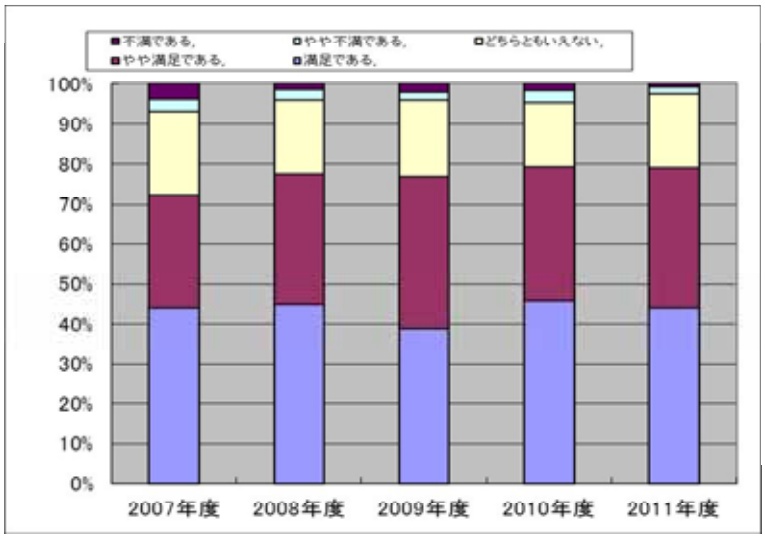
[10-1]あなたは卒業後就職しますか、進学しますか。

若干の変動は見られるものの、例年、60%以上が大学院に進学する傾向にある。2009 年度以降の進学率は約 70%に達している。



[10-2]あなたは卒業後の進路に満足していますか。

「満足である」または「やや満足である」とした回答が 70%以上あり、2008 年度以降は 80%近くまで増加している。高い満足度を保っている。



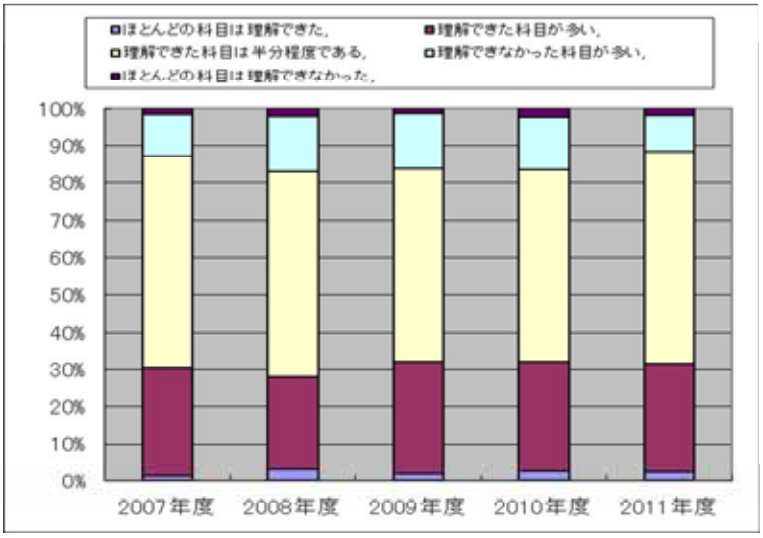
[10-3][10-2]でD（やや不満である）またはE（不満である）と答えた方：その理由は何ですか。

自分の希望通りにいかなかったことなど、様々な思いが見られる。

- **学部の1～3年までの間に院に進学したいと漠然と思っていたが4年生の卒業研究で研究を続けていく自信をなくしたから**
- **希望した大学院に行けなかったため**
- **就職先が決まっていない**
- **まだ決まっていなから**
- **もっとやれると思ったから**
- **他大学院に行きたかった**
- **希望するところではない**
- **就職にすれば良かった**
- **もう2年も学生であることでお金がない…。実際にはそんなにあそべない**
- **研究室を変えてもよかった**

[11] これまでに受講した科目の理解度はどの程度ですか。

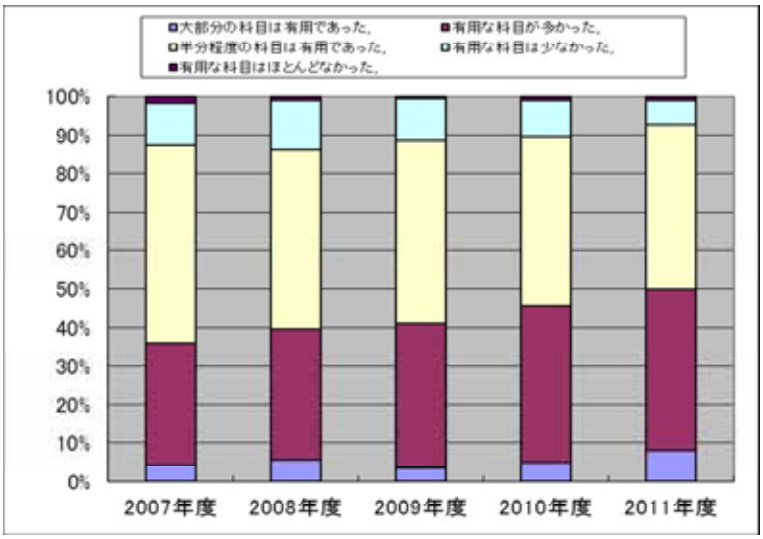
「ほとんどの科目は理解できなかった」または「理解できなかった科目が多い」とした回答が、2008 年度以降、15%を超えていたが、2011 年度は 10%近くにまで減少している。



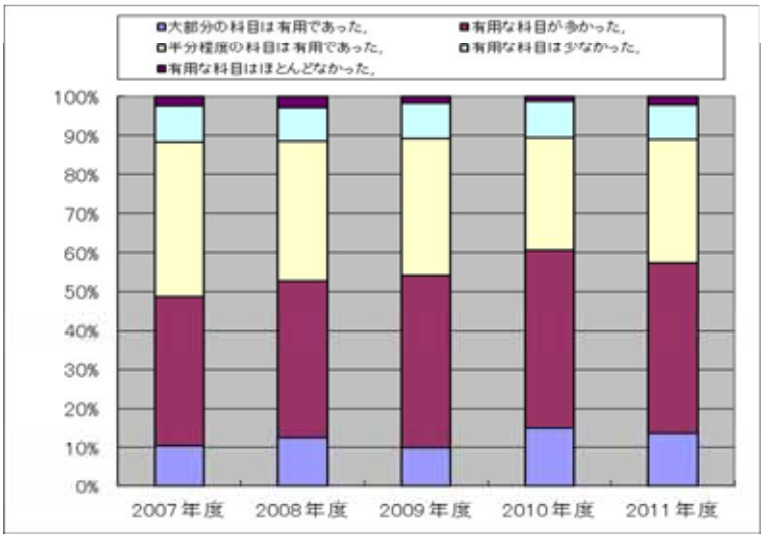
[12] 履修価値のあった科目の割合についてお尋ねします。

[12-1] 受講した講義科目（演習科目を含む）の中で、自分自身の成長のために有用であり、履修価値があった科目の割合はどの程度ですか。

「有用な科目はほとんどなかった」または「有用な科目は少なかった」とする回答が 2008 年度をピークに減少傾向にある。一方、「有用な科目が多かった」または「大部分の科目は有用であった」とする回答は漸次増加し、2011 年度には約 50%に達している。改善傾向が認められる。

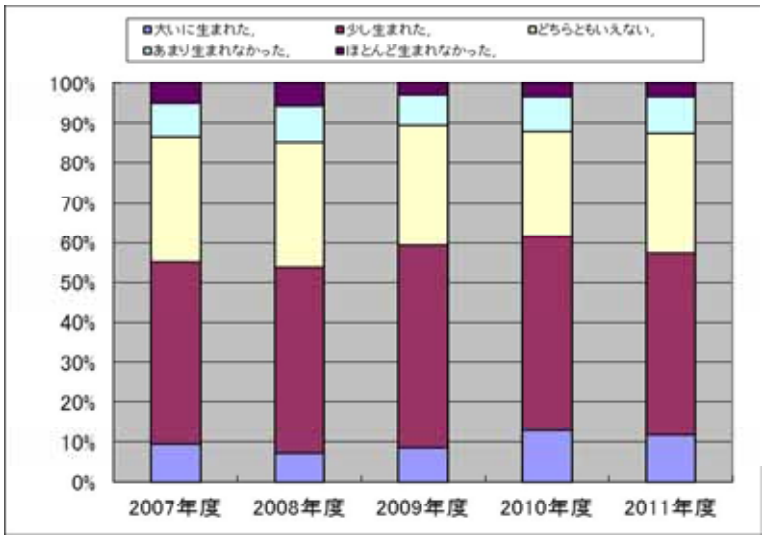


[12-2]受講した実験・実習科目の中で、自分自身の成長のために有用であり、履修価値があった科目の割合はどの程度ですか。



「有用な科目はほとんどなかった」または「有用な科目は少なかった」とする回答は, 約 10%で推移している。一方、「有用な科目が多かった」または「大部分の科目は有用であった」とする回答は 2010 年度まで増加傾向にあったが、2011 年度には若干減少した。

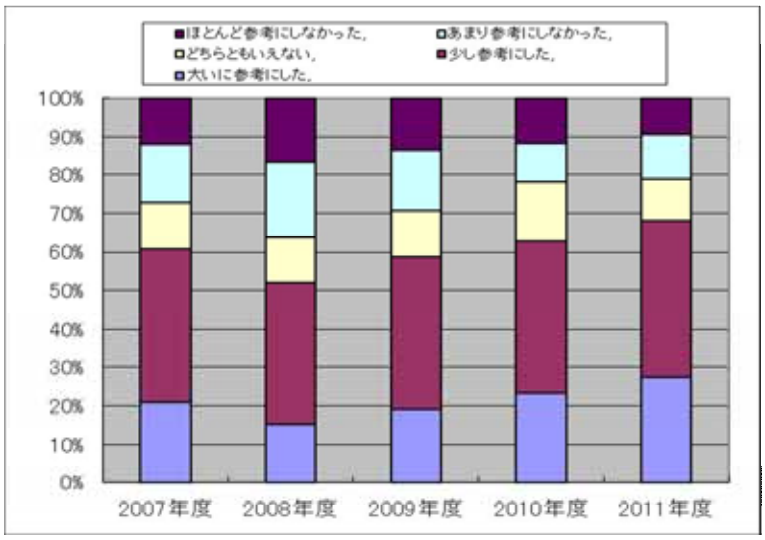
[13]大学における教育により、将来への自信や意欲が生まれましたか。



「ほとんど生まれなかった」または「あまり生まれなかった」とする回答、「大いに生まれた」または「少し生まれた」とする回答には、多少の変動は見られるものの、大きな変化は見られない。

[14]講義科目を選択する際に、シラバスを参考にしましたか。

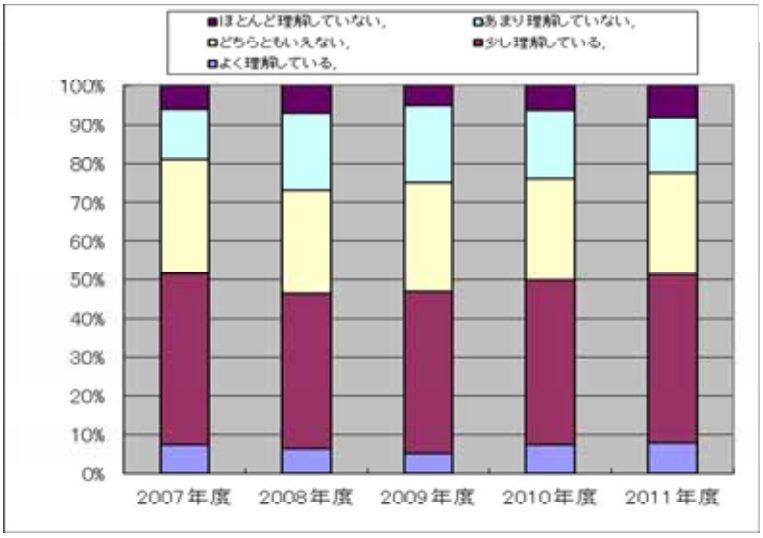
「ほとんど参考にしなかった」または「あまり参考にしなかった」とする回答は 2008 年度以降、減少傾向にあり、2010 年度からは 20%を若干上回る程度になっている。「少し参考にした」または「大いに参考にした」とする回答は 2008 年度以降、増加傾向にあり、2010 年度から 60%を超えている。2008 年度以降、改善傾向が認められる。



[15]カリキュラムについてお尋ねします。

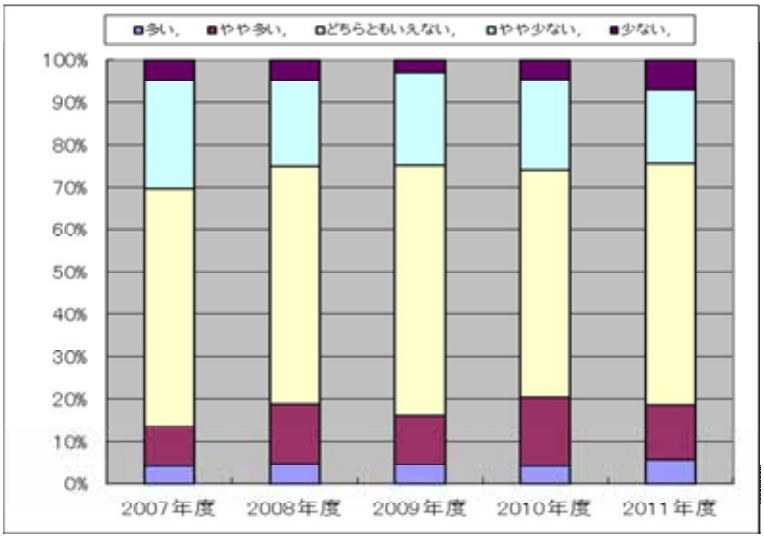
[15-1]カリキュラムの中で、科目間のつながりを理解していますか。

「ほとんど理解していない」または「あまり理解していない」とする回答は約 20～30%、「少し理解している」または「よく理解している」とする回答は 50%前後を推移している。2008 年度以降、前者は減少、後者は増加しており、改善傾向が認められる。



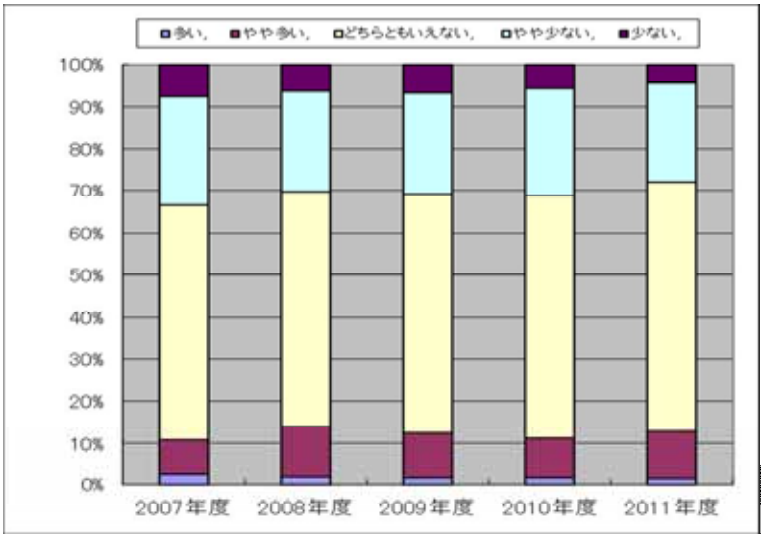
[15-2]カリキュラムの中で、実験・実習科目の比重は多いと感じますか、少ないと感じますか。

「少ない」または「やや少ない」とする回答は 2007 年度には約 30%であったが、それ以降は減少し、2008 年度以降は約 25%となっている。「やや多い」または「多い」とする回答は 2008 年度以降、20%弱で推移している。



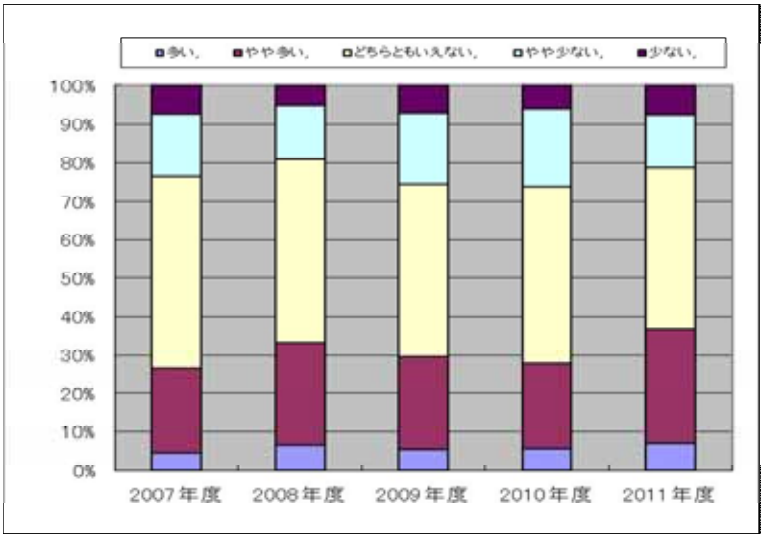
[15-3]カリキュラムの中で、演習時間の比重は多いと感じますか、少ないと感じますか。

「少ない」または「やや少ない」とする回答は、約 30%となっている。「多い」または「やや多い」とする回答は約 10%で変動している。「どちらともいえない」が例年 50%以上を占めている。



[16]受講した科目全般について、教育への熱意があった担当教員の割合はどの程度ですか。

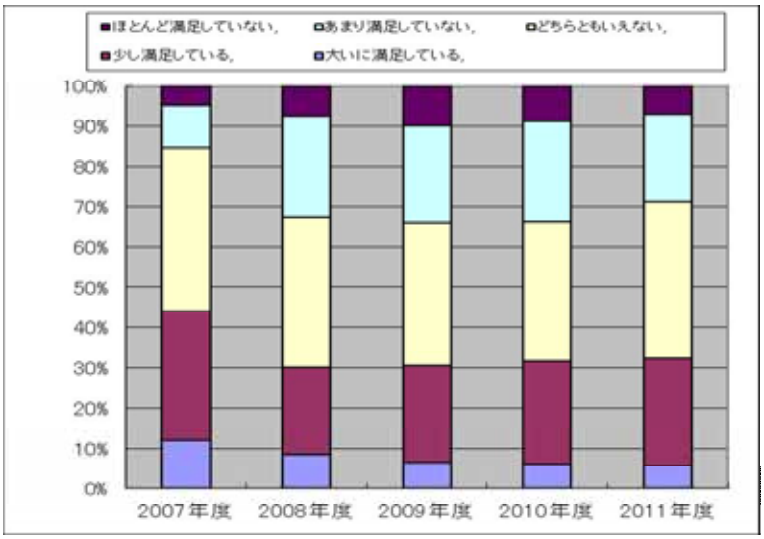
2008 年度に、「多い」または「やや多い」とする回答が 30%を超え、「やや少ない」または「少ない」とする回答が 20%を下回った。その後、前者は減少し、後者は増加する傾向にあったが、2011 年度には改善された。



[17]成績評価についてお尋ねします。

[17-1]成績評価（秀、優・良・可・不合格・未履修）に満足していますか。

2008 年度に、「大いに満足」または「少し満足」とする回答が約 30%に減少したが、その後、徐々に改善している。一方、「あまり満足していない」または「ほとんど満足していない」とする回答は 2008 年度に 30%を超えたが、2011 年度になって改善が見られる。



[17-2][17-1]でD（あまり満足していない）またはE（ほとんど満足していない）と答えた方：その理由は何ですか。

種々の理由が挙げられている。自己反省的な内容も多い。

- **ＧＰＡが低いため**
- **ＧＰＡが低い**
- **ＧＰＡが低い。**
- **もう少し熱心に勉強すればよかった。**
- **後悔が残っている**
- **もっと勉強すればよかった**
- **再試で合格したものが多かった。**
- **ＧＰＡが低い**
- **もっと勉強すれば良かった**
- **もう少し勉強すれば良かったと考えたため**
- **院試の成績だけが悪かった**
- **レポートの採点など教員の気分で変わっていたことがあった**
- **勉強不足**
- **評価が可のものが多かったから**
- **成績のバラつきが多かった**
- **未リシュウが多いので**
- **あまり理解できず、その結果としての成績だから**
- **勉強不足のため**
- **勉強不足でテストがあまりよくなかった**
- **成績はあまり優れていなかったため**
- **自分の勉強不足**
- **テストが上手くいかなかったことが多いから**
- **もう少し勉強すれば良かった**
- **その時はいっぱいいっぱいだったが、今振り返ると努力が足りなかったかなと思ったから。**
- **専門分野はおおむね良い成績であったが、数学や人文科目で全体的な成績が下がってしまったので。**
- **勉強の仕方をよく分かってなかったから**
- **勉強を怠ったから。**
- **成績が悪かったから**
- **点数が悪かった**
- **良い成績ではなかったため**
- **勉強してないから。**
- **もう少し点数を取れると考えているため**
- **勉強が足りなかった**
- **もう少し前日に覚えておくべきことが出来ていなくて下がった教科があった**
- **今考えると、もう少し勉強しておけばよかったと思うから**
- **自覚が足りなかった**
- **工学専門科目、数学系科目の成績がよくなかったため**

- 科目によっては修得難度に差がありすぎたため
- 自分の努力不足
- 不可であった科目が多かった
- 成績が悪いから
- 留年したから
- 可を目標にする科目がどうしても出てくるから
- 全体的に点が悪い
- 勉強しなかった自分が悪いとはいえ、悪い成績であるため
- わるかった
- テストのための勉強になってしまった。考えるよりも覚えるの方が多かった。
- あまりよろしくなかった
- 自分の勉強不足
- 悪いから、ＧＰＡ2です。
- テスト前にしか勉強せず、あまり良い成績でないから。
- あまり理解できなかったから
- 成績が悪かった
- ＧＰＡが悪い
- 悪い
- あまり勉強してない
- 自分の成績があまり良いわけではないから
- 努力が足りませんでした
- 自身の努力が足りなかった。
- 成績のつけ方に不満がある
- 研究室の配属において、あまりに成績を重視し過ぎだから。
- もっと良い成績を残せたと思うから。
- 1年、2年にさぼりすぎた
- 2年生時のＧＰＡが低すぎた
- もうちょっと勉強すれば良かった。
- 単位がおもうようにとれなかったため
- 物理が前から苦手なので苦労した
- 勉強のやり方がわかっていなかったため
- ＧＰＡが低いため
- 自分自身の努力が足りなかったこと
- もう少しがんばれた
- 同じ科目であっても、先生の違いがＧＰＡに大きくかかわることがあった
- テスト前以外にまじめに勉強していない
- もう少し根本的な所から勉強すればよかったと思う
- 点が悪い。
- 1年生の時もっと頑張ればよかった。
- 成績が良くないから

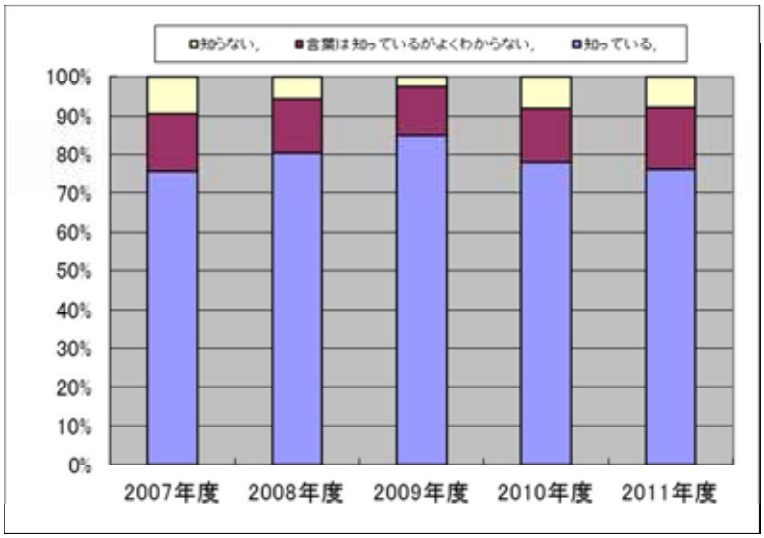
- 常日頃の勉強が足りていなかった
- 真剣に学習すべきだった
- 留年をしてしまいましたが、それなりに勉強できたため
- 妥協しなかったら、より理解を深めることができたため
- 成績が悪かった
- 成績が悪いから
- 学習時間が足りず、成績が良くなかったため
- まだ努力するべきところがあった
- 自分の勉強不足
- 学ぶ意欲が足らず、やらされてる感が強かった
- あまり内容を理解しないまま、試験を受けていたから
- 自分の勉強不足
- ＧＰＡが低い
- 留年してしまったから
- ＧＰＡがひくい
- ＧＰＡが低い
- もっと勉強すればよかったと思うから。また、就職や進学等に役立つから
- 勉強しなかったから
- 勉強不足
- 理解するのに時間がかかる
- 低ＧＰＡ
- サークルに力を入れすぎて勉強が疎かになっていたから
- 勉強不足
- 再試にかかるものが多く、もう少し勉強するべきであると考えたため
- 2年時の成績がよくなかったから
- 意欲が低かった
- 自分で勉強してないから
- 成績が悪いため
- もっと勉強するべきだったと思うから
- 勉強不足
- 自分の勉強不足
- 2留年しているため
- もっと勉強すればよかったと思うから。
- 理解できていない内容が多々あるため
- 単位は多く取得できたのに、結果ＧＰＡが下がった
- もっと熱心に勉強すればよかった。
- 成績不振
- 学習時間の不足
- 成績が悪かったので
- もっと良い成績がとれたのではないかと思うから

- **もっとやればよかった**
- **勉強不足でした**
- **自分の努力が足りなかった**
- **バイト、部活、また長時間の通学等であまり熱心に取り組めず成績が悪かった為。**
- **もう少し良くできたと思うため**
- **努力不足で良い結果が出せなかったから。**

[18]オフィスアワー（質問・相談時間）についてお尋ねします。

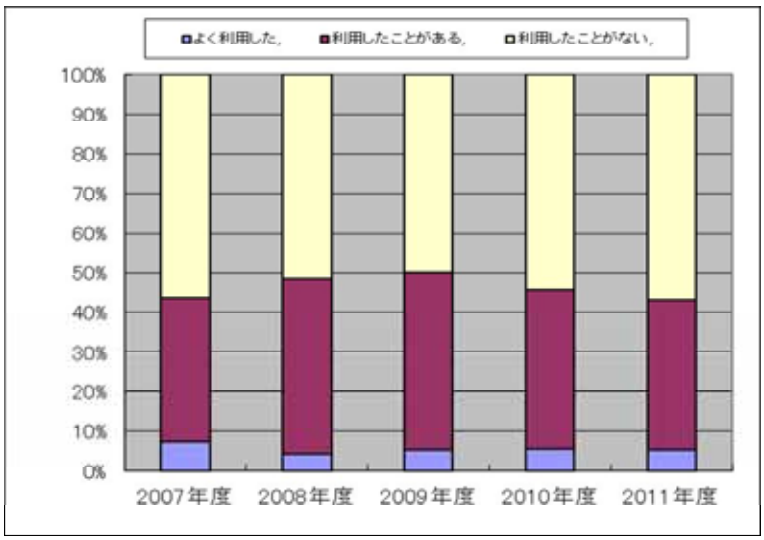
[18-1]オフィスアワーという制度を知っていますか。

「知っている」が例年約 80%あり、かなり周知されている。しかしながら、「知らない」とする回答もあり、改善の余地は残っている。



[18-2]オフィスアワーを利用して、教員に質問した経験がありますか。

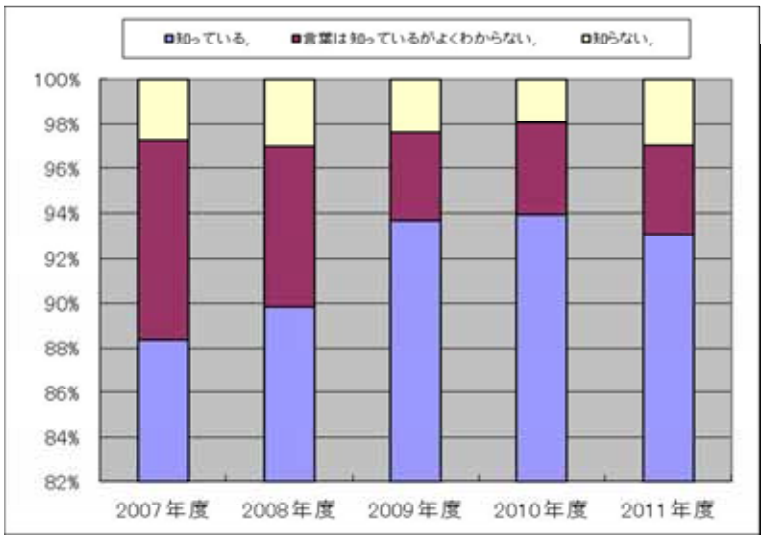
「よく利用した」または「利用したことがある」とする回答が 40～50%で推移している。利用していない者が多く、改善の余地がある。



[19]ティーチングアシスタント（ＴＡ）についてお尋ねします。

[19-1]ティーチングアシスタント（ＴＡ）という制度を知っていますか。

90%を超える者が，ＴＡ制度を「知っている」と回答しており、認知度は高い。ＴＡ制度は定着していると考えられる。



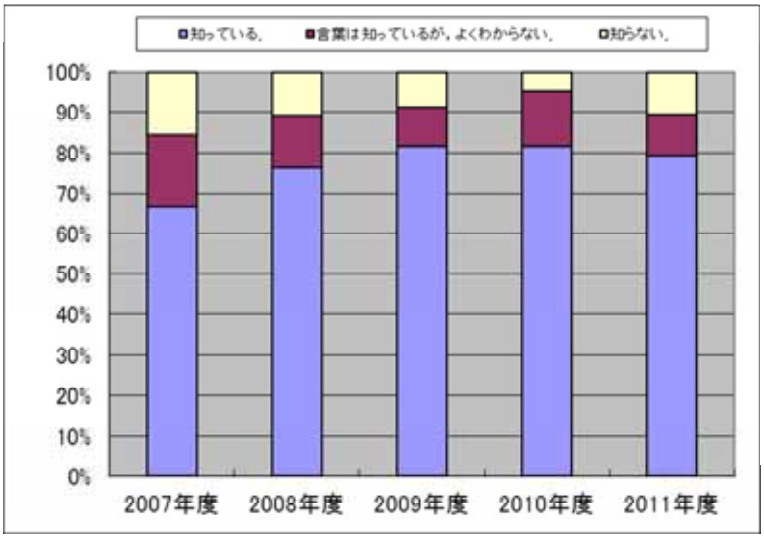
[19-2]ティーチングアシスタント（ＴＡ）に指導してもらった経験がありますか。（複数回答可）

「演習」「実験・実習」「講義時間外」のいずれかで指導を受けたとする回答が 90%を超えており、ＴＡ制度は定着している。

[20]指導教員制度についてお尋ねします。

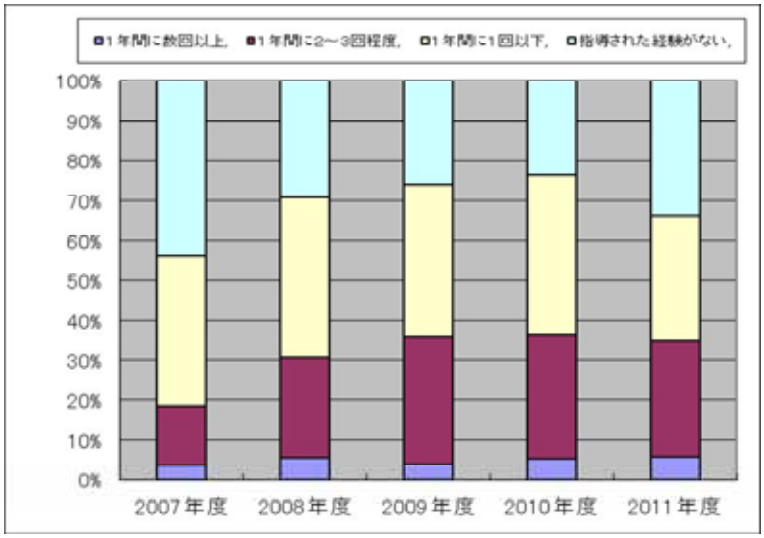
[20-1]指導教員制度を知っていますか。

「知っている」とする回答は、2007 年度には 70%を下回っていたが、それ以降は増加し、2009 年度からは約 80%に達している。一方で「知らない」、「言葉は知っているが、よくわからない」の回答が約 20%近くある。改善の余地がある。



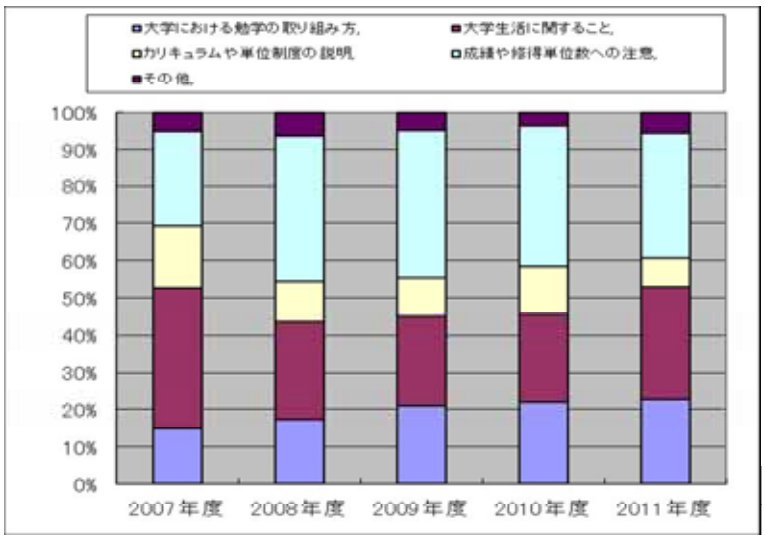
[20-2] 1 年生から 3 年生の間に、指導教員から指導やガイダンスを受けた経験がありますか。(受けた経験のある方は、1 年間の平均的な回数を答えて下さい。)

指導された経験を有するとの回答が 2011 年度になって若干減少し、経験が無いとする回答が増加した。今後の動向に注意する必要がある。



[20-3] [20-2]でA（1 年間に数回以上)、B（1 年間に 2～3 回程度)、C（1 年間に 1 回以下）のいずれかを答えた方：1 年生から 3 年生の間に、指導教員から指導を受けた内容を答えて下さい。(複数回答可)

勉学の取り組み、生活全般、カリキュラム、単位、成績のいずれも話題になっている。「その他」としては、進路、就職に関するものが多い。



E（その他）[具体的に：　　]

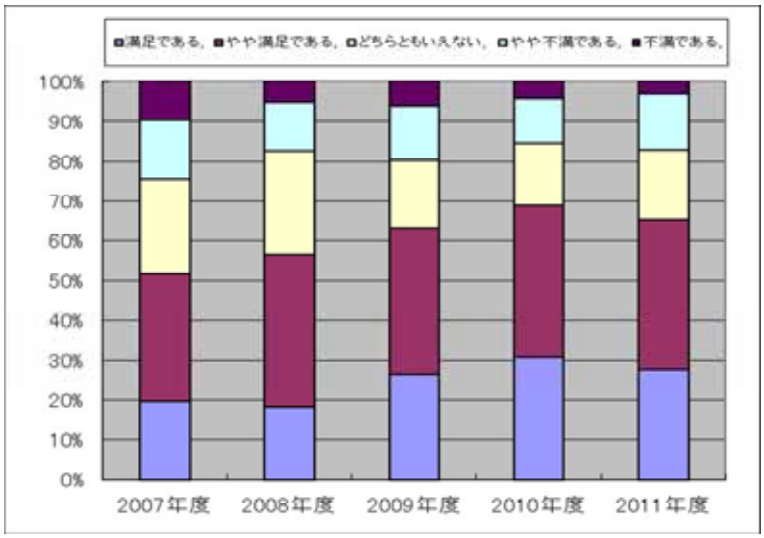
- **特に覚えていない**
- **進路**
- **進学か、就職について**
- **就職活動について**
- **公務員としての研究と大学での研究の違い、別の大学、それも昔の大学のやり方との比較から、今すべきこと。**
- **進路相談**
- **進路について**
- **ＯＤＵについて**
- **将来の進路、サークルや課外活動**

- **進路について**
- **成績や修得単位数、生活について現状の報告を行った。**
- **進路について**
- **就職活動についてのアドバイス**
- **就活**
- **就職活動について**
- **授業料について**
- **世間ばなし。部活についてとか。**
- **将来について**
- **成績の報告**
- **進路など**
- **進路のこと**
- **資格取得について**
- **進路**
- **進路**
- **毎週月曜日にモーニングコールをしてくださっていた時期があります。**
- **就活についてのアドバイス、履歴書等の添削**

[21]施設や設備等についてお尋ねします。

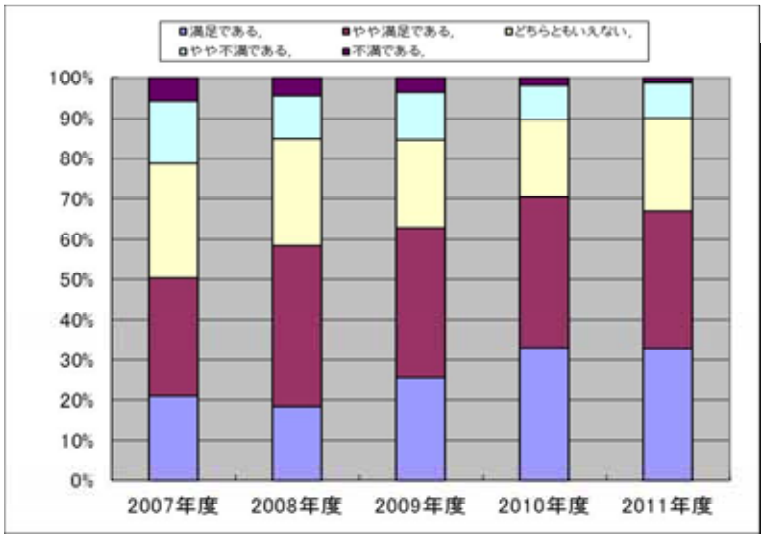
[21-1]教室の広さ、席数、明るさ等について、満足していますか。

「不満である」または「やや不満である」とする回答は、2008年度以降、20%以下に留まっている。一方、「満足である」または「やや満足である」とする回答は、2009 年度以降、60%を超えている。



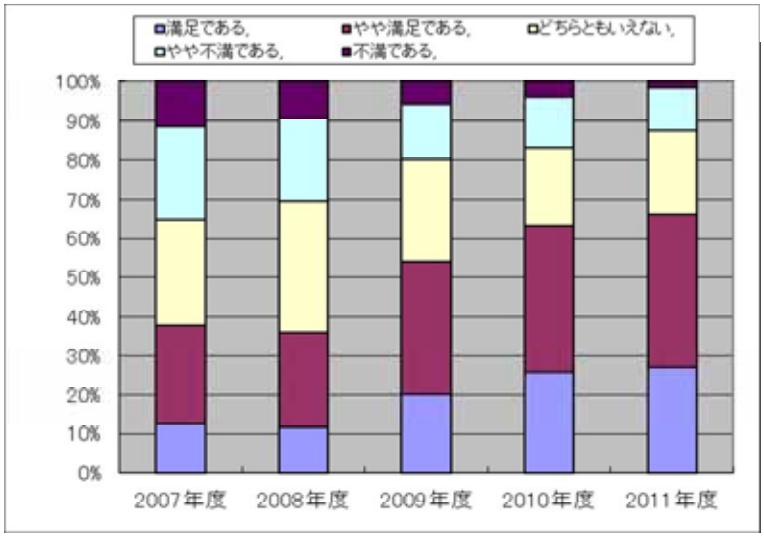
[21-2]必要な設備（マイク、OHP、プロジェクタ等）に満足していますか。

「満足である」または「やや満足である」とする回答は順調に増加し、2010 年度には 70%に達していたが、2011 年度には若干減少した。一方、「やや不満である」または「不満である」とする回答は、2011 年度も約 10%に留まっている。



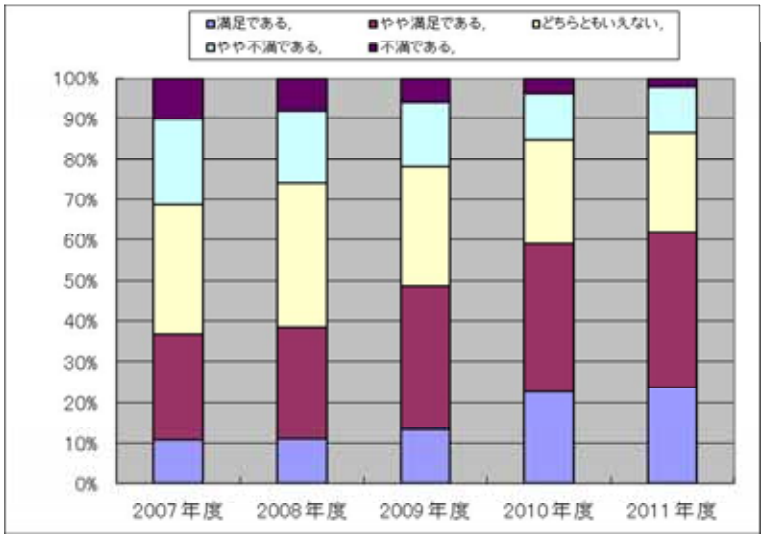
[21-3] 1 年生から 3 年生の間に利用した実験室・実習室の広さ、明るさ等について、満足していますか。

「満足である」または「やや満足である」とする回答は多少の増減が見られるものの、順調に増加しており、2011 年度には 65%を超えている。一方、「やや不満である」または「不満である」とする回答は 2011 年度には 10%近くにまで減少している。満足度に改善が見られる。



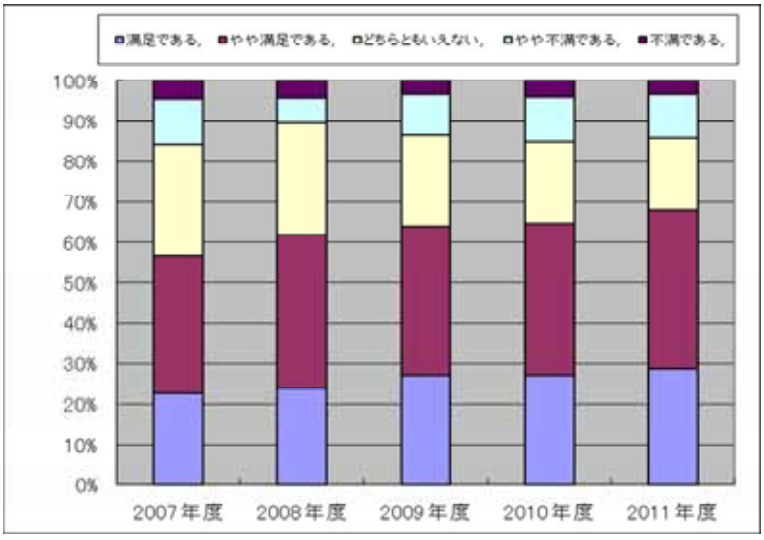
[21-4] 1 年生から 3 年生の間に利用した実験・実習に必要な設備・装置について、満足していますか。

「満足である」「やや満足である」とする回答は順調に増加しており、2011 年度は 60%を超えている。一方、「やや不満である」「不満である」は 15%以下にまで減少している。満足度は改善している。



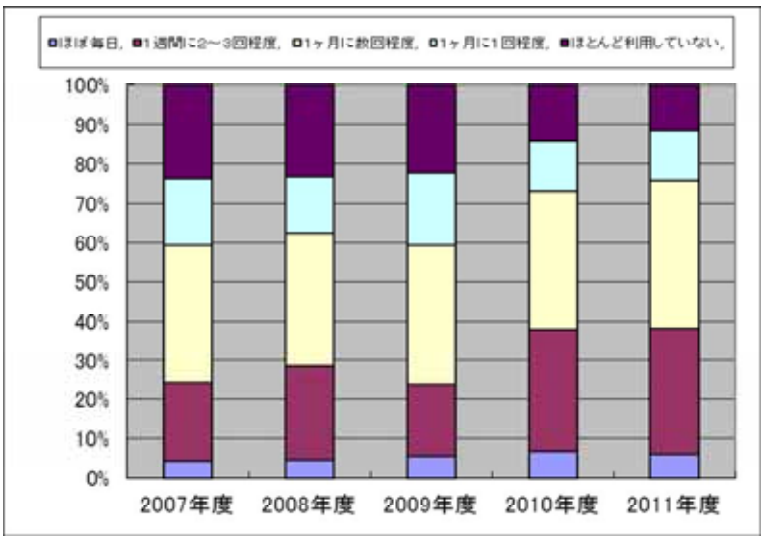
[22-1]情報機器（コンピュータ端末等）の整備状況について満足していますか。

昨年と比べて「満足である」、「やや満足である」の比率が増えており、改善の傾向が見られる。しかし、不満を感じている学生の比率も横ばいであり、さらなる改善の努力が必要である。



[22-2] 1年生から3年生の間に、講義以外でネットワークや情報サービス（ソフトウェア、教材を含む）を、どの程度利用しましたか。

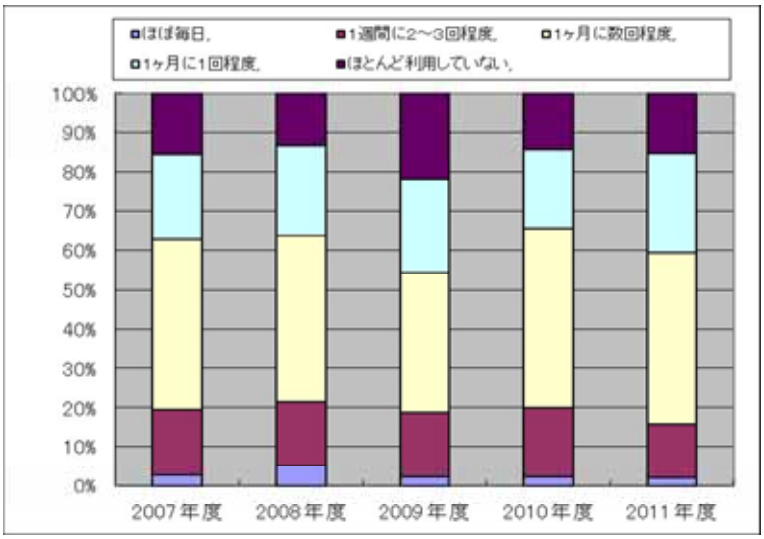
昨年に比べて、「ほとんど利用していない」が減少し、講義以外での利用も定着しつつあるように見える。



[23]図書館についてお尋ねします。

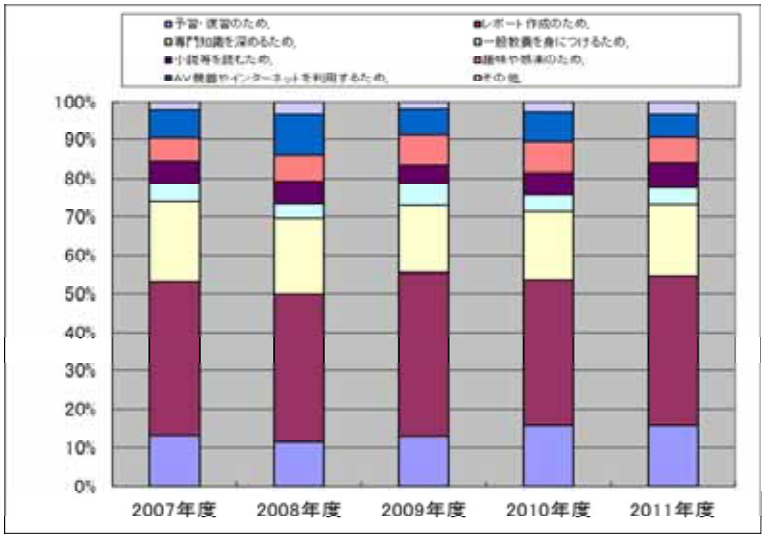
[23-1]図書館を利用している頻度はどの程度ですか。

「1ヶ月に1回以下しか利用しない学生」が増加しており、半数に迫る勢いである。図書館の利用を講義などで促す努力が必要であり、インターネットなどでは得られない情報が図書館には詰まっていることを教えるべきである。



[23-2]図書館を利用する主な理由を答えて下さい。（複数回答可）

昨年度と似た傾向である。「AV 機器やインターネットを利用するため」の比率が少なくなったのは、個人用情報端末の普及が進んだためであると考えられる。



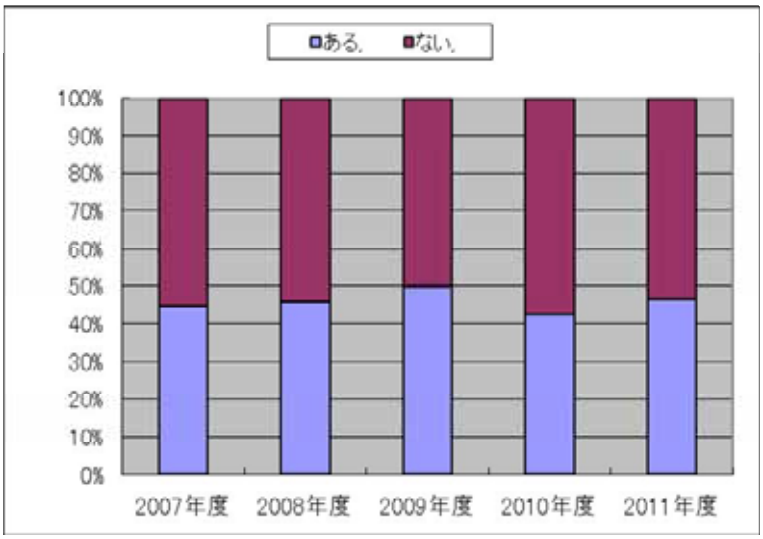
H（その他）　[具体的に：　]

- **試験勉強**
- **テスト勉強のため**
- **ＤＶＤの貸し出しのため**
- **テスト勉強**
- **ヒマつぶし**
- **テスト勉強のため**
- **テスト勉強**
- **試験勉強**
- **試験勉強**
- **テスト勉強するため**
- **成績を見るため**
- **ＴＯＥＩＣの勉強**
- **定期テストの勉強のため**
- **テスト勉強**
- **履修登録時**
- **新聞を読むため、リフレッシュするため**
- **専門雑**
- **試験勉強**
- **新聞紙を読む**
- **テスト勉強**
- **テスト勉強のため**
- **テスト勉強のため**
- **試験勉強**

- **ひまつぶし**
- **就職活動**
- **テスト勉強**
- **卒論作成**
- **新聞を読むため**
- **テスト勉強をする為**
- **待ち合わせ**
- **研究のため**
- **テスト勉強**
- **ひまつぶし**

[24]工場見学やインターンシップ（工場実習）についてお尋ねします。

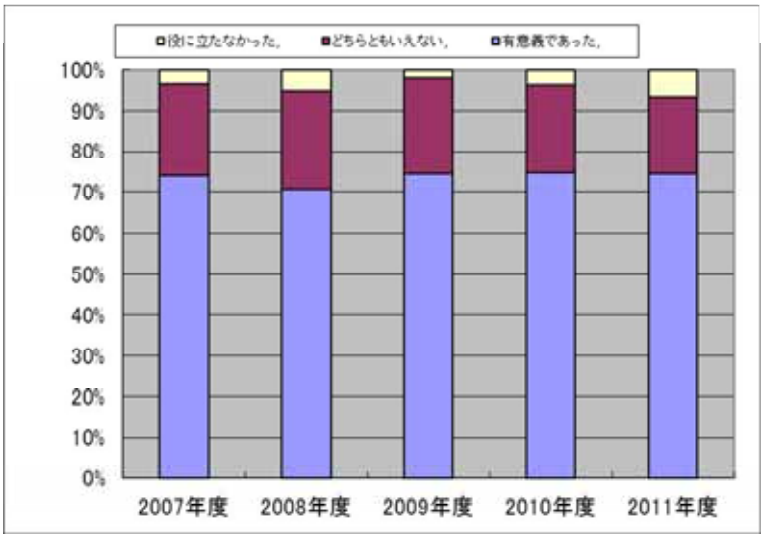
[24-1]工場見学やインターンシップに参加した経験がありますか。



ここ数年インターンシップ参加者は 40%～50%の範囲で横ばい状態である。就職前に現場の内容や雰囲気を少しでも知ることは重要であり、半数以上の卒業生が経験していないという事実は無視できないものと思われる。大学側もさらなる改善へ向けた努力が必要である。

[24-2][24-1]でＡ（ある）と答えた方。工場見学やインターンシップに参加した経験が、自分自身の成長のために有意義であり、履修した価値がありましたか。

　ここ５年間では大きな変化はなく、７０％のインターンシップ経験者が有意義と答えている。インターンシップ参加者が増大するよう今後も努力が必要である。



２．２　２０１１年度修了生アンケート（工学府・工学研究科）

※アンケート実施年月日　平成２４年　２月３日

※アンケート回収率

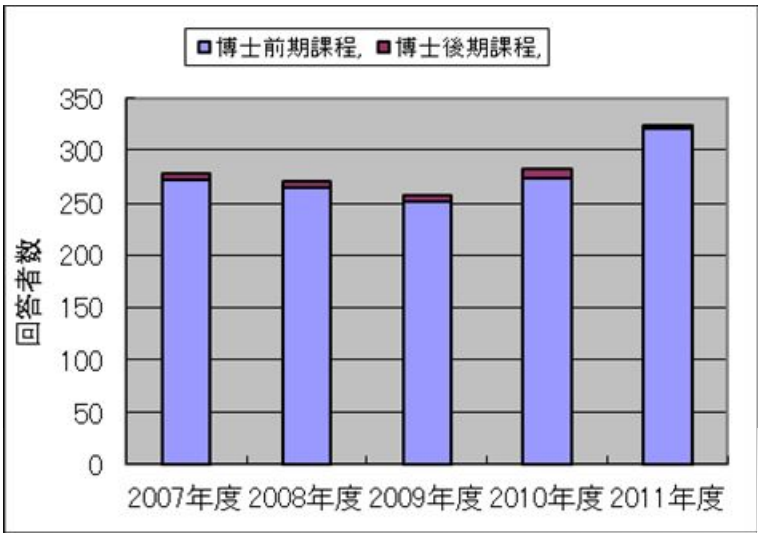
課程	配付枚数	回収枚数（回答率）
博士前期課程	３７０枚	３２７枚（88.4%）
博士後期課程	９枚	３枚（33.3%）

[1]あなたの課程、専攻についてお答え下さい。

[1-1]あなたが修了される課程は何ですか。

Ａ（博士前期課程）３２１名

Ｂ（博士後期課程）　３名



本年度の博士前期課程の回答者数は90%近く、かなり高い回答率である。博士後期課程は母数が小さいから変動で一喜一憂することはないが、アンケートの趣旨を理解してもらう努力は続ける必要がある。

[1-2]あなたが修了される専攻は何ですか。

機械知能工学：９０名

建設社会工学：２９名

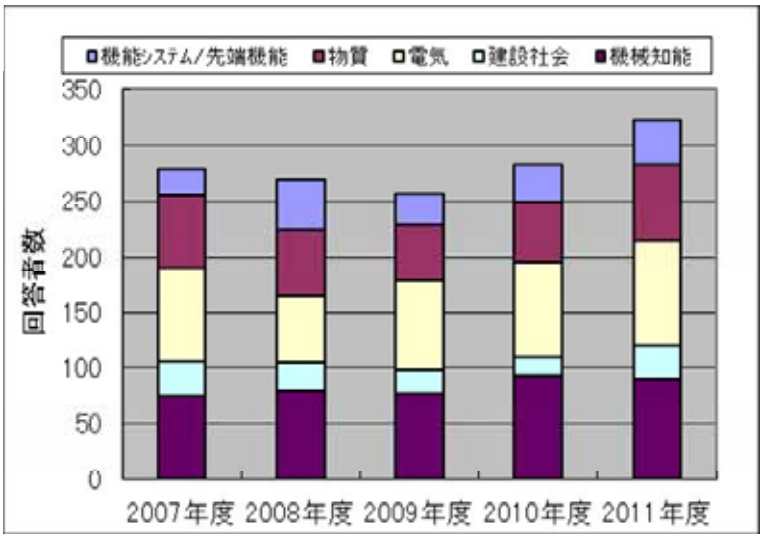
電気工学　　：９５名

物質工学　　：６９名

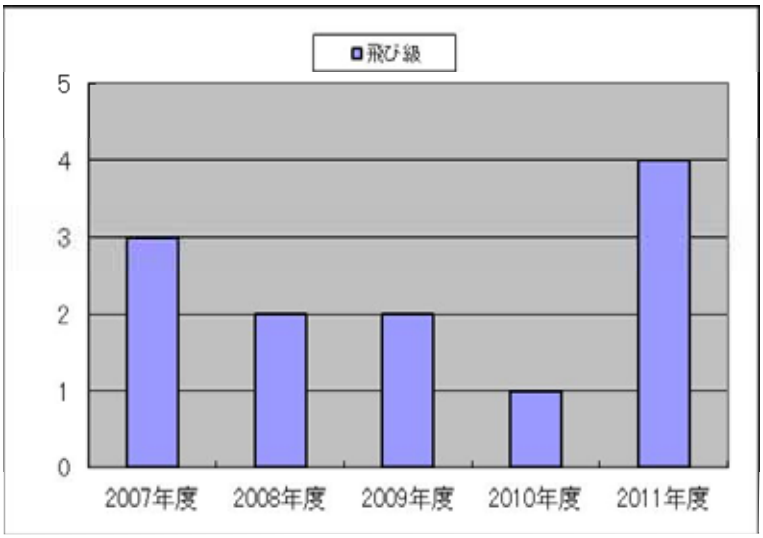
機能システム創成工学

／先端機能システム工学

：４１名



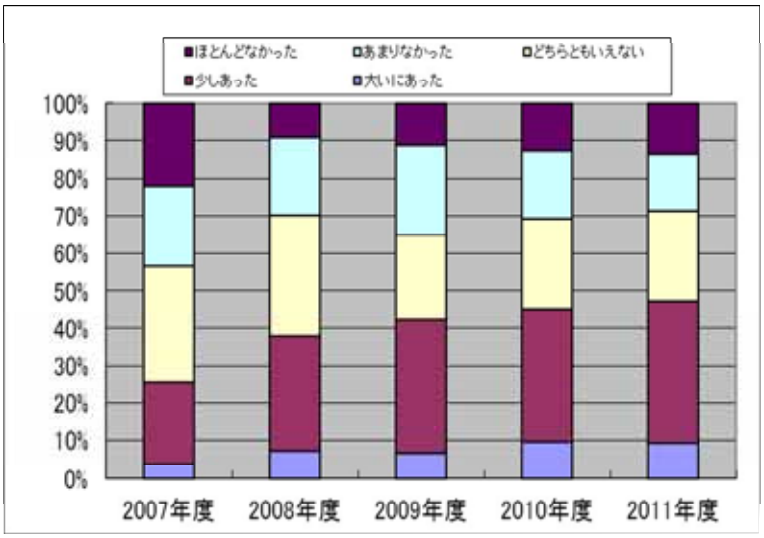
[1-3]飛び級入学の方は［　］に○を入れてください。　**［4名］**



飛び級の入学者の数は４名と、ここ数年では最も多かった。飛び級は多ければよいというものではないため、現時点では、調査を継続的に実施し、将来、飛び級にまつわる問題を検討しなければならない時の資料とすべきである。

[2]工学府・工学研究科における大学院教育があなたの成長（自己形成）に及ぼした効果についてお尋ねします。

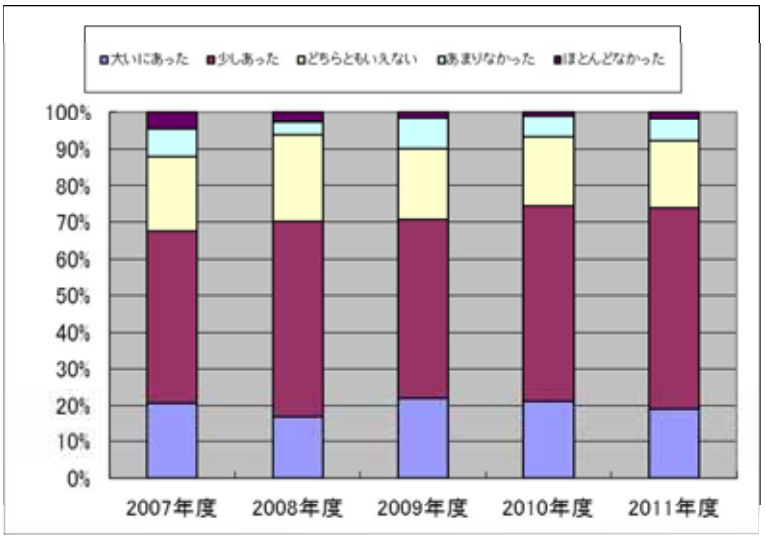
[2-1]外国語科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。（受講生のみ）



「大いにあった」、「少しはった」が、序々ではあるか増加しっている。また、「あまりなかった」、「ほとんどなかった」の比率も、近年、徐々にではあるが減少している。これは良い傾向であり、今後も、社会人になった時に外国語でのコミュニケーション能力が重要であることを認識させ、「あまりなかった」「ほとんどなかった」の比率を小さくして行く努力が必要である。

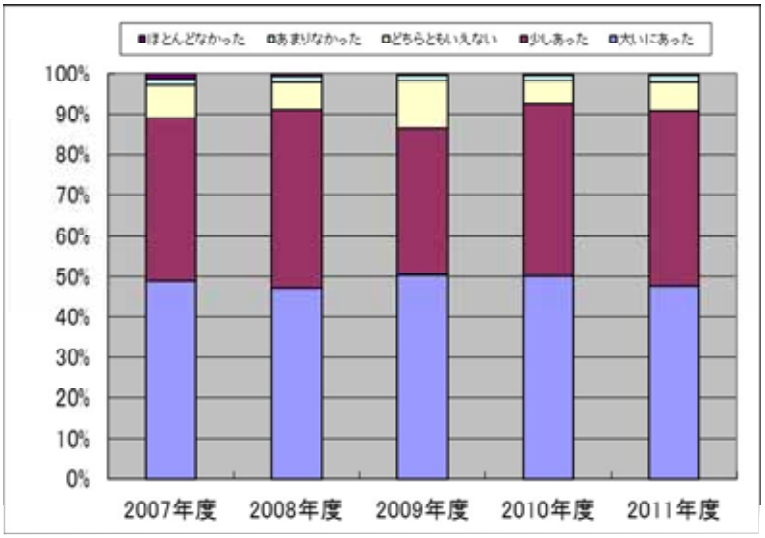
[2-2]共通科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。

昨年度と同様の傾向を示し、共通科目の教育効果については、「少しはある」以上が７０％の水準にあり、一定の効果を果たしていると思われる。



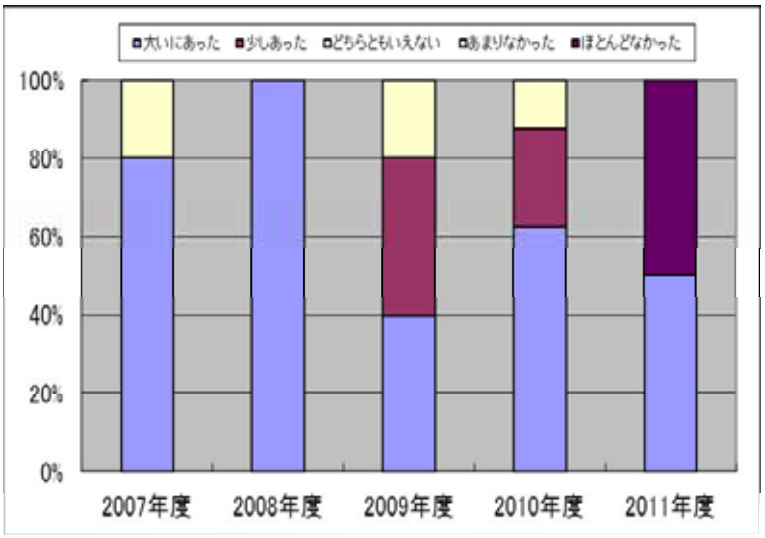
[2-3]専門科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。

安定した推移を示し、ここ5年間は大きな変化はない。「少しはある」以上が９０%以上ということから専門科目の自己形成に対する高い影響力がうかがえる。しかしながら、「大いにあった」が５０%を切ったことには、今後の傾向を注意する必要がある。



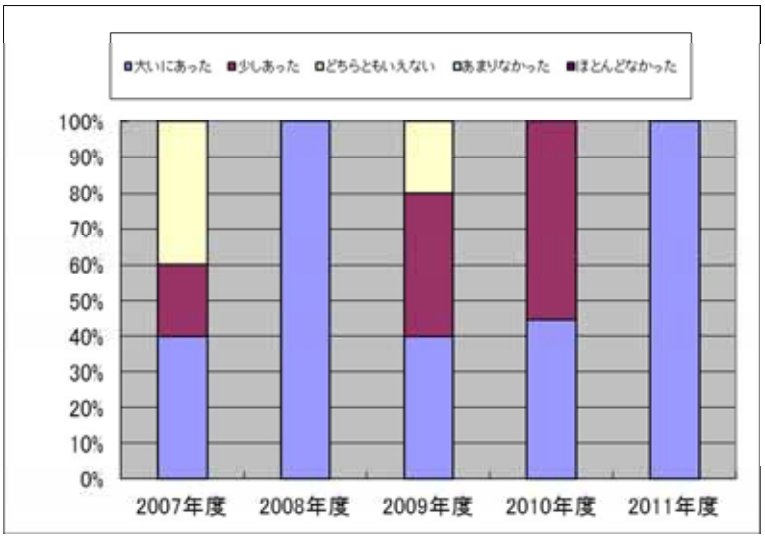
[2-4] 学外研修・特別演習はあなたの自己形成に効果がありましたか。（博士後期課程の方のみ）

博士後期課程の回答者は３名中２名で、１名が「大いにある」、１名が「ほとんどなかった」である。回答数が２名であることや、本人の自己努力によるところもあり、一概にアンケート結果から議論すべきではない。博士後期課程の学生数が少ないことを考慮すれば、事前の準備をきちんとして、100%「大いにある」になるべきであろう。



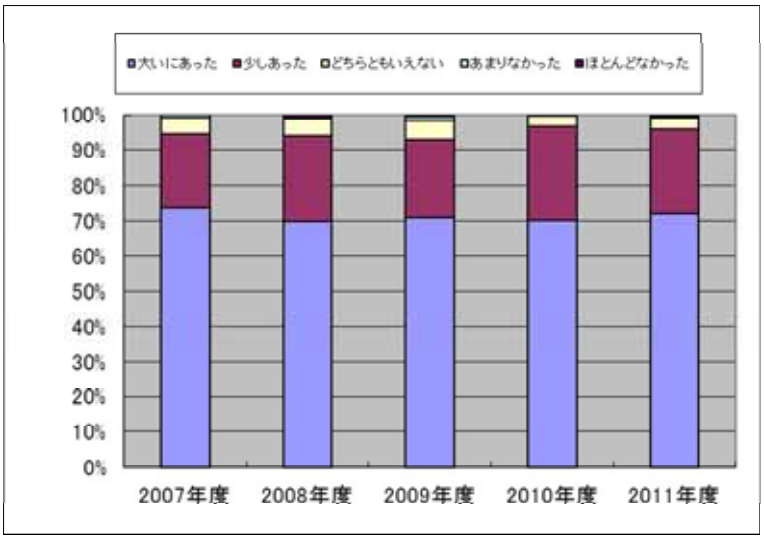
[2-5] プロジェクト研究はあなたの自己形成に効果がありましたか。（博士後期課程の方のみ）

回答した２名が「大いにあった」と評価しているので、一定の効果はあったと判断できる。しかし、統計データとしての有効性の判断には慎重を要する。



[2-6] 学位（修士・博士）論文のための取組みはあなたの自己形成に効果がありましたか。

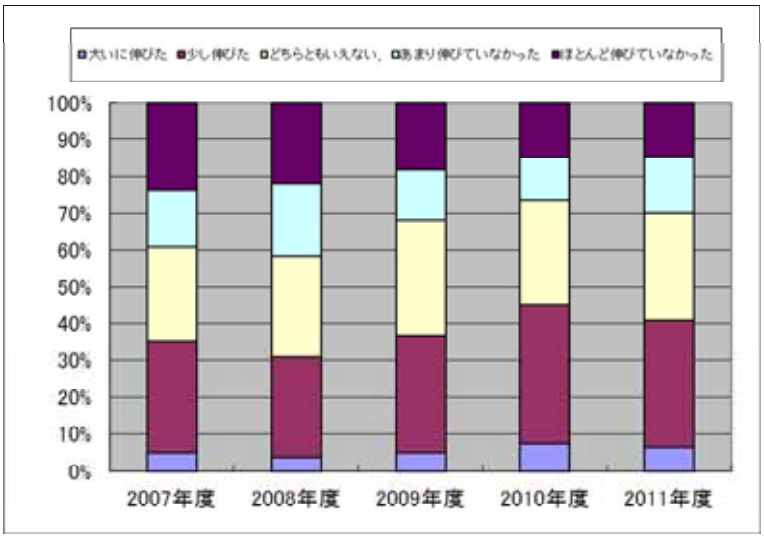
近年増加傾向にあった「大いに伸びた」、「少し伸びた」が減少に転じており、これが一過性のものなのか、今後の傾向に注意が必要である。



[3]英語力についてお尋ねします。

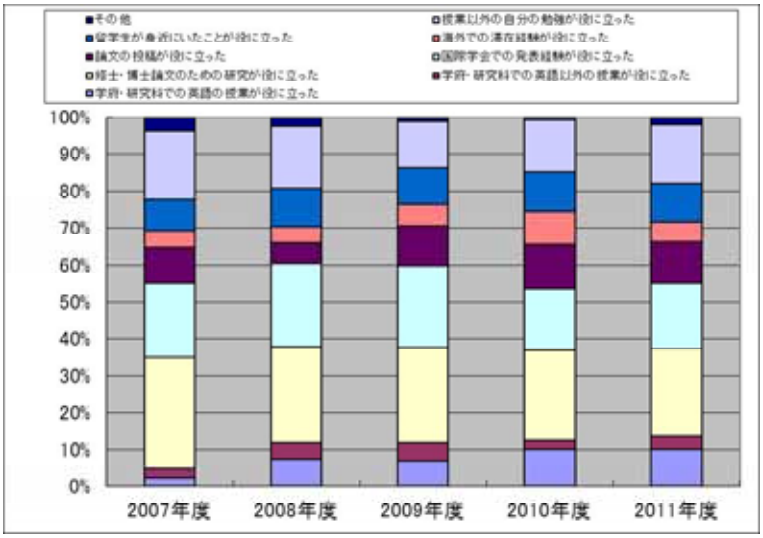
[3-1] 研究科の在学期間であなたの英語力は伸びましたか。

近年増加傾向にあった「大いに伸びた」、「少し伸びた」が減少に転じており、これが一過性のものなのか、今後の傾向に注意が必要である。



[3-2][3-1]でA（おおいに伸びた）またはB（少し伸びた）と回答された方：その理由は何ですか。（複数回答可）

ここ５年間で全体の比率に大きな変化はない。強いて言えば、「授業以外の自分の勉強」が増加傾向にある。社会人になった時に外国語でのコミュニケーション能力が重要であることを、学生が強く認識するようになってきているのではないかと推察される。また、国際会議や論文投稿など、英語にふれあう時間に比例して学生が語学力を向上させたと考えられ、今後も英語にふれあう機会を増やすことが必要と思われる。



Ｉ（その他）［具体的に：　　］

- **ＴＯＥＩＣへの積極的な取りくみ**
- **ＴＯＥＩＣの勉強をしたから**
- **研修室での文献会**
- **意味のない英語の授業で満足せず、自分でやったから。**
- **内定した企業からｅラーニングをすすめられてやった**

[3-3][3-1]でD（あまり伸びていない）またはE（ほとんど伸びていない）と答えた方：その理由は何ですか。

社会に出てからの英語の必要性の認識不足、さらに英語に接する機会が少ないことなどから、英語学習

に対する努力の不足を自分自身で感じている。何れにしても「英語力」を必要とする機会増大の方策が望まれる。

- **勉強していなかったから**
- **あまり英語に触れていない**
- **学会発表で苦労した**
- **英語の授業が少ししかなく断続的な学習をしなかったから。**
- **英語を必要とする機会が多くなかったため。**
- **英語を読み書きする機会は多かったが、話す機会はなかった**
- **英語に接する機会が少なかった**
- **使用する機会があまり無かった**
- **触れることが少なくなったから**
- **英語科目を履修していなかったため、勉強不足だったから**
- **時間が足りなかった**
- **英語が嫌いなので一年のときしか受けなかった。2、3、4年M1M2 でも必修にした方がよかったかも**
- **姿勢**
- **英語の学習が十分でなかった**
- **モチベーションが上がらない**
- **英語科目の質が悪かった**
- **強制的に伸びる条件ではなかった**
- **自主的に英語を勉強しなかった。**
- **勉強していなかった。**
- **効率よく勉強をおさめれなかった。必要なものとの比較をしっかりみれたらよかった**
- **英語にふれるチャンスがあまりないから**
- **外国語に対して何の取り組みも行わなかった。**
- **受講していなく、勉強する機会をもうけなかったため**
- **在学期間中に英語を必要とする場面がほとんどなかったため**
- **英語の学習に時間を割けていなかった**
- **勉強しないから**
- **英語力を伸ばすための努力をしていないため**
- **勉強しなかった**
- **英語に接する機会が少なかった**
- **英語に関する勉強をほとんどしなかった為**
- **英語を使う機会が少なかった**
- **英語に触れる機会があまりなかったため**
- **英語を学ぶ機会が減り、忘れてしまったため**
- **自己の努力が足りなかった**
- **論文を読むことにしか使わなかった。**
- **使うことがあまりなかったし、英語に関わりたくなかった**
- **授業数が少ない**
- **英語にあまりふれない**
- **授業が少なく自主的な勉強もあまりしなかった**

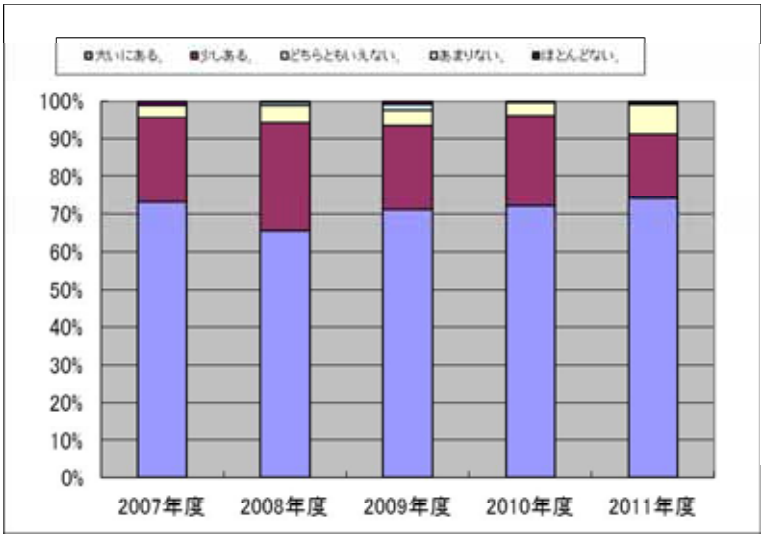
- 英語に触れる機会が少なかったため
- 英語を勉強する機会が少なかったため
- 海外に行く機会、外国の人と話す機会もなかった
- 自主的なＴＯＥＩＣ等への取り組みをあまり行わなかった
- 英語に触れる機会があまりなかった。
- 勉強不足
- 英語にふれる機会が少なかった
- 専門英語の勉強が多く、一般的なＴＯＥＩＣなどの英語力向上までにはいたらなかった
- 学部のときに比べて英語と関わることが減ったから
- 英語のマニュアルや論文を読む程度だったから
- 英語の勉強をあまりしなかった
- 英語を学ぶ又は使う機会が少なかった
- 論文作成のため文献を読むが、その分野の語彙力しかのびなかった
- 中々使う機会にめぐまれなかった
- 勉強不足
- 個人の努力不足
- あまり英語に触れなかった
- 一時的にしか勉強しなかったから
- 自分から積極的取り組めなかった
- 何もしていないのでむしろ落ちた
- 英語を使う機会があまりなかった
- 特に取り組むことがなかったため
- 英語を学ぶ使用する機会が少ないため
- 勉強不足
- 英語学習にかける時間が短かったため
- 使う機会が少ない
- 英語を勉強しなくなったから。
- 英語に触れる機会がない
- 勉強しなかったから
- 全く勉強しなかったので。
- 英語の学習が足りていない
- 使わなかったが
- ＴＯＥＩＣの点数はほとんど変わらなかった
- 英語よりも日々の実験が忙しすぎたため
- ＴＯＥＩＣの対策のみで実用向きでない。
- ほとんど取り組んでいなかったため
- 積極的に勉強していないので
- 自分から英語を進んで勉強していなかった
- 英語にふれる機会がなかったため。
- 入社した後でも伸びるため
- 英語に触れる機会があまり無かった

- **英語論文は専門用語さえわかれば読める。TOEICの点など実用面には結びついていない**
- **英語に対して積極的に取り組めなかった**
- **英語の勉強を怠ったから**
- **英語に興味を持てなかった。**
- **あまり勉強しなかったため**
- **大学院での英語授業はまったく意味なかった。あれを必修でやる意味が分からない。**

[4]学位（修士・博士）論文のための取組みについてお尋ねします。

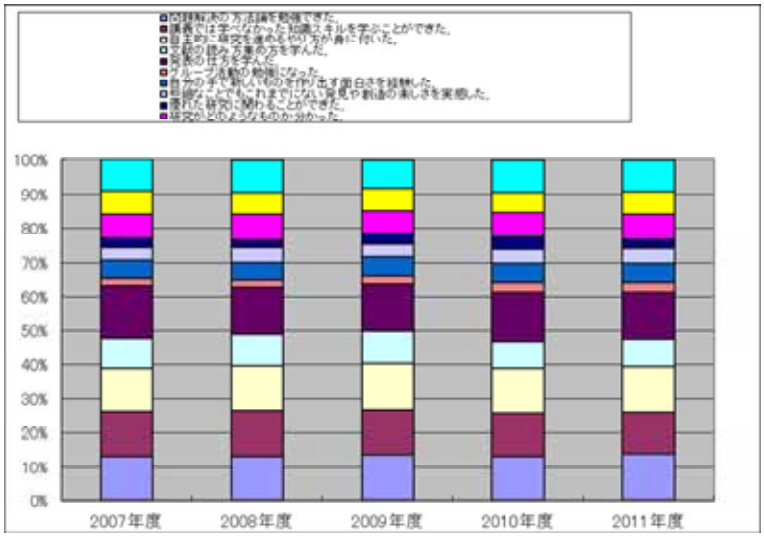
[4-1]学位論文の意義はあると思いますか。

ここ数年、９５%前後の学生が学位論文に意義を見出していたが、本年度のアンケートでは、やや減少傾向にある。この傾向が一過性のものであるかは、今後の動向に注意する必要がある。



[4-2][4-1]でA（大いにある）またはB（少しある）と答えた方：その理由は何ですか。（複数回答可）

ここ５年間比率に大きな変化はなく、課題解決の方法論、講義では学べない知識・スキルの取得、文献の読み方・集め方、発表の仕方が上位を占めており傾向は変化していない。



N（その他）［具体的に：　　］

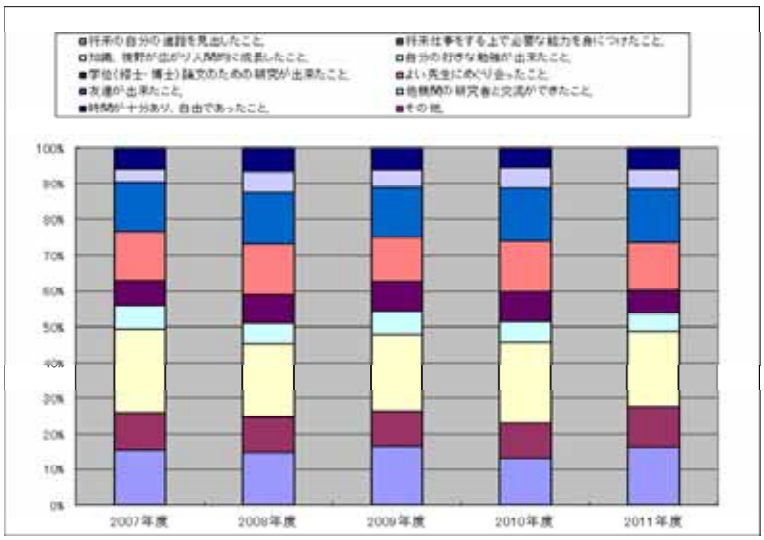
- **資料作成の知識が取得できた**
- **無知の知を実感した**
- **人間関係の大切さがわかった**

[4-3] [4-1]でD（あまりない）またはE（ほとんどない）と答えた方：その理由は何ですか。（複数回答可）

- **ただやっているだけ**
- **論文を書くというよりも発表した方が実質的な力になる**

[5]学府・研究科生活を振り返って、どのようなことが良かったと思いますか。（複数回答可）

昨年度とほぼ同じで「将来の自分の進路を見いだした」と「知識・視野が広がり人間的に成長した」、「友達ができた」「良い先生に巡り合えた」などが割合的に多く、研究生活が人生の一つの大きなかなめになっていることが分かる。



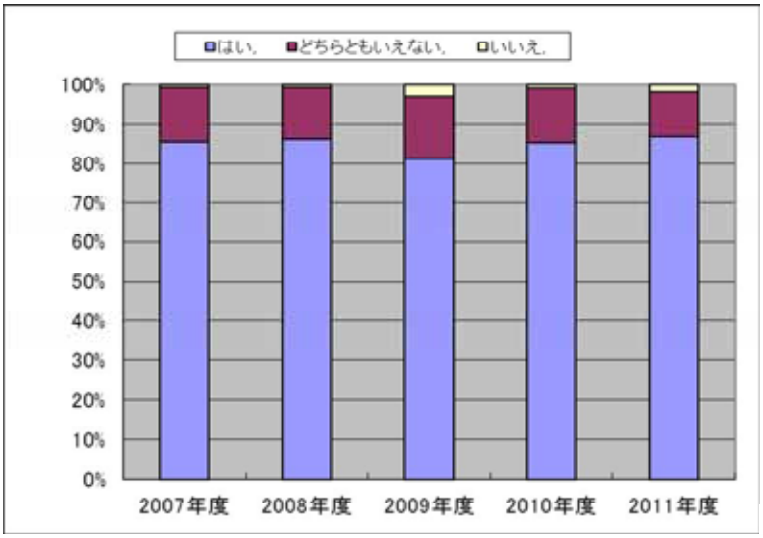
J（その他）［具体的に：　　］

- **学会発表は良い経験になった**

[6]入学した専攻についてお尋ねします。

ここ５年間、「はい」が高い値をしており、院生の意識の高さが伺える。

[6-1]現在の専攻に入学してよかったと思いますか。



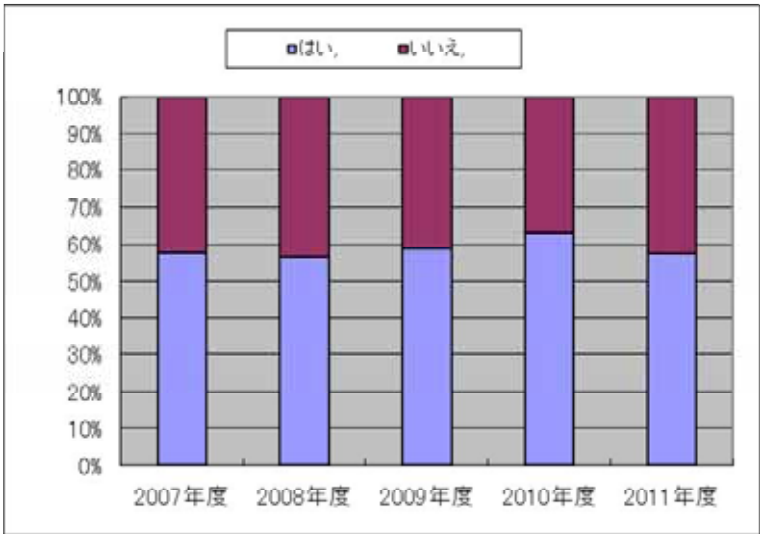
[6-2] [6-1]でC（いいえ）と答えた方：その理由は何ですか。

- **応用科学に行けばよかった**
- **機械や電気の方が大企業に入りやすそうだったから。**
- **公務員になりたかったので。**
- **他分野に興味があった**
- **機械の方が就職に強いため**

[7]進学時の目標についてお尋ねします。

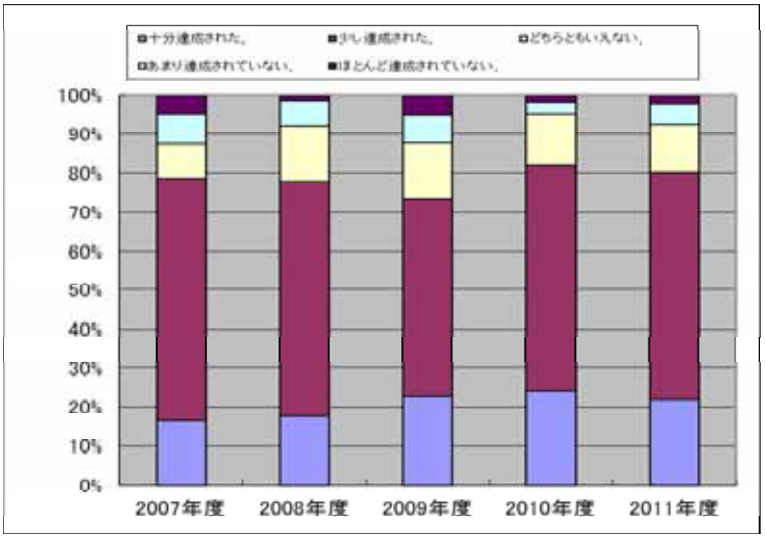
[7-1]あなたは進学の時に研究科で達成したい目標がありましたか。

昨年度と全く同じで目標を持って進学した院生の割合は60%近くある。もう少し比率が大きいことが望ましいが、学生の資質の問題もあり、増加をさせる努力をしつつ、今後の推移を慎重に見守る必要がある。



[7-2]でA（はい）と回答された方。現在どの程度達成されていますか。

達成感を有している院生の割合は80%程度、「ほとんど達成されていない」とする院生は5%程度であり、達成されたと感じている学生の割合が多い。比率については５年間大きな変化はないが、重要な項目であり、今後注意を払って推移を見守っていく必要がある。



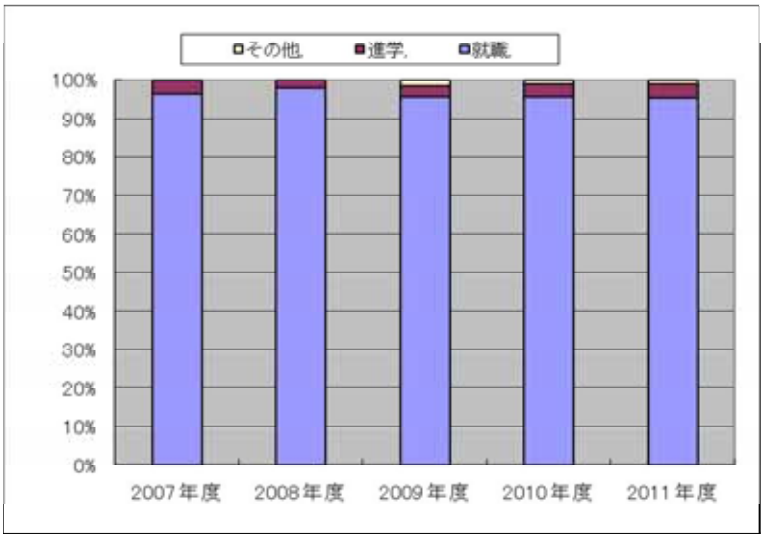
[8]学府･研究科在学中の学生生活の満足度に対して１００点満点で点を付けるとすれば何点と思いますか。

数年間大きな変動はなく、70%強となっている。さらに向上に向けた努力が必要であろう。

[9]修了後の進路についてお尋ねします。

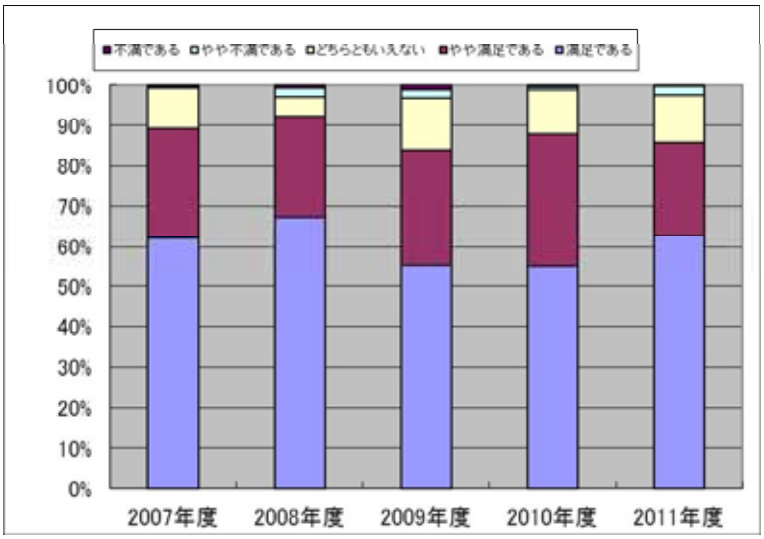
[9-1]あなたは修了後就職しますか、進学しますか。

数年間、就職する院生が95%以上で残りの学生が進学する傾向はここ数年変わらない。今後後期課程への進学率向上に向けた努力が必要であろう。



[9-2]あなたは修了後の進路に満足していますか。

修了後の進路に満足を感じている院生の割合は、少し回復した。社会情勢も影響していると考えられる。満足度向上のためには、今後、進路指導等についての努力が必要であろう。



[9-3] [9-2]でD（やや不満である）またはE（不満である）と答えた方：その理由は何ですか。

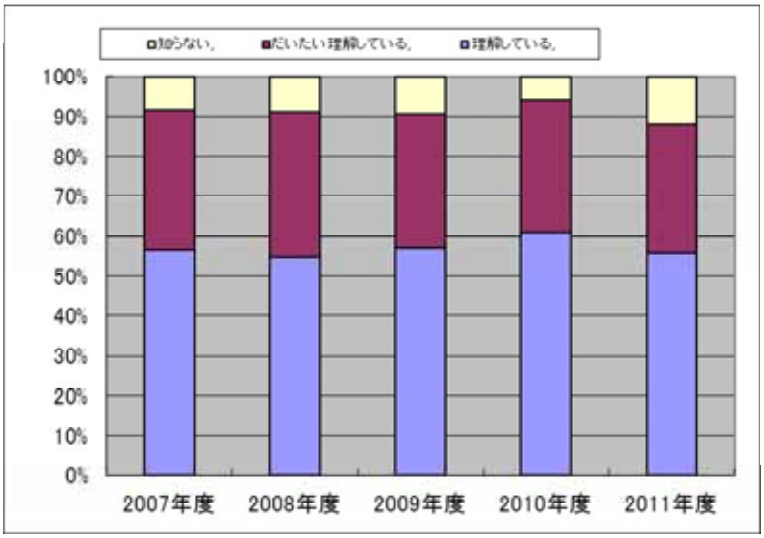
不満足感に加えて、不安感もあると思われる。

- **もっと力をつけたかった**
- **入りたかった企業ではないから**
- **希望の職種と少し違った**
- **進展なしよ‼**
- **就活が上手くいかなかったから**
- **中小だから**
- **希望通りでない**
- **第一志望の就職先ではない**

[10]研究活動についてお尋ねします。

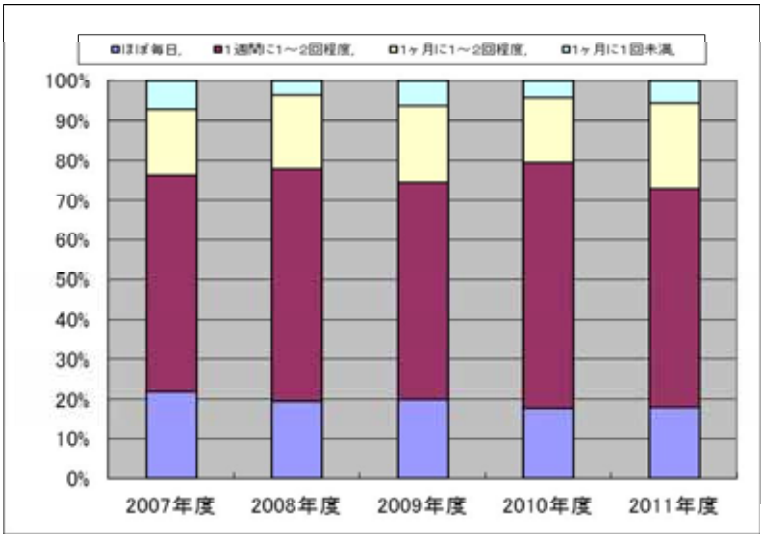
[10-1]進学時の研究室の配属決定方法を理解していますか。

研究室配属決定方法を知らない院生は10%前後で変わらない。さらなる周知徹底が必要であろう。



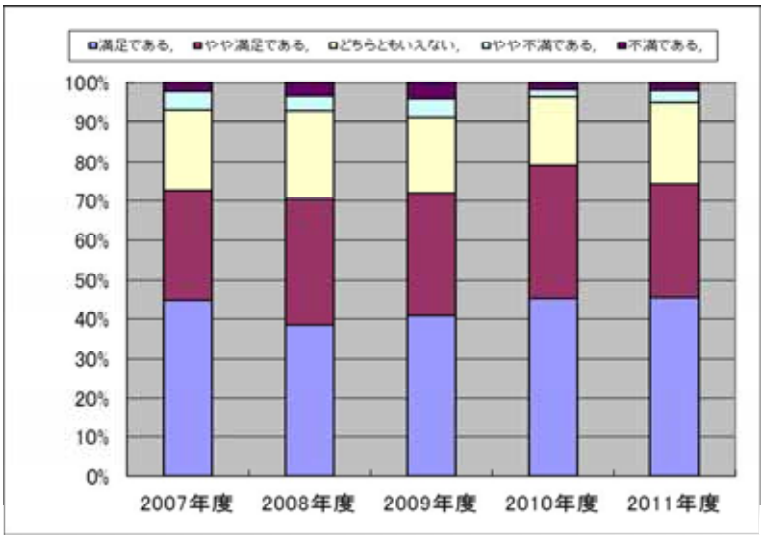
[10-2]研究指導はどの程度の頻度で受けましたか。

研究指導の頻度については、その割合は数年間変わっていない。「１週間に１～２回程度」が最も多く、「１ヶ月に１～２回程度」と「ほぼ毎日」が同程度であった。教員が院生の研究指導にもっと多くの時間を割けるような対策を講じる必要がある。



[10-3]あなたの研究に対する指導方法について、どのように思っていますか。

「不満である」と「やや不満である」と回答した割合が50%を超えている。院生の研究指導方法改善の努力・工夫を続ける必要がある。



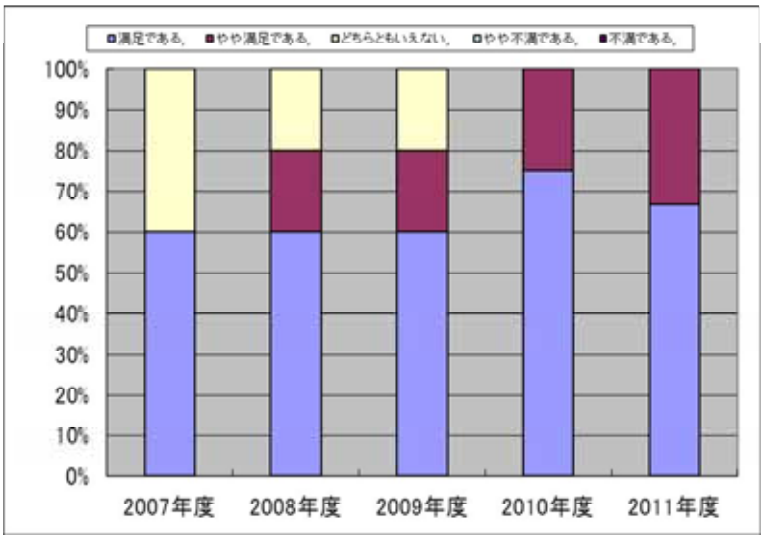
[10-4] [10-3]でD（やや不満である）またはE（不満）と答えた方：その理由は何ですか。

指導時間が少なかった点に不満を感じている様子が伺える。教員が院生の研究指導にもっと多くの時間を割けるような対策を早急に講じる必要があろう。

- **教授と学生が共有できる時間が限られていた**
- **10-3 の質問がよくわからない。**
  先生→私;あまりゼミができなかったから　私→部下;ちゃんと教えてあげられなかったから
- **先生が多忙**
- **深くギロンする機会が少ない**
- **自分の意見が理解してもらえない**
- **相談しずらい**
- **現状を周りが理解していない**
- **考え方が偏りすぎている。知識不足でも勉強しようとしない**
- **テーマが…**
- **学外の先生の知識に頼っている状況**
- **教授と助教の研究方針が一致していないため、どちらの指導に従えば良いのかわからなかった。**
- **価値観がちがう、理解しようとしてくれない**
- **学会員登録費等で公費が下りなかったから**

[10-5]あなたの研究に対する指導体制（指導教官グループ）について、どのように思っていますか。（博士後期課程の方のみ）

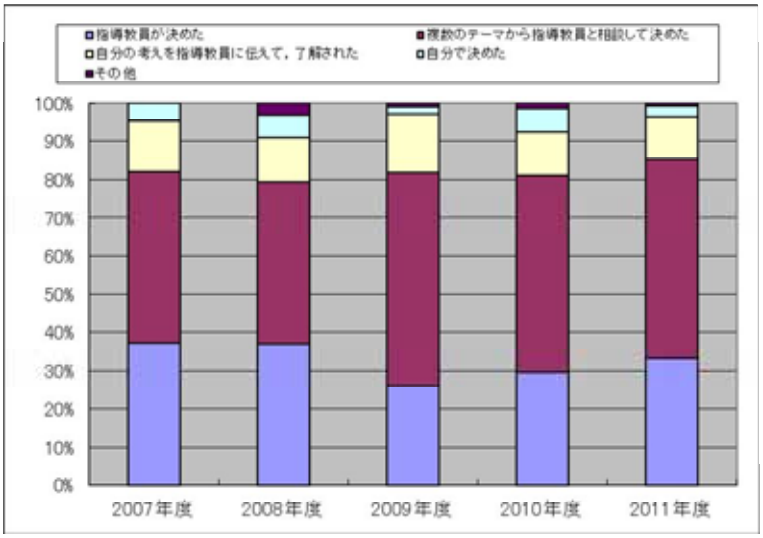
特に否定的な解答は無く、大きな問題はないと思われる。



[10-6][10-5]でD（やや不満）またはE（不満）と答えた方：その理由は何ですか。　**（回答者なし）**

[10-7]研究テーマはどのように決定されましたか。

指導教員との話し合い、あるいは複数の候補から研究テーマを決める割合が増えている。

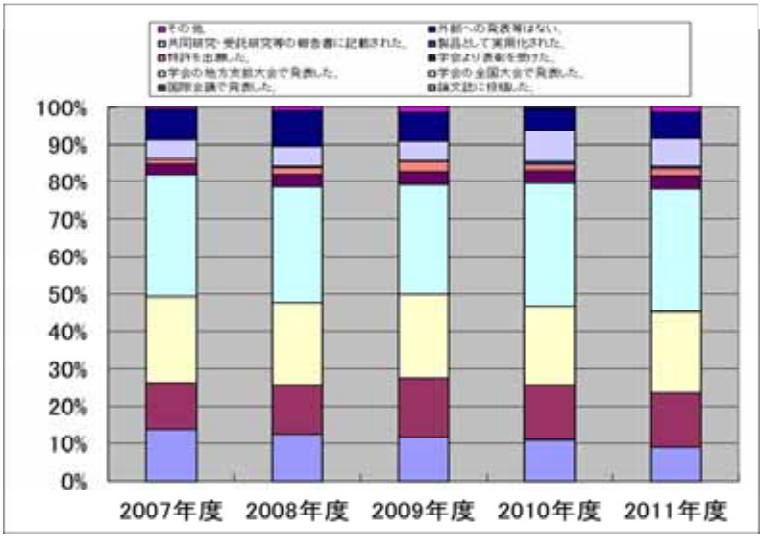


E（その他）[具体的に：　　]

- **複数のテーマから、研究室に入ってきた同期と話し合って決めた**
- **学部の研究の延長にある研究を引き続き行うことになった。**

[10-8]あなたが在学中に研究したテーマの成果は下記のうちどれに該当しますか。（複数回答可）

論文誌への投稿、国際会議や学会の全国大会での発表も水準を維持している。まったく発表しないケースも見られるので、さらに改善が必要と思われる。

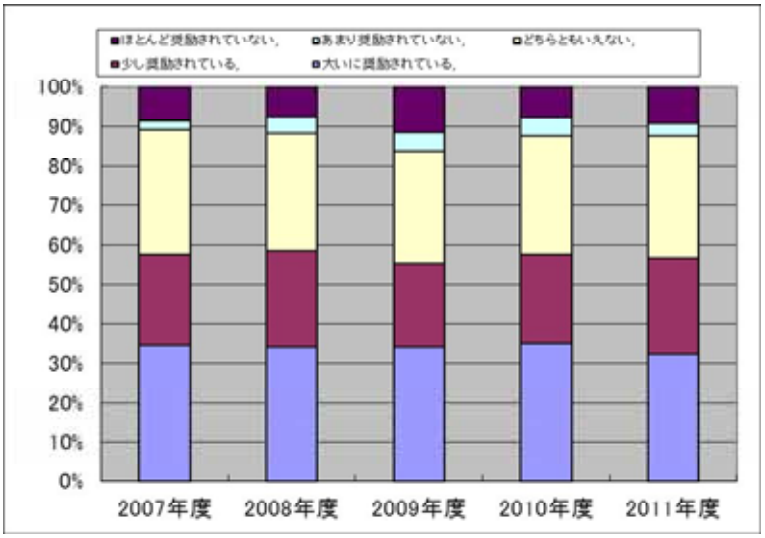


J　（その他）[具体的に：　　]

- **今後発表予定**
- **論文誌に登校予定**
- **事業に共に関わらせて頂いた方への研究報告**
- **研究会で発表した**
- **来年度、発表予定**
- **研究会での発表**
- **学会で発表を行った**

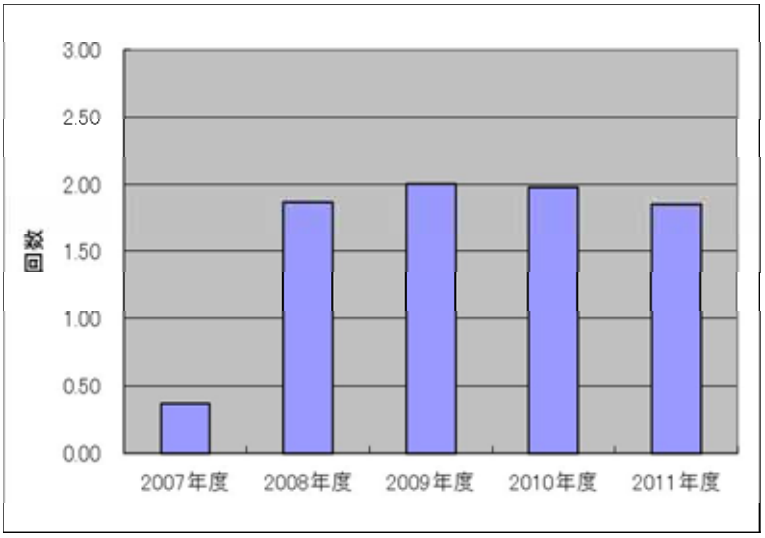
[10-9]学外での研究活動（学会発表や他機関での研究活動等）を奨励されていましたか。

ほとんどあるいはあまり推奨されていないと感じている学生の割合が40%強あり、教員側の意識の改革が必要である。



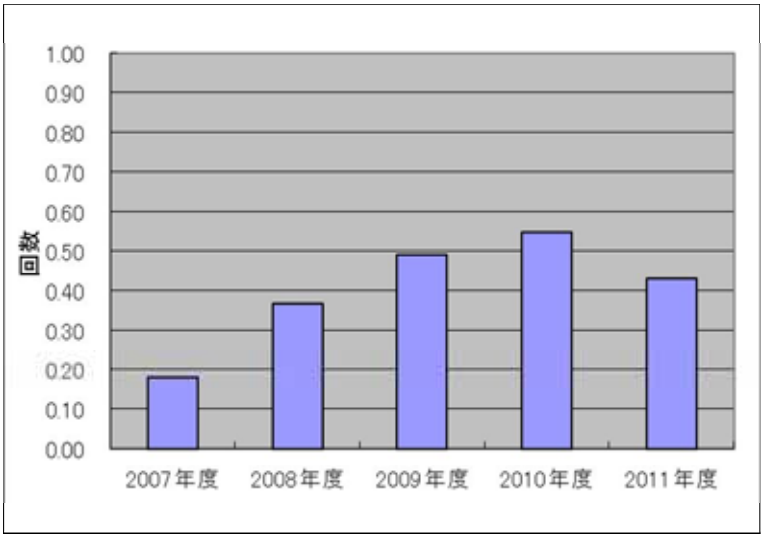
[10-10] あなたは在学中に国内学会（大会等）で何回発表しましたか。

院生の発表回数が2008年度以降ほぼ横ばいである。在学年数からみて、2回程度は妥当であろう。



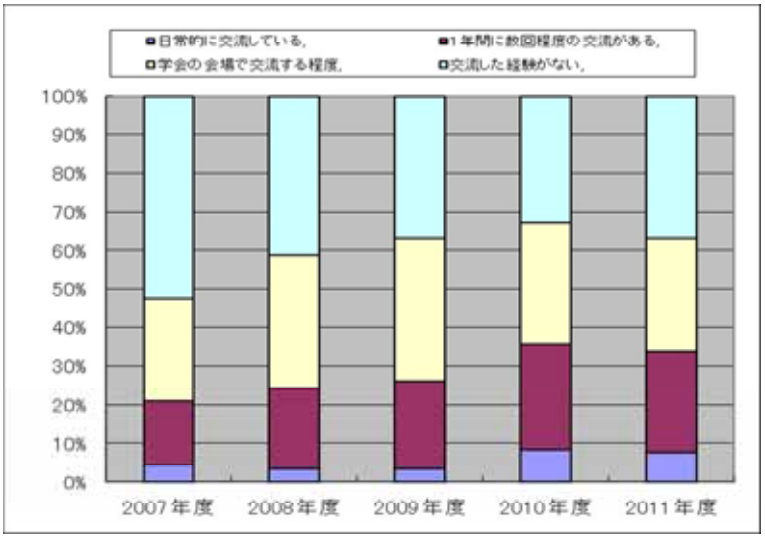
[10-11] あなたは在学中に国際会議で何回発表しましたか。

2011年度は少し減少しているが、割合としては妥当なところである。



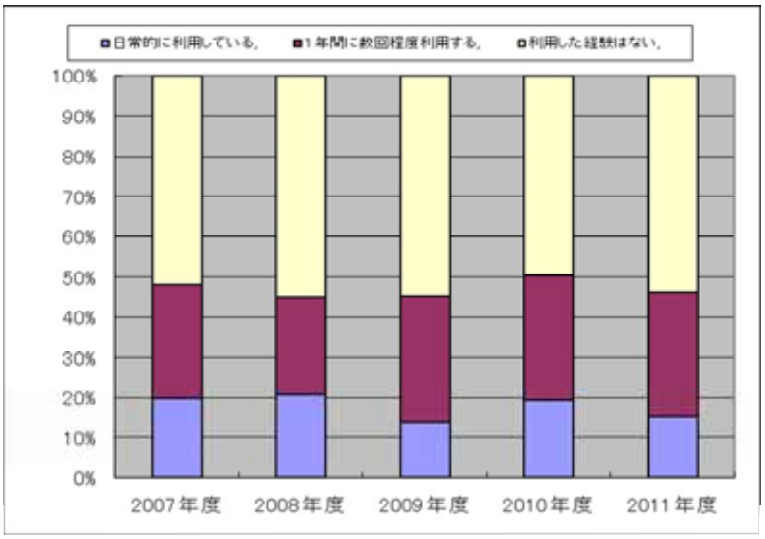
[10-12]学外の研究者（国内および国外）と研究交流した経験がありますか。

交流した経験のない学生の比率はほぼ一定である。さらなる国際的な交流の活発化を図る必要がある。



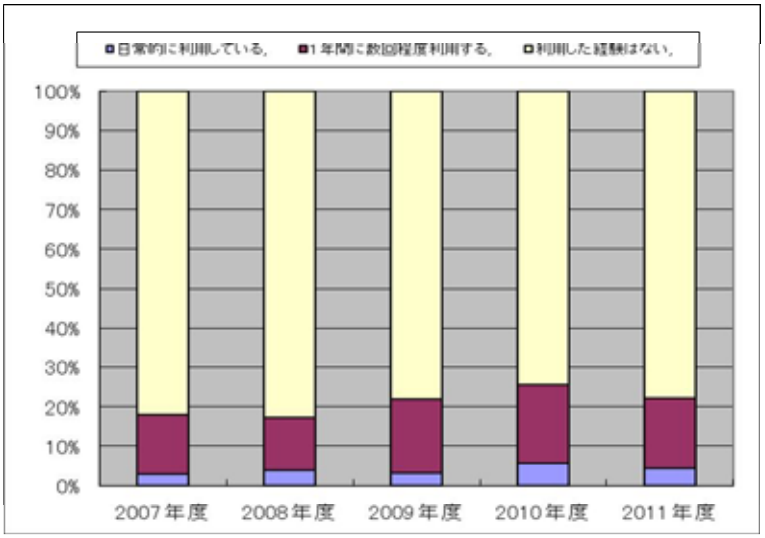
[10-13]学内の共同利用施設（情報科学センター、機器分析センター等）を研究のために利用した経験がありますか。

経験者の割合は、50%近くであり、日常的に利用している学生数は20%弱の傾向を示し、この傾向が続くものと思われる。



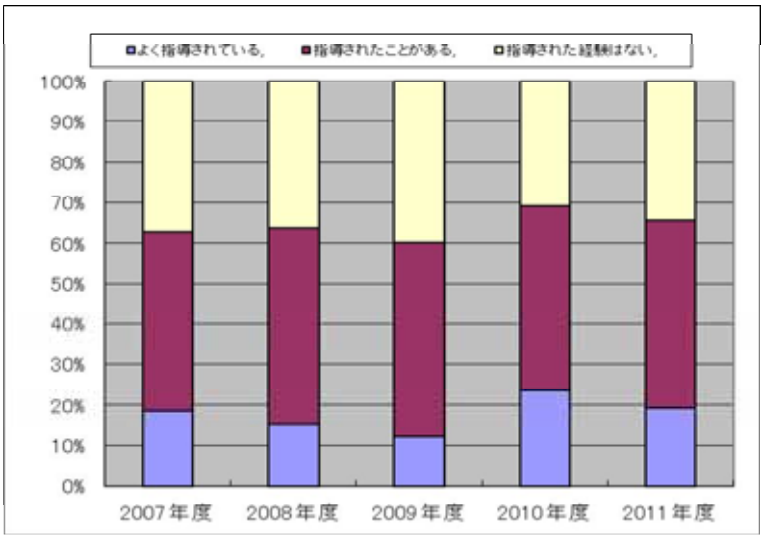
[10-14]学外の共同利用施設等を研究のために利用した経験がありますか。

経験者の割合は、20%程度であり、今後もこの水準と思われる。



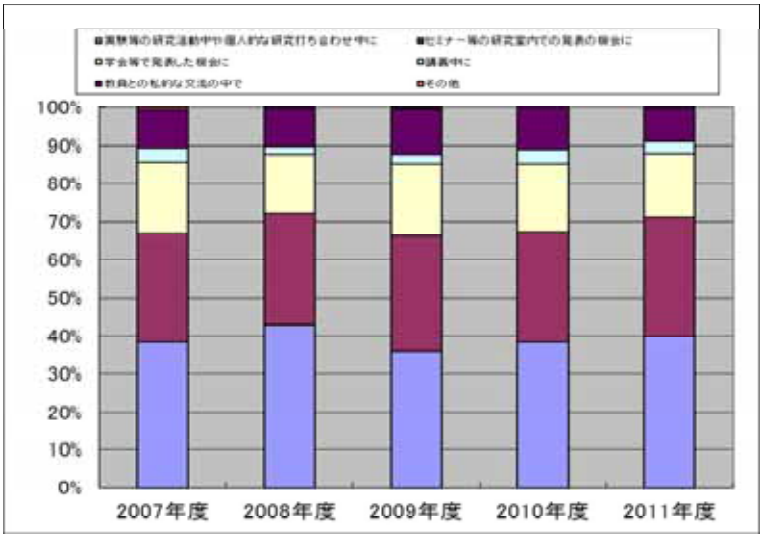
[10-15]学位論文の研究を通して、研究遂行に対して競争意欲が向上するような指導を受けたことがありますか。

指導されている院生の割合は60%以上であり、指導改善の取り組みの効果が見られる。



[10-16][10-15]でA（よく指導されている）またはB（指導されたことがある）と答えた方：それはどのような機会に指導されましたか。（複数回答可）

教員との個人的な研究打ち合わせやセミナー、学会発表等で指導を受けている学生の割合は 90%に達し、この傾向が続いている。



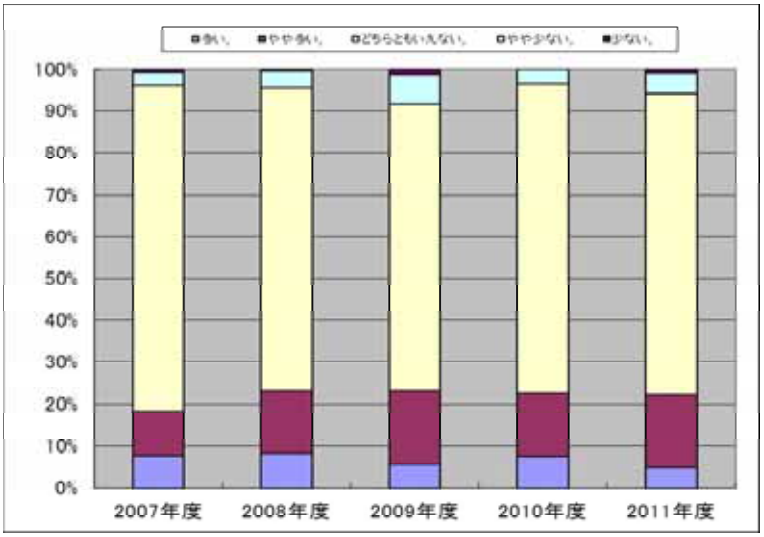
F（その他）　[具体的に：　　]

- **他大学の似たような研究に対して**

[11]工学府・工学研究科における講義・演習等についてお尋ねします。

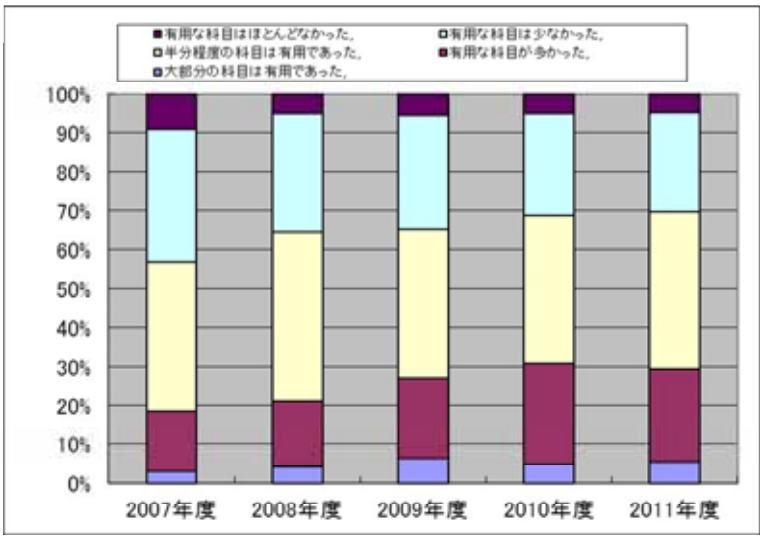
[11-1]工学府・工学研究科における講義・演習等の必要要件単位数は多いでしょうか、少ないでしょうか。

「やや多い」、「多い」と回答した院生は横ばいである。「やや少ない」、「少ない」と回答した院生も5%程度存在する。



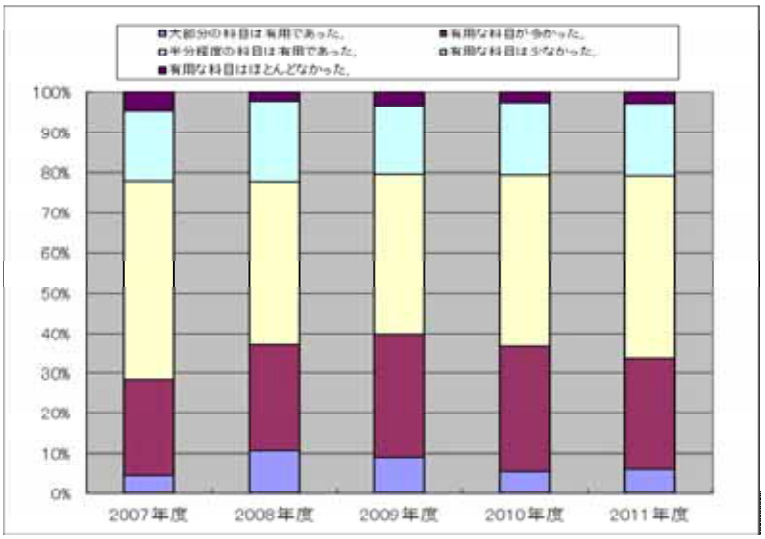
[11-2]工学府・工学研究科で受講した講義科目（演習科目を含む）の内で、自分自身の研究に役立った科目の割合はどの程度ですか。

70%の学生は「有用な科目」と回答しているが、「有用な科目が少ない」と回答した院生もかなりいるため、有用な科目が増加するように、さらなる講義（演習）内容の改善が必要である。



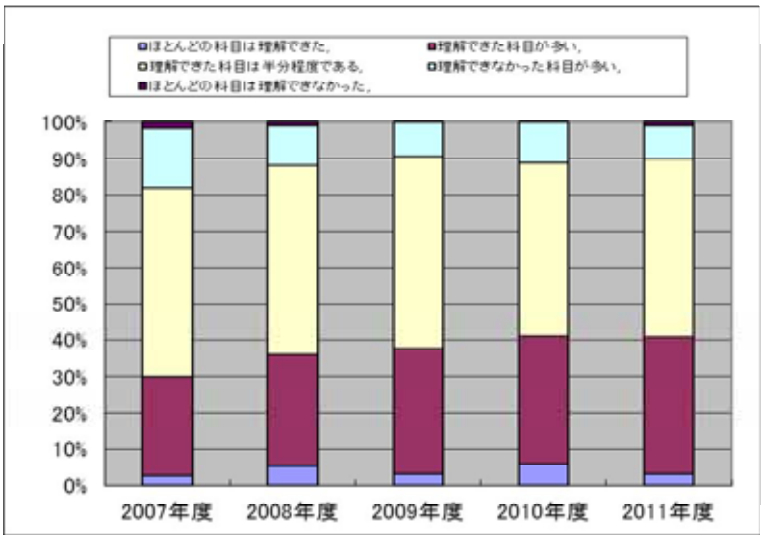
[11-3]工学府・工学研究科で受講した講義科目（演習科目を含む）の内で、自分自身の成長のために有用であり、履修価値があった科目の割合はどの程度ですか。

「半分程度の科目は有用であった」までを含めた修了生は、80%程度となっている。引き続き講義（演習）内容の継続と検討改革が必要と思われる。



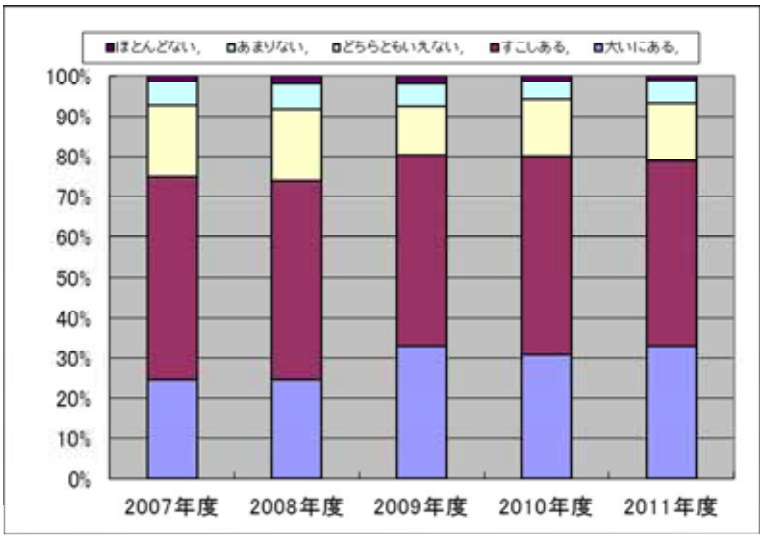
[11-4]工学府・工学研究科で受講した講義科目の理解度はどの程度ですか。

「理解できた科目が半分程度」以上の修了生の割合が90%程度である。一方、「理解できなかった科目が多い」の割合は10%程度あるため、引き続き講義内容や教授方法の検討・改善が必要と思われる。



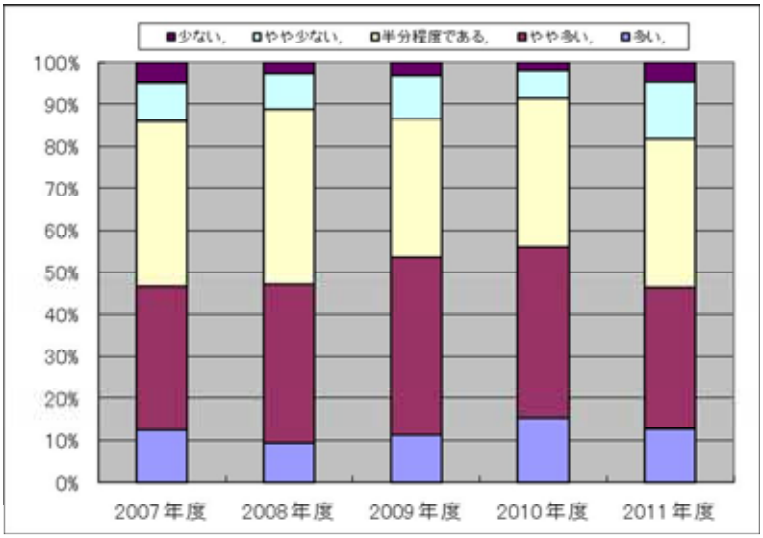
[11-5]学部で履修した科目と研究科で履修した科目の間に、つながりがあったと思いますか。

「学部で履修した科目との関連がある」と回答した修了生の割合が80%程度であり、学部で履修した科目との関連性は高いと判断できる。



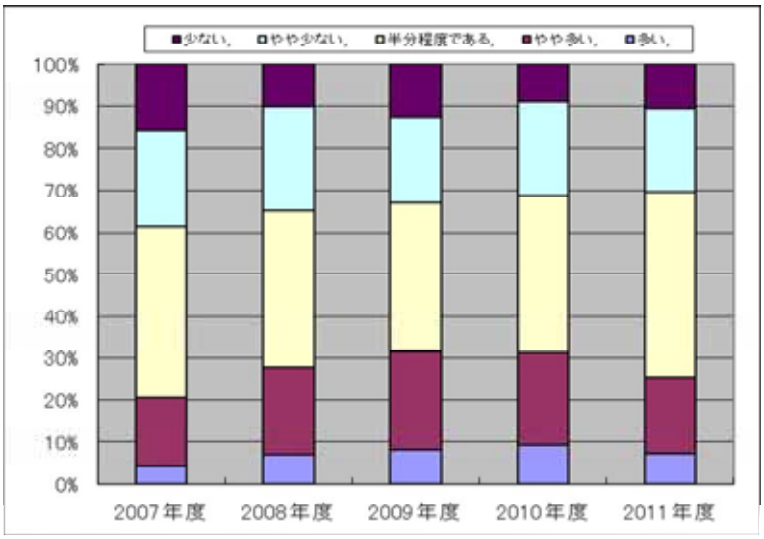
[11-6]工学府・工学研究科で履修した科目全般について、教育への熱意があった担当教員の割合はどの程度ですか。

「半分以上の教員に熱意があった」と回答した修了生の割合は、80%台を過去５年に亘って維持しているものの、2010 年度から10%近く下がっており、来年度の結果を注視すべきである。



[11-7]工学府・工学研究科で履修した科目で、就職後、仕事をする上で役に立つと思う科目はどれくらいありましたか。

「半分以上の科目は仕事に役に立つ」と回答した修了生は、ここ数年70%近くを維持しており、「実学」の観点からの教育効果は維持されていると思われる。



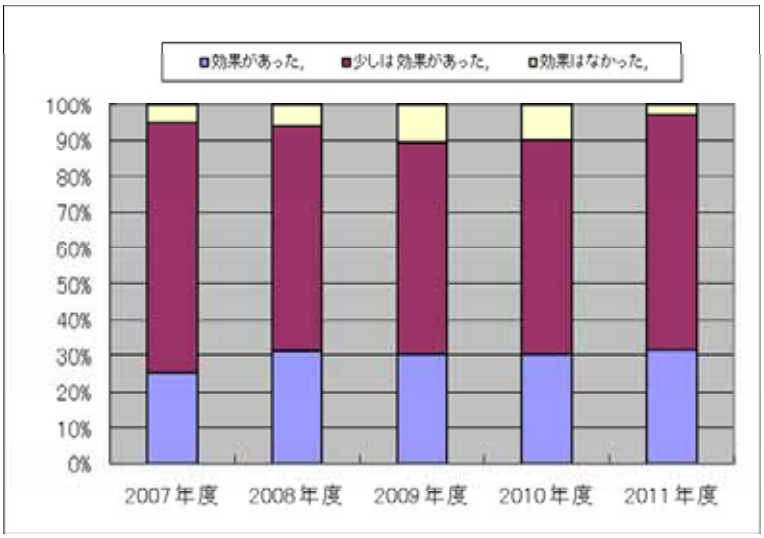
[12]ＴＡ、ＲＡ等の制度についてお尋ねします。

[12-1]ＴＡを担当したことがありますか。

ＴＡ経験者は 2007 年度以降 80%以上を維持している。

[12-2][12-1]でＡ（効果があった）と答えた方：ＴＡ活動を通して、学部学生に対して教育的効果があったと思いますか。

「効果があった」と「少しは効果があった」を合わせるとほぼ 100%に達しており、TA が学部教育に貢献していると自己評価している。



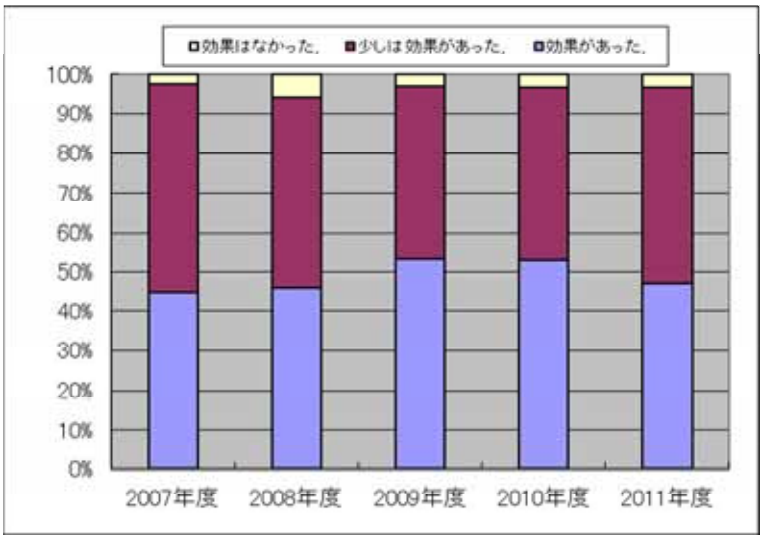
[12-3][12-2]でＣ（効果はなかった）と答えた方：その理由は何ですか。

学部学生側のモチベーションの足りなさについて不満があることが見てとれる。

- **特に教育していないから**
- **今のＢ４を見て**
- **学部生の履修態度が悪い**
- **ＴＡがあまり無意味な講義でなかった**
- **学部学生の勉強意欲が無いから。**

[12-4][12-1]でＡ（ある）と答えた方：ＴＡ活動は、自分自身にとって教育的効果があったと思いますか。

2010 年度同様、95%以上が、教育効果があったと答えており、ＴＡ活動が充分機能していると思われる。



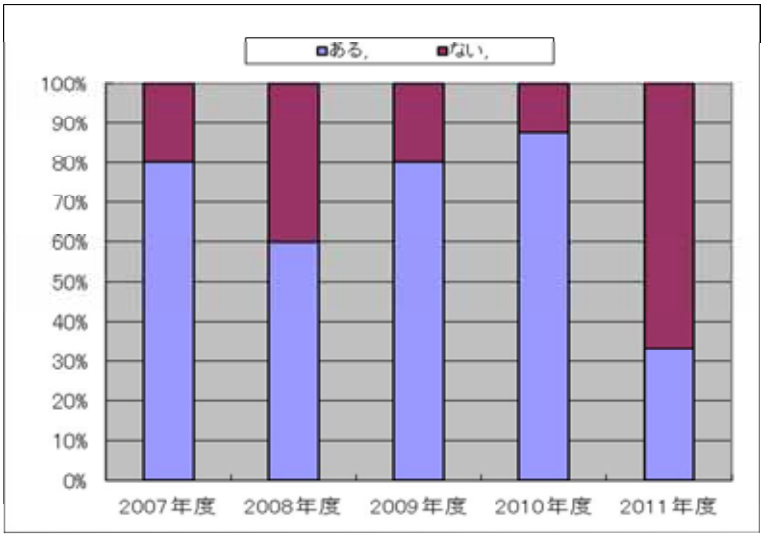
[12-5][12-4]でＣ（効果はなかった）と答えた方：その理由は何ですか。

TA活動は自分自身にとって教育的効果がなかったとする回答は2011年度には5%であり、この制度が十分教育的な効果を上げていると判断できる。具体的な回答は以下の通りであるが、少数意見である。

- **特に教育していないから**
- **内容が簡単すぎて、勉強するまでもなかった**
- **時間の無駄。学部生は帰ることしか考えてなく、話しても無意味**
- **ただのルーチンワークだったので**
- **学部学生との関係が希薄すぎたから**

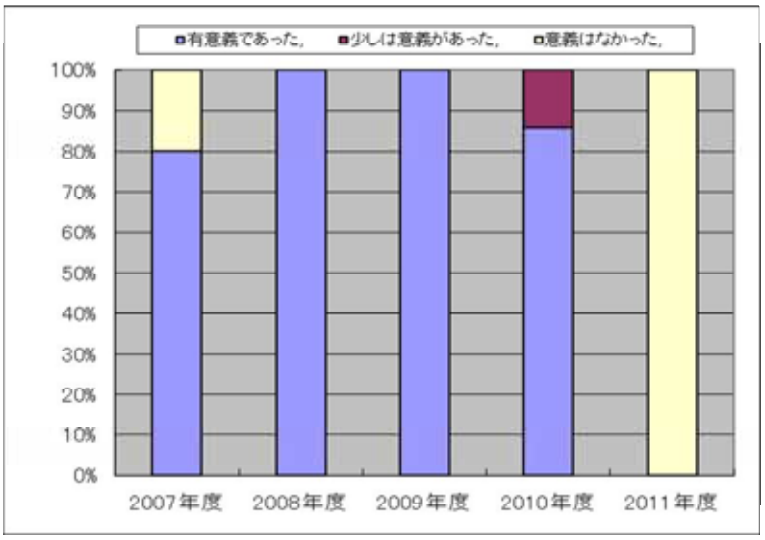
[12-6] ＲＡを担当したことがありますか。(博士後期課程の修了生のみ)

回答者が３名しかおらず、意味のある分析を行なうのが難しい。



[12-7][12-6]でA（ある）と答えた方。RA活動は、自分自身にとって意義があったと思いますか。

回答者が 1 名しかおらず、意味のある分析を行なうのが難しい。



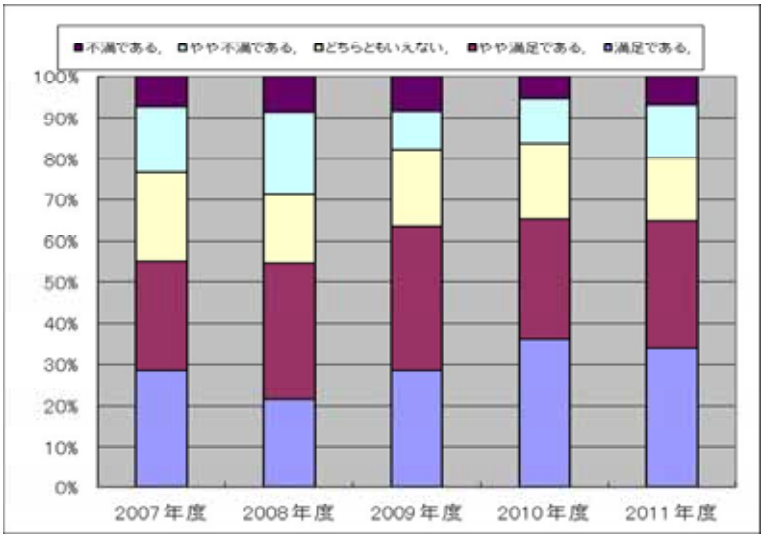
[12-8][12-7]でC（意義はなかった）と答えた方：その理由は何ですか。（博士後期課程の修了生）

（回答者なし）

[13]施設・設備等についてお尋ねします。

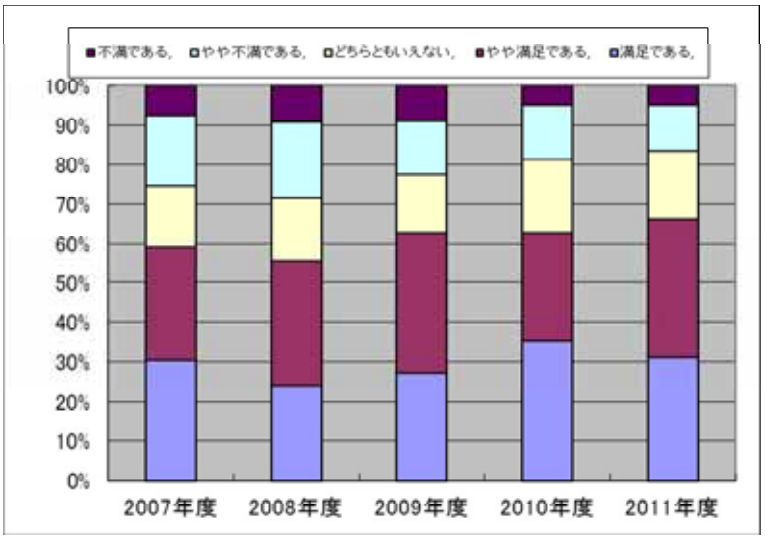
[13-1]研究に使った実験室・実習室のスペースや環境等について満足していますか。

2010 年度に比べ「満足である」の回答が若干減少したものの、「満足、やや満足」と解答した学生が 2010 年度と同様に 3 分の 2 を占めている。改築等の効果が継続していると思われる。



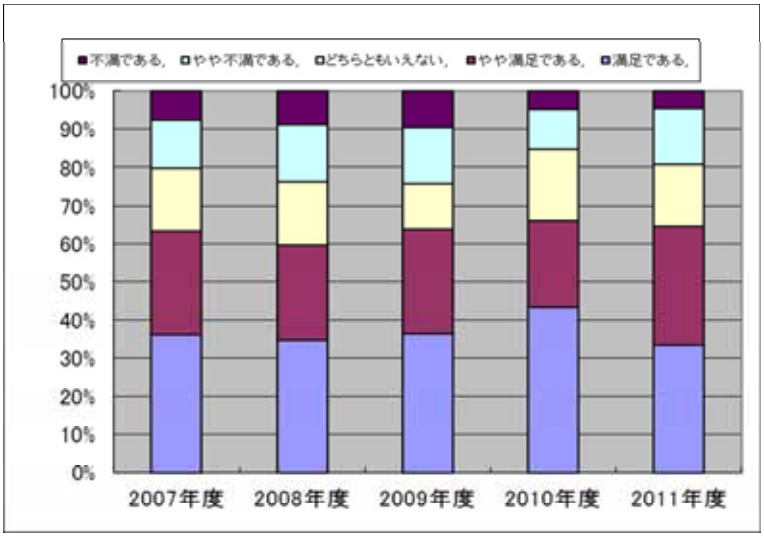
[13-2]研究に必要な設備・装置について満足していますか。

「満足、やや満足」と解答した学生が 2010 年度より若干上昇し、3 分の 2 を占めている。引き続き、効果的な研究環境の整備を進めていくべきである。



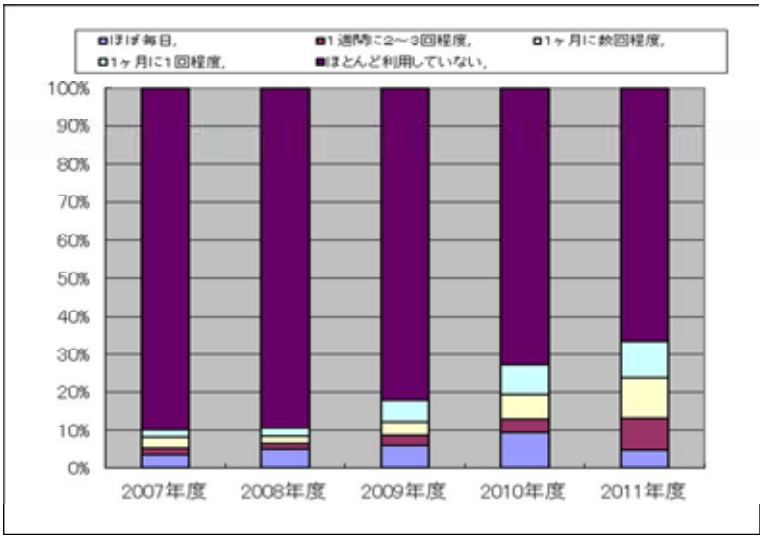
[13-3]研究に必要な情報機器（コンピュータ端末等を含む）の整備状況について満足していますか。

「満足、やや満足」と回答した学生の割合は 3 分の 2 程度で定着している。引き続き整備していく必要がある。



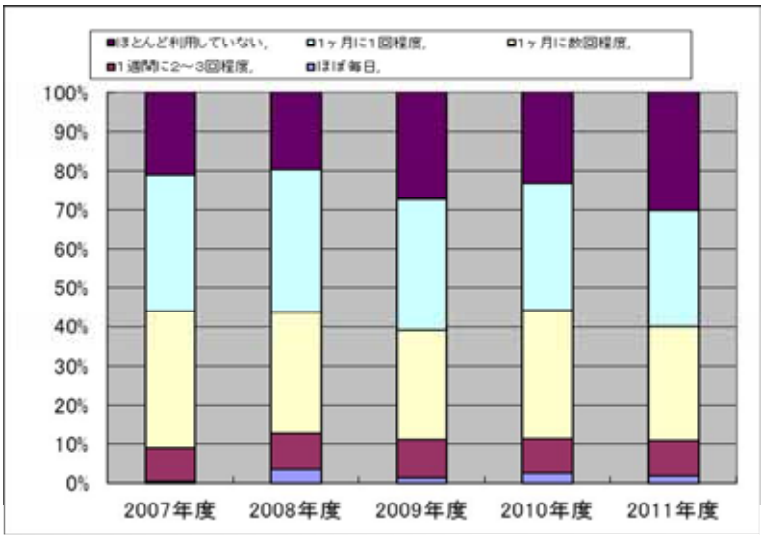
[13-4]情報科学センターが提供しているサービスをどの程度利用していますか。（インターネットや電子メールを除く。）

2011 年度は、利用率が最も高い結果となっているものの、相変わらず約 70%の学生が情報科学センターのサービスを利用していない。 大学院生の場合、研究室の情報環境を利用していると思われるが、サービス利用の形態について検討をする必要がある。



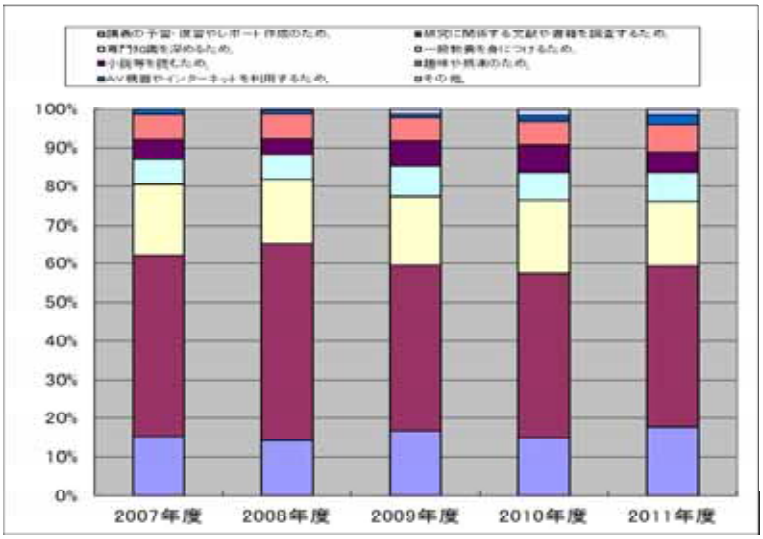
[13-5]図書館を利用している頻度はどの程度ですか。

例年と同様に図書館の利用頻度は低く、60%の学生が１ヶ月に１回か、殆ど利用なしである。大学院生の研究に役立つ図書館の役割について真剣に検討すべきである。



[13-6]図書館を利用する主な理由をお答えください。（複数回答可）

学生が講義、研究、専門知識および一般教養に関して図書館を利用している割合は、それぞれおおよそ18%、42%、17%、7%程度で全体的な傾向は大きく変化していない。



H（その他）[具体的に：　　]

- **新聞**
- **新聞を読むため。**
- **日々の喧騒から逃れるため**
- **利用していない**
- **新聞の閲覧**
- **ＴＯＥＩＣの勉強**
- **一度もない**
- **語学･日本語能力検定ために利用する**
- **ねるため**

２．３　教育達成度評価アンケート：雇用主
（２００９年３月以前卒業生）

本節（2.3）と次節（2.4）では、まだ、九州工業大学工学部及び大学院工学府（旧工学研究科）における教育効果が残っていると思われる入社後３年程度を経過した本学卒業生・修了生を対象に、他大学と比較した教育レベルのアンケート調査を実施し、その結果をまとめています。なお、この時、彼らが在職する各会社・各機関（彼らの雇用主）に対しては、本アンケート調査は他大学の卒業生及び修了生に対する本学学生が受けた教育レベルの評価を行うためのものであり、対象者本人の評価を行うものではないことを断わっています。

※アンケート実施年月日　平成２４年　６月　１日

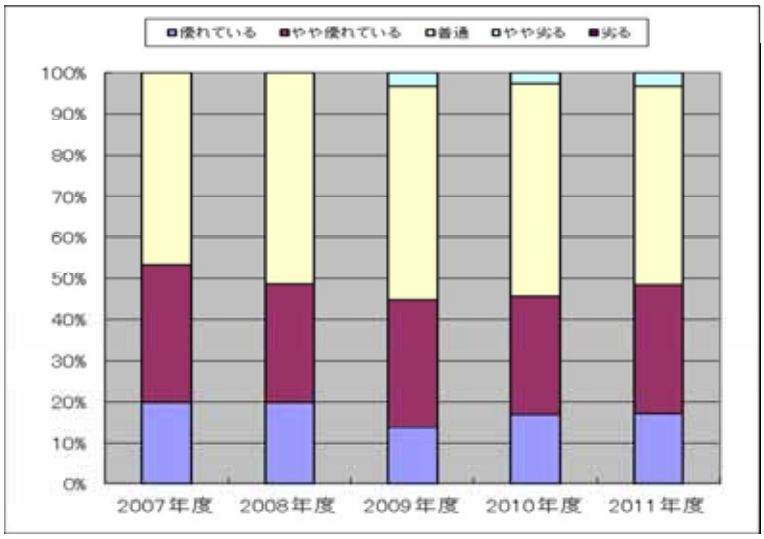
※アンケート回収率

配付枚数	回収枚数（回答率）
１２８社	２９社（22.6%）

１．教育の達成度について、該当項目に○をつけてください。

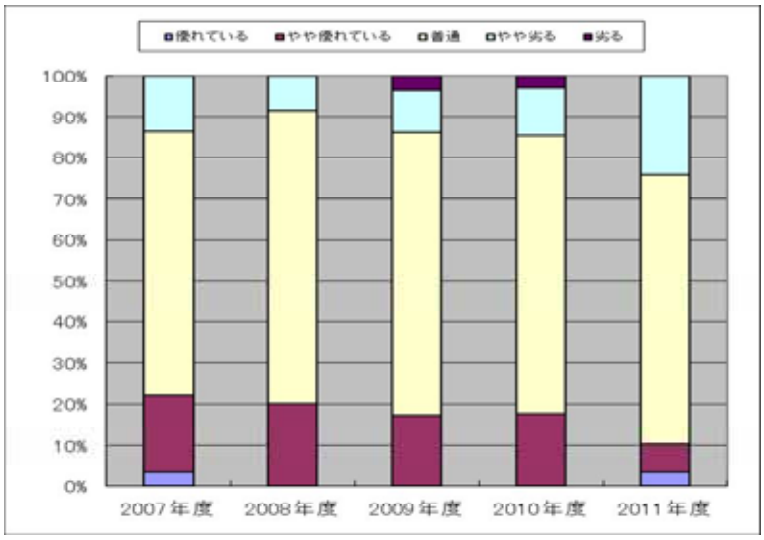
（１）卒業生が受けた教養（人文・社会等の一般教養）教育のレベル

「優れている、やや優れている」が少し持ち直し、2011 年度には 48%になっている。「やや劣る」は昨年と同様にある。



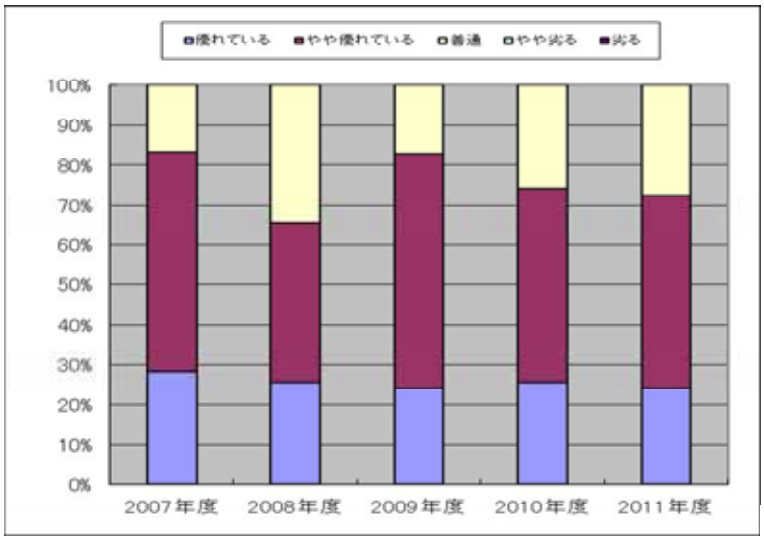
（２）卒業生が受けた語学（特に英語）教育のレベル

「優れている、やや優れている」が 10%に減少し、やや劣るが 24%に達している。卒業生の語学力に対して危機感をもつべきである。グローバル人材教育が求められる時代にあって、放置できない状況になりつつある。



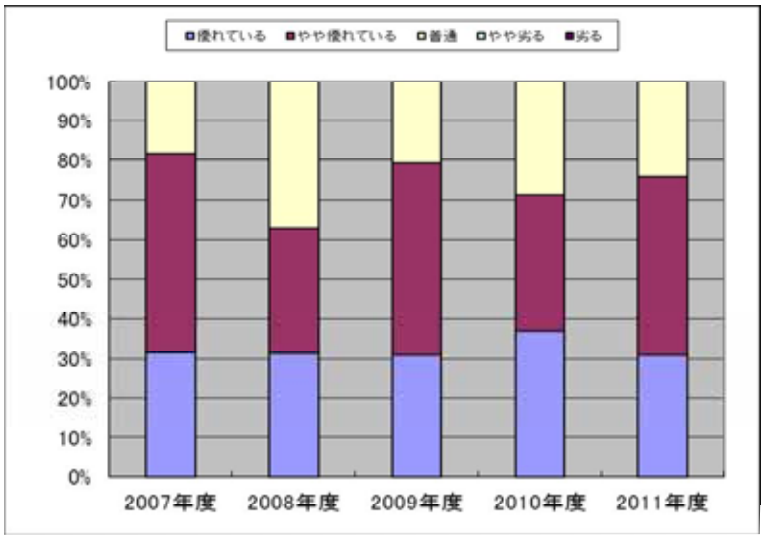
（3）卒業生が受けた理数系（数学・物理・化学）教育のレベル

「優れている、やや優れている」と回答した企業が 2009 年度から減少傾向にある。まだ、70%以上を維持している。要注意事項である。



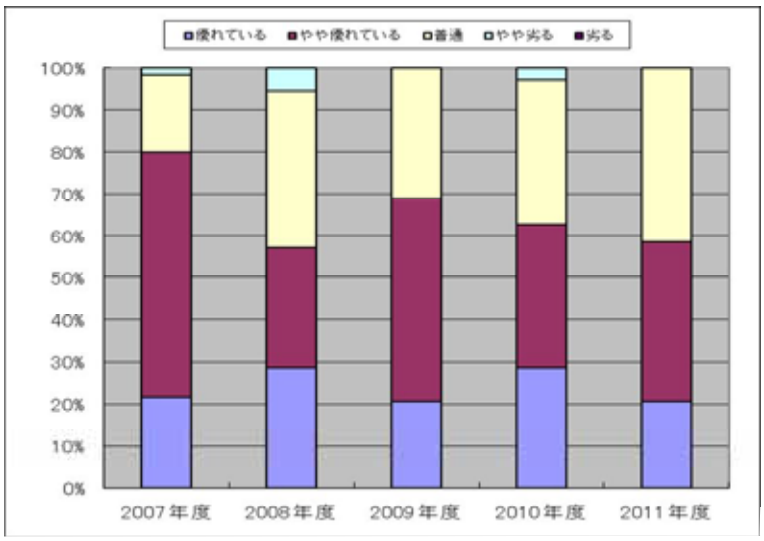
（4）卒業生が受けた専門教育のレベル

卒業生の専門教育レベルについては、「優れている、やや優れている」が年度ごとに一定しないが、60%は割らない。2011 年度は 76%になった。今後も引き続き注視する必要がある。



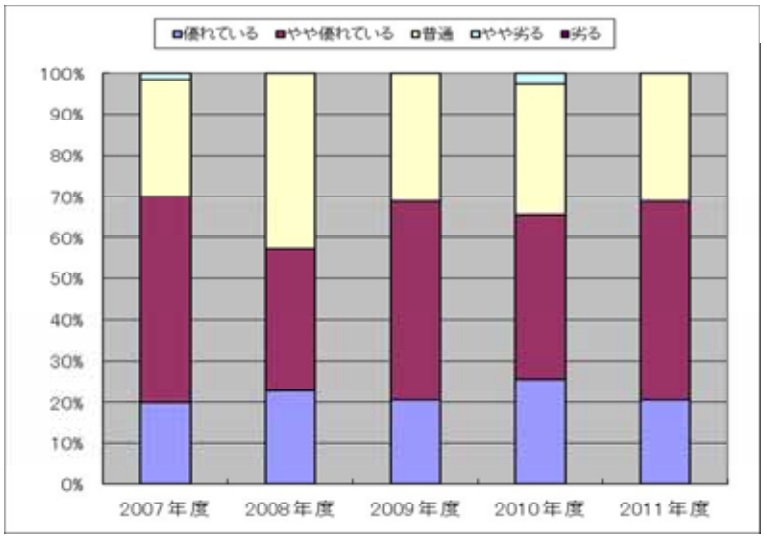
（5）卒業生が受けた課題探求能力教育のレベル

「優れている、やや優れている」が 2009 年度から減少し続け、2011 年度は 59%と 2008 年度並みの低さである。要注意事項である。



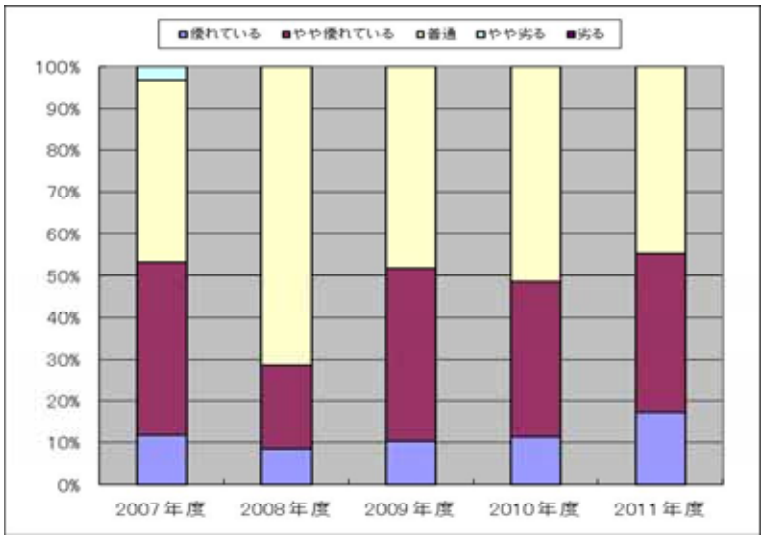
（6）卒業生が受けた課題解決能力教育のレベル

「優れている、やや優れている」は 2008 年度を除き 60%以上になっている。しかし年度ごとの変動が大きいため、引き続き注視しておく必要がある。



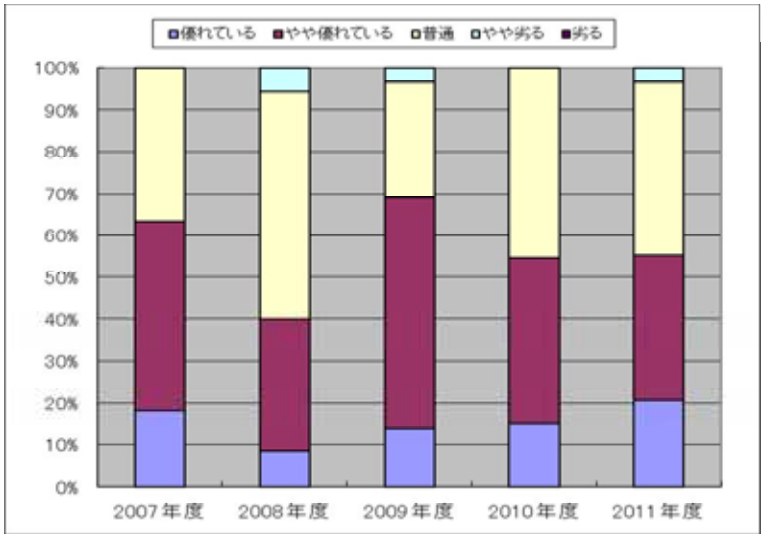
（7）卒業生が受けた独創性教育のレベル

「優れている、やや優れている」は 2008 年度を除き約 50%を推移している。しかし、2008 年度は 30%未満になったことから、引き続き注視しておく必要がある。



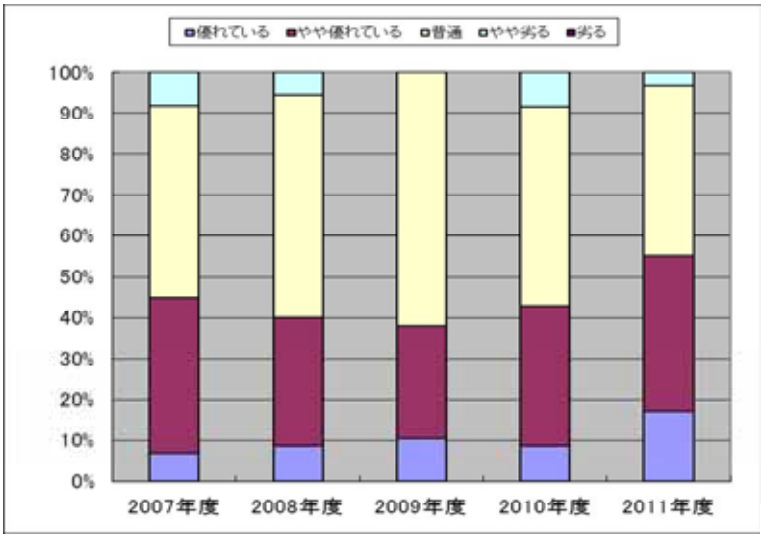
（8）卒業生が受けた構想力教育のレベル

「優れている、やや優れている」は 2006 年度の 44%と 2008 年度の 40%を除き、50%以上を推移してきた。年度ごとの変化が大きいことから、今後も推移を見守る必要がある。



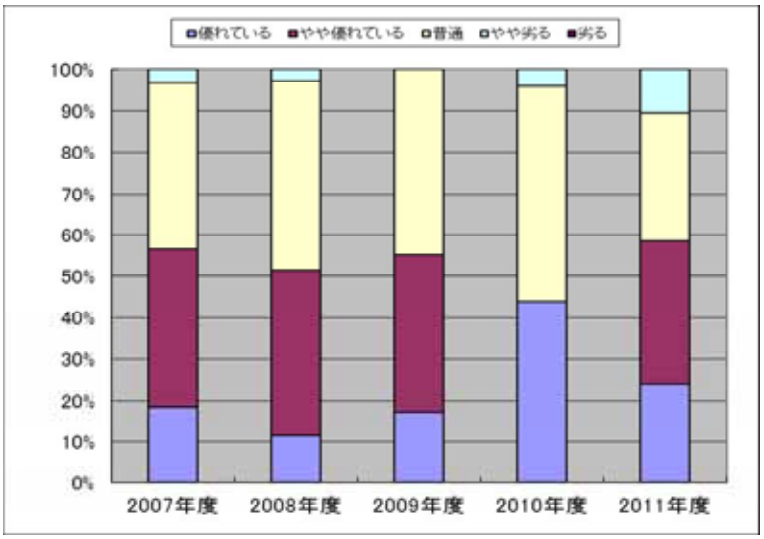
（９）卒業生が受けた表現力教育のレベル

「普通」以上の評価は2007年度以降90%以上を維持している。「やや優れている」以上の評価は前年度まで40%の前後を推移していたが、2011年度は55%まで増加した。今後も「優れている」「やや優れている」の増加が望まれる。



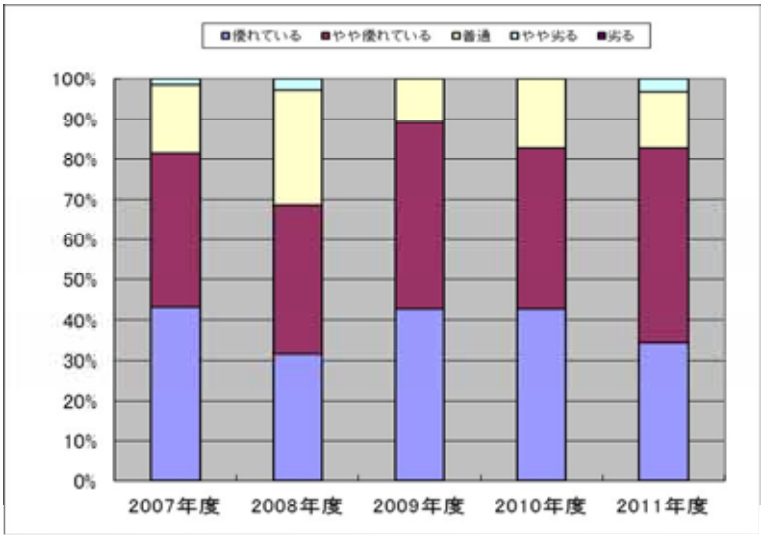
（１０）卒業生が受けたコミュニケーション能力教育のレベル

前年度はやや特異な分布となっていたが、2011年度は2009年度以前の分布におよそ戻っている。「普通」以上の評価は2006年度以降概ね90%以上を維持しているものの、「やや劣る」の回答が2009年度の０からは微増してきており、注視の必要がある。



（１１）卒業生が受けた仕事に取り組む熱意に対する教育のレベル

「普通」以上の評価は95%以上を維持し続けている。「やや優れている」以上の評価も2008年度を除き80%以上で推移しており、全体として評価は高いと言える。



２．貴社・貴機関が九州工業大学 工学部 卒業生に望む事項（卒業生の資質等）がございましたらご記入ください。

指摘されている事柄をキーワードで列挙すると、「語学力」、「コミュニケーション能力」、「プレゼンテーション能力」、「探求心」、「積極性」、「判断力」、「企画力」、「指導力」、「広い視野での考察力」等が期待されている。

- **コミュニケーション能力向上。仕事に対する能動的な対応。**
- **企業が望む事項として、チームワーク性、チャレンジ性、規律性、責任性であり、能力としては、知識･技能、折衝力、判断力、企画力、指導力が必要になると思います。社会人となりまず必要な事はあいさつが出来る事です。**
- **英語を中心とするコミュニケーションやプレセンテーション能力の向上を望みます。**
- **弊社においても、将来海外での業務拡大を考えていますので、英語等の語学力のレベルアップを希望致します。**
- **モノづくりへの情熱**
- **高い技術力と専門性の習得に力を注いでもらいたい**
- **特になし**
- **問題に対する原因究明の真因への探究心と継続力。ＴＯＥＩＣ≧７００への取組み。**
- **表現力･コミュニケーション力に更なる力があれば非常に高いレベルになると感じました**
- **元気で実直な人材。探求心があり、好奇心旺盛な人材**
- **海外での勤務については意識して頂きますので語学学習に対する取組みにはチャレンジしてもらいます。**
- **課題解決の応用力を身に付けられるような、授業があれば望ましいと感じました。**
- **主体的に課題に取組むことができる。コミュニケーション能力が高い。国際的な視野を持っている。学生の方を期待しております。**
- **更なる課題探求能力の向上を望みます。**
- **貴校の卒業生については、教養･専門教育レベル共に高い水準であり、比較的短期間で技術分野の業務の中枢を担うことが出来るところ迄到達されております。応用力、創造力についても、十分に力を発揮されています。貴校ということでなく全体一般的な傾向ですが、コミュニケーション能力（高度な交渉でなく、対話能力）、プレゼン能力（主に、自分の意見を話すこと）にやや劣る傾向がある、というのが新入社員全般に感じられるところです。**
- **特にございません。**
- **若者らしい視点で独創的なアイデアを追求し、それをわかり安く、表現する能力、プレゼンする能力に期待しています。与えられた仕事（役割）を最後まで完遂する強い意志を持った若者が最近少ない様に感じています。（一般論ですが…。）**
- **御校に限った話ではありませんが、明朗快活、粘り強く業務に取り組む、等。**
- **貴学の学生は知的好奇心に優れ、高い能力を身に付け技術部門の各分野で活動しています。学生らしい視点、広い視野で考える力を養って頂ければと思います。**

３．九州工業大学 工学部の教育に対して、ご意見・ご要望（企業が必要とする人材の専門分野、専門知識等）がございましたらご記入ください。

業務に応じて多岐に亘るが、専門知識に加え、各分野に共通するような工学の基礎や「語学力」、「コミュニケーション能力」、「考察力」等の育成の期待がある。

- **コミュニケーション能力向上。仕事に対する能動的な対応。**
- **特になし**

- **弊社における業務では、浄水工学、上水道、下水道等の分野が多いため、それらの専門知識の教育を希望致します。**
- **これからも優良人材の育成をお願いします**
- **技術力と専門性に加え、語学力の強化にも力を注いでもらいたい。社会情勢の把握に努めてもらいたい**
- **特になし**
- **工学実験における、結果まとめ～考察、発表の強化。専門的知識については、配属部署で活用レベルは、変わりますが、考察力の鍛練は、全ての部署で、役に立ちます。＊以前も厳しかったですが、会社に入ると、役に立っている気がします。**
- **エンジニアとしての素養を身に付けることのできる教育の実施。技術的な課題に直面したときのアプローチの仕方。**
- **学生のうちから企業等第3者との接点を持って頂き、コミュニケーショントレーニングをして頂ければと考えます。（貴学だけに限ったことではございません）**
- **より一層、ソフトウェア開発原語による実習を望みます。**
- **鋳鉄を中心とした材料系及び、設計、設備管理等を踏まえた機械系の高い専門性を有した学生の方を期待しております。**
- **しっかりしたカリキュラムに基づいた教育が行われていると感じられます。弊社は水・空気・環境機器のメーカーですので、これらの専門分野をある程度修得した人材を希望するところではありますが、まずは基礎（機械、電気、化学など、それぞれの専門の基礎）の出来た人材が重要と考えます。**
- **特にございません。**
- **近年、景観・環境といった分野を志望する学生が多い様に感じます。総合建設コンサルタントとしては、いつの時代にも欠かせない“インフラストラクチャー”の建設と維持管理についてその責任・使命と魅力に興味を持った学生を真に必要としています。**
- **企業の性格によって違うと思いますが、スペシャリストよりもジェネラリストを育成して欲しい。※広く、又、ある程度深く。**
- **今後とも宜しくお願い致します。**
- **技術者としての基礎教育を引き続きしっかりと教育を行って頂きたいと思います。社会人としてのマナーや業務上必要な専門知識は、入社後に教育・育成して参ります。**
- **専門知識や専門領域の広さも必要ではありますが、当社としては、その前にある、「豊かな人間性」や「良識」と言った事も是非学内でも教えて頂きたいと思います。**

４．全体としての傾向

2011 年度においては「普通」以上の評価は、「語学」を除く 10 項目が 90%以上であり、なかでも「理数系」、「専門」、「課題探求能力」、「課題解決能力」、「独創性」の 5 項目は 100%である。「やや優れている」以上の評価は、「仕事に取り組む熱意」が 82%と高く、70%代に「理数系」、「専門」の 2 項目が続き、60%代に「課題解決能力」、50%代に「課題探求能力」、「独創性」、「構想力」、「表現力」、「コミュニケーション能力」が続いている。「教養」は 40%代を低迷し、「語学」は 10%となっている。また、「劣る」の評価は全項目からなくなり、「やや劣る」の評価はほとんどの項目であってもごく僅かであるなか、「語学」の「やや劣る」の評価はここ数年増加傾向にあり、2011 年度は 24%におよんでいる。

全般において卒業生は企業から概ね高い評価を得ていると判断できる。しかし、「教養」、「語学」の評価

は相対的に低く、効果的な対応策を講じていく必要がある。とりわけ「語学」については緊急の課題として残っている。

２．４　教育達成度評価アンケート：雇用主
（２００９年３月以前修了生）

※アンケート実施年月日　平成２４年　６月　１日

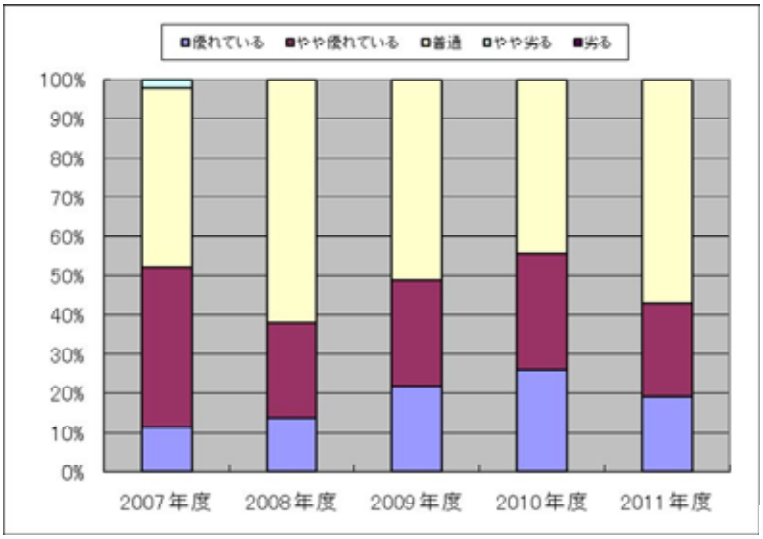
※アンケート回収率

配付枚数	回収枚数（回答率）
１２０社	２２社（18.3

１．教育の達成度について、該当項目に○をつけてください。

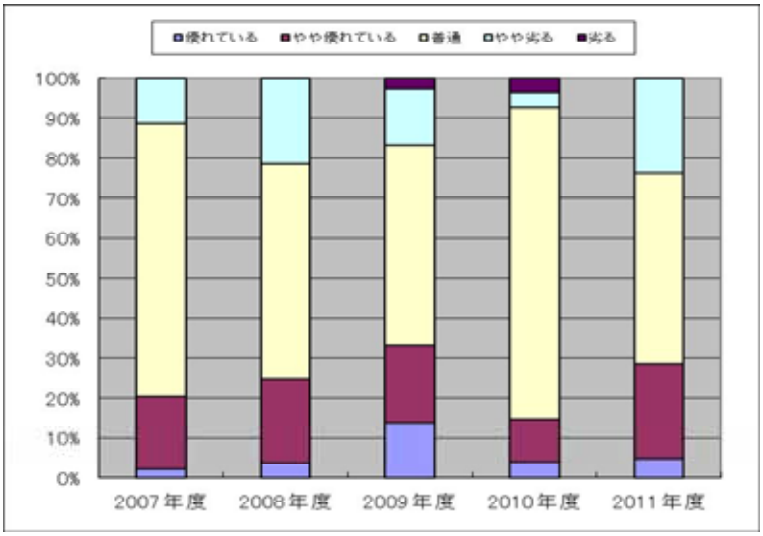
（１）修了生が受けた教養（人文・社会等の一般教養）教育のレベル

「普通」以上の評価が100%、「やや優れている」以上の評価が概ね40%～55%で推移している。全体として企業からの評価はこのレベルに定着しているとみられる。



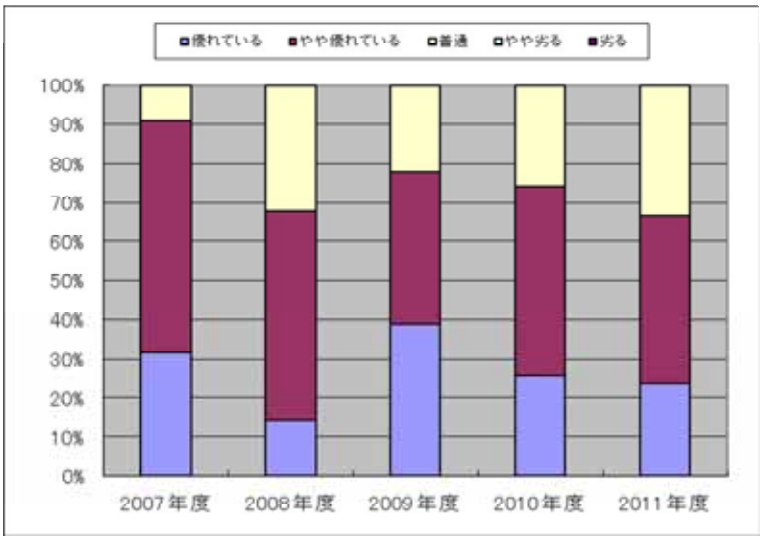
（２）修了生が受けた語学（特に英語）教育のレベル

「やや優れている」以上の評価が概ね15%～30%で推移している。「劣る」の評価はなくなったものの、「やや劣る」の評価が近年では最も多く24%までになった。着実な改善策が必要であると考えられる。



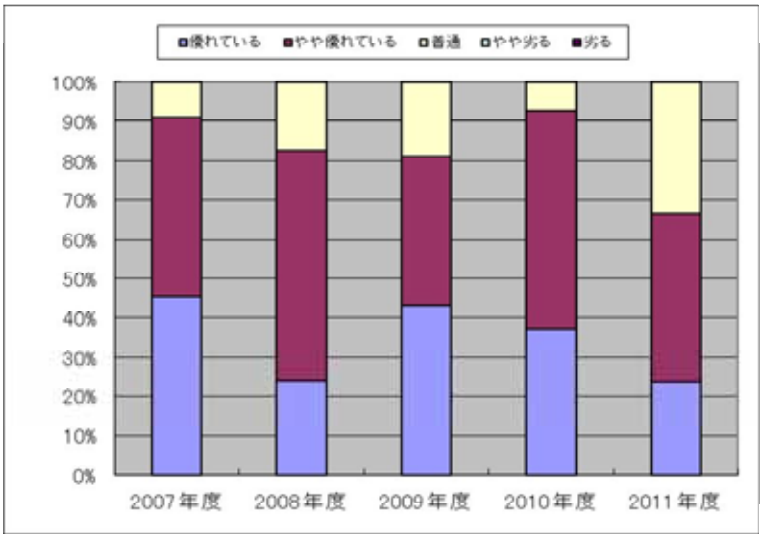
（3）修了生が受けた理数系（数学・物理・化学）教育のレベル

「普通」以上の評価は100%、「やや優れている」以上の評価は65%以上を維持しており、全体的に企業から高い評価をうけていると判断できる。



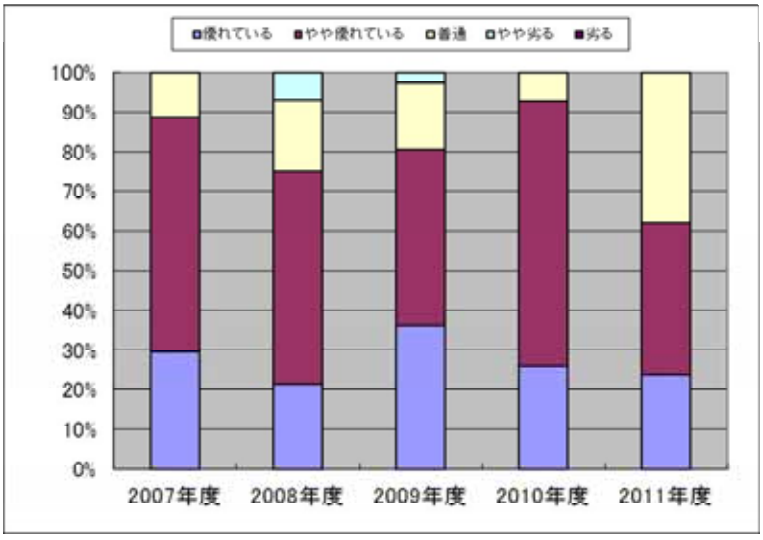
（4）修了生が受けた専門教育のレベル

2007年度以降「普通」以上は100%である。「やや優れている」以上の評価は、前年度まで80%以上であったが2011年度は70%を切った。企業からの評価は高いが、注視が必要である。



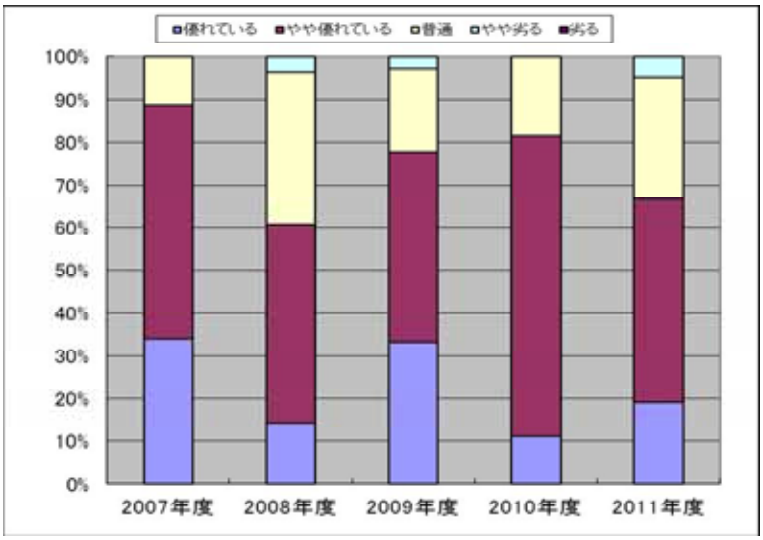
（5）修了生が受けた課題探求能力教育のレベル

「普通」以上の評価は前年度に続き 100%であるが、「やや優れている」以上の評価は前年度まで概ね 80～90%であったものが 2011 年度は 60%近くまで減少した。企業からの評価は高いが、注視が必要である。



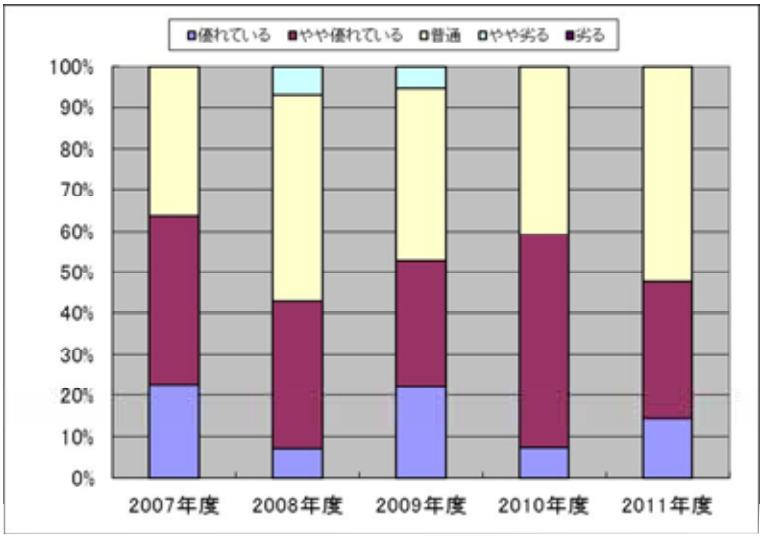
（6）修了生が受けた課題解決能力教育のレベル

「普通」以上の評価は2007年度以降95%以上を維持している。「やや優れている」以上の評価は、2007年度89%と高かったが、その後は概ね60～80%で推移している。企業から概ね高い評価を受けていると判断できる。



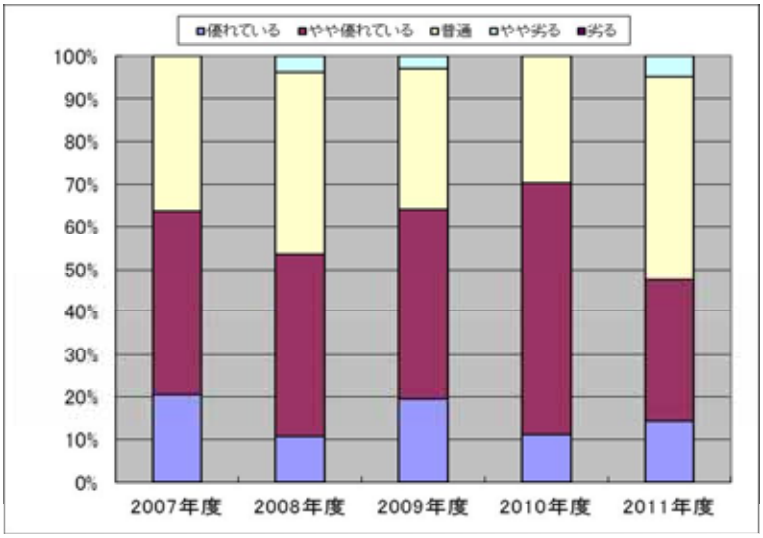
（7）修了生が受けた独創性教育のレベル

「普通」以上の評価は前年度に続き100%である。「やや優れている」以上の評価は2007年に60%を超えていたが、その後は50%近くを前後している。「やや優れている」以上の評価が増加するためには継続的な工夫が必要である。



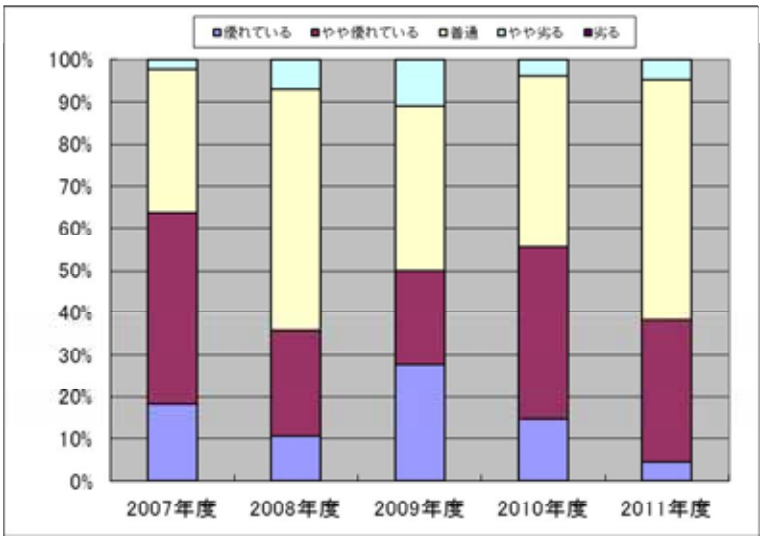
（8）修了生が受けた構想力教育のレベル

「普通」以上の評価は95%以上を維持し続けているが、「やや優れている」以上の評価が前年度から20%以上減少して50%を切った。まずまずの評価を得続けているが注視が必要である。



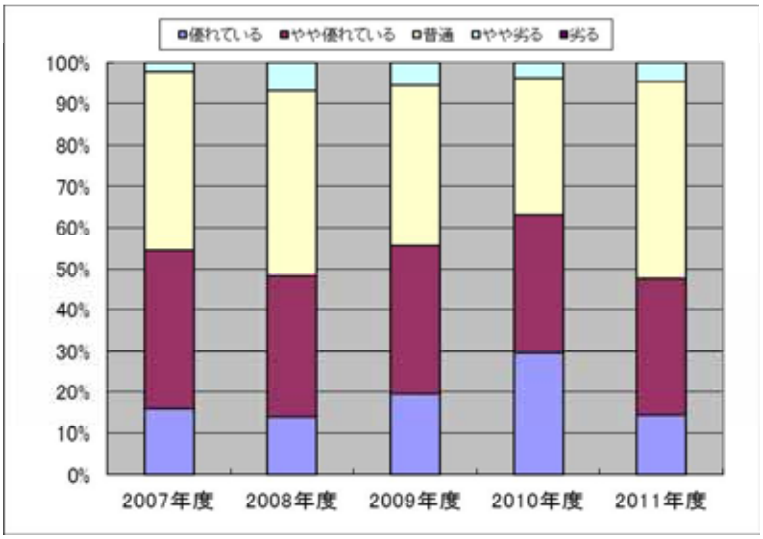
（9）修了生が受けた表現力教育のレベル

「普通」以上の評価は概ね90%で推移している。「やや優れている」以上の評価は2007年度には60%を超えていたが、その後は概ね35～55%の範囲で推移している。継続的な対応が必要である。



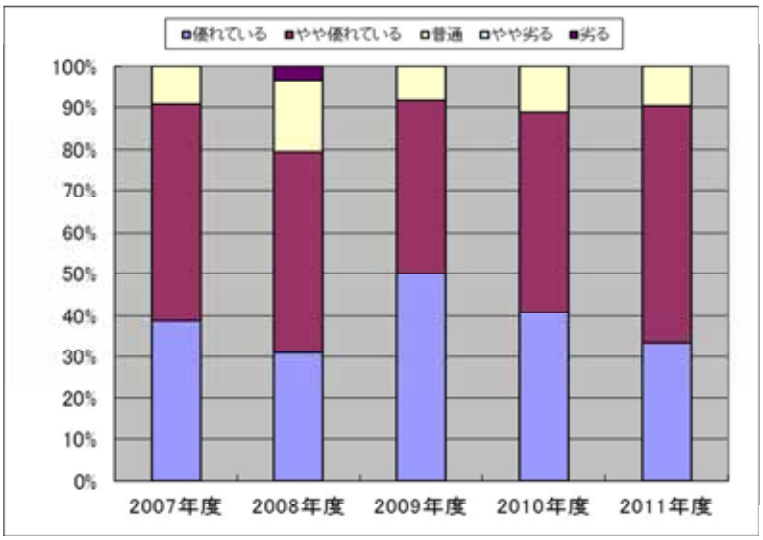
（10）修了生が受けたコミュニケーション能力教育のレベル

「普通」以上の評価は90%以上を維持し続けている。「やや優れている」以上の評価は概ね50～60%の範囲で推移している。「やや優れている」以上が着実に増加するよう工夫が必要である。



（11）修了生が受けた仕事に取り組む熱意に対する教育のレベル

「普通」以上の評価は、2008年度を除き100%である。「やや優れている」以上の評価は概ね90%の高い数値を維持している。修了生は企業から高い評価を受けていると判断できる。



2．貴社・貴機関が、九州工業大学 大学院工学研究科 修了生に望む事項（修了生の資質等）がございましたらご記入ください。

指摘されている事柄をキーワードで列挙すると、「論理思考力」、「表現力」、「意欲」、「語学力」、「柔

軟性」、「探究心」、「幅広い知識」等を期待されていることがわかる。

- **原理原則を理解した上で、相手に正しく物事を伝える力が若干不足しているように思えます。論理思考力、表現力などをしっかりと大学で学んで来て頂きたいと思います。**
- **前向きに仕事に取組み、幅広い分野について興味を持ち自分自身の財産としていこうとする意欲やこだわりを期待しています。また、与えられた仕事をこなすだけではなく、自らの仕事として意欲的に取り組める人材を期待します。**
- **語学力については、より向上させて頂きたい。**
- **高専の本科から編入、あるいは専攻科から大学院を目指された学生さんは、学部･修士の方に比べて英語が苦手な方が多いので、今後グローバルな人材を育成する観点からも英語力の強化（会話、国際会議でのプレゼンなど）を望みたい。**
- **色々とこれから要求したいこともありますが、入社3年ですので特に不満はありません。しいてあげるなら、もう少し柔軟性があればよいと思います。（※特定の答えにこだわる。がんこ？。）**
- **現状不足しているという訳ではなく、さらに高めて頂きたいという意味において、研究活動の社会的意義、その実現に向けて、強い探究心と工夫をベースに主体的に取り組んで頂きたいと考えております。**
- **グローバルを意識した経験（留学、海外学会でのプレゼン等）**
- **高い専門性、英語。**
- **下記用語の説明にあるすべての能力を望む。**
- **未知の世界に積極的に取り組む、飛び込んでいく気概を兼ね備えていることを期待しています。**
- **専門性のみならず幅広い知識も身に付けてもらいたいと考えております。**

３．九州工業大学 大学院工学研究科の教育に対して、ご意見・ご要望（企業が必要とする人材の専門分野、専門知識等）がございましたらご記入下さい。

指摘されている事柄をキーワードで列挙すると、「創造力」、「探究力」、「語学力」、「コミュニケーション力」、「基礎の工学分野の確実な理解」等の育成を期待されていることがわかる。

- **今後の製品開発において、既存技術を組み合わせ、新たなものを創造していく力が必要となってきています。これまでの教育で学んだ事を活かし、自ら考え、物事を探求していくような教育を充実させて頂きたいと思います。**
- **今後の当社のグローバル展開を考えると、海外技術者との交渉ができるための英語等の語学力が必要となります。また、機械設計の基礎や人間工学（マンマシンインターフェース等）、パワエレ全般に関わる予備知識があると望ましいです。**
- **弊社に推薦される学生さんは、従来”元気のある現場向きの方”が多かったが、最近は大人しく、ややコミュニケーション力に不安のある方が増えてきている。学力の向上も重要であるが、研究室やサークル、あるいはアルバイト、インターシップを通して、上下関係や同僚、友人との付合いなどを体験させてほしい。なお本調査は大学差<<個人差をともなうので参考のレベルである。**
- **制御、IT分野。**
- **早い段階で、BtoB企業をもっと知る機会を作っていただき、企業を選ぶ際の選択肢を広げてほしい（キャリア教育として）**
- **基礎となる工学分野の確実な理解を用する様な教育を頂く事を望む。**
- **非常に意欲の高い優秀な方が多いです。海外で活躍されている方も多くいます。**
- **今後ともよろしくお願い致します。**

- **従来と同様に熱意に満ちた学生を1名でも多く社会に送り出してくれることを期待しております。**
- **特にはございませんが、九州工業大学様で実施されている、他大学と異なる特殊なカリキュラム等がございましたら、ご教示いただければ幸いに存じます。**
- **最近入社して頂いた方の英語能力は低かったです。あくまで本人の問題と認識しておりますが、よく高いレベルの語学教育を行って頂けますと幸いです。**

4．全体としての傾向

2011 年度においては「普通」以上の評価は、「語学」を除く 10 項目が 95%以上であり、なかでも「教養」、「理数系」、「専門」、「課題探求能力」、「独創性」、「仕事に取り組む熱意」6 項目は 100%である。「やや優れている」以上の評価は、「仕事に取り組む熱意」が 90%と高く、60%代に「理数系」、「専門」、「課題探求能力」、「課題解決能力」の 4 項目、40%代に「教養」、「独創性」、「構想力」、「表現力」、「コミュニケーション能力」の 5 項目が続き、「語学」は 20%代を低迷している。全般的には前年度からはわずかに減少している。また、「劣る」の評価は全項目からなくなり、「やや劣る」の評価も「語学」の 24%を除いて他の項目での回答数は０もしくは１である。

全般において修了生は企業から高い評価を受けていると判断できる。しかし、「語学」、「教養」、「独創性」、「構想力」、「表現力」、「コミュニケーション能力」についての評価は相対的には低く、継続的な対応策を講じていく必要がある。とくに「語学」については緊急性をもつ課題である。

２．５　教育達成度評価アンケート：卒業生
（２００９年３月以前卒業生）

本節（2.5）と次節（2.6）では、まだ、九州工業大学工学部及び大学院工学府（旧工学研究科）における教育効果が残っていると思われる入社後３年程度を経過した本学卒業生・修了生を対象に、彼らが大学時代に受けた教育レベルと満足度に対するアンケート調査を実施し、その結果をまとめています。

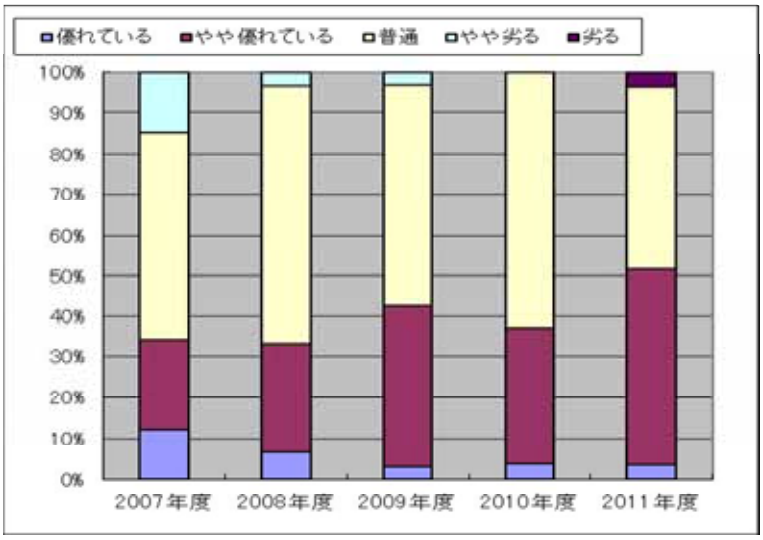
※アンケート実施年月日　平成２４年　６月　１日
※アンケート回収率

配付枚数	回収枚数（回答率）
１４２名	２９名（20.7

１．教育の達成度について、該当項目に○をつけてください。

（１）あなたが受けた教養教育のレベル

2008年度以降、「普通」以上の評価は95%以上を維持しており、「やや優れている」以上の評価は2005年度から初めて50%を超えた。概ね肯定的評価を受けていると判断されるが、改善の余地をまだまだ残している。

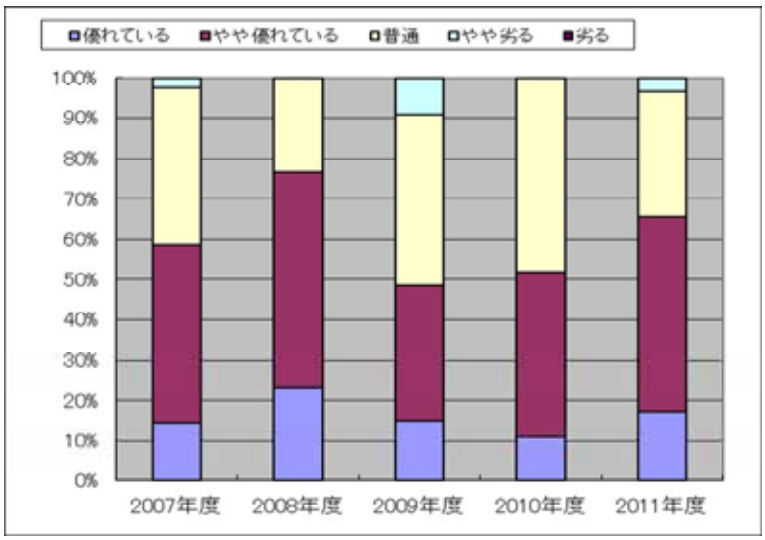


（２）あなたが受けた語学（とくに英語）教育のレベル

「普通」以上の評価が概ね40～55%の範囲で推移している。「劣る」の評価は10%以上が続いており、2011年度の「やや優れている」以上の評価は０となった。卒業生からの強い批判と受けとめ、早急の改善策が必要である。

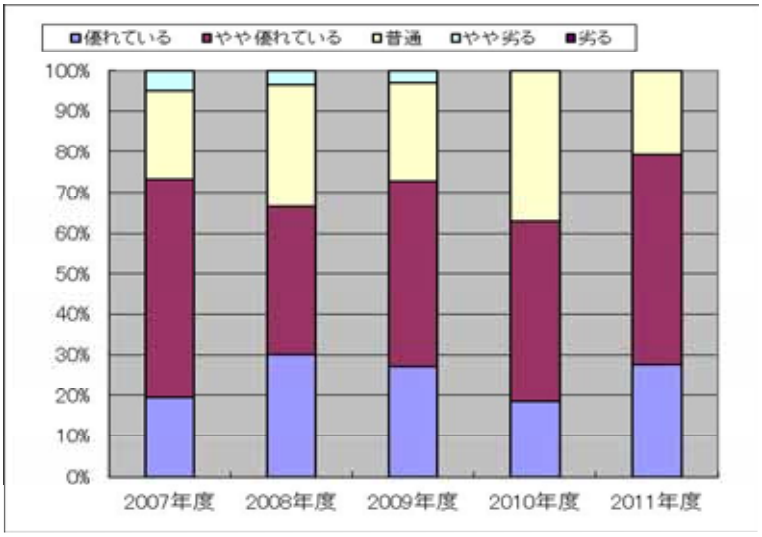
（３）あなたが受けた理数系教育のレベル

2010年度と比べて2011年度においては「優れている」「やや優れている」の肯定的評価の割合は１０％以上増大している。2011年では前年と比較して改善していることがわかる。

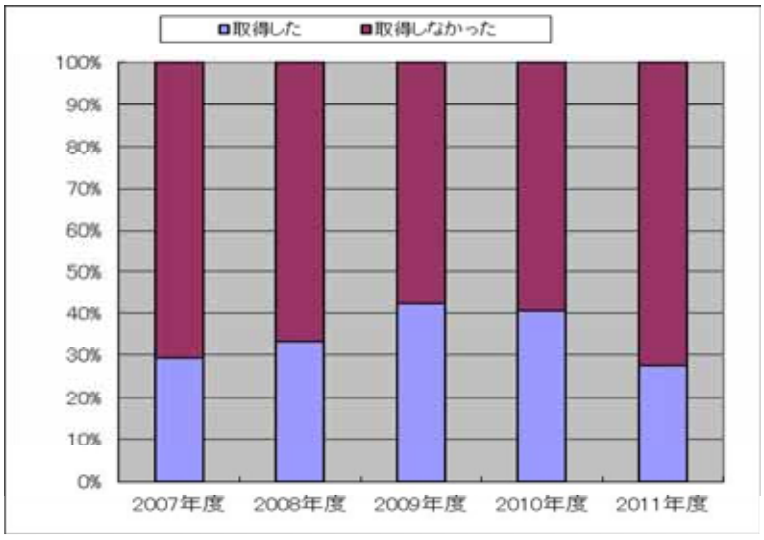


（４）あなたが受けた専門教育のレベル

2011年度においては「優れている」、「やや優れている」の肯定的評価が全体の80%を占めている。これは、過去数年の成績と比較して、１０%以上増加した。否定的評価も、2010年度に引き続き、ほとんどみられない。



（５）あなたは入社後資格を取得しましたか？



○入社後取得した資格（具体的に）

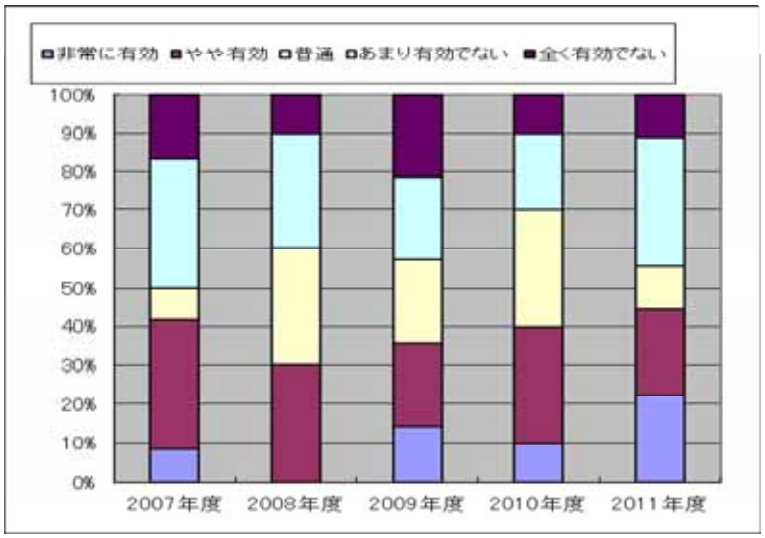
- **二級建築士**
- **ITパスポート**
- **2級土木施工管理技士**
- **第一級陸上無線技術士、**
  電気通信主任技術者（伝送交換）、CCNA。
- **酸素欠乏危険作業主任者、**
  特別管理産業廃棄物管理責任者。
- **基本情報技術者**
- **技術士（機械部門）一次試験合格、**
  第2種電気工事士受験中。

１０件の資格取得は認められている。2011

年度には 2009 年や 2010 度より 10%程度取得件数の割合が低下している。今後、資格取得に関する意識を高める教育も必要と考えられる。

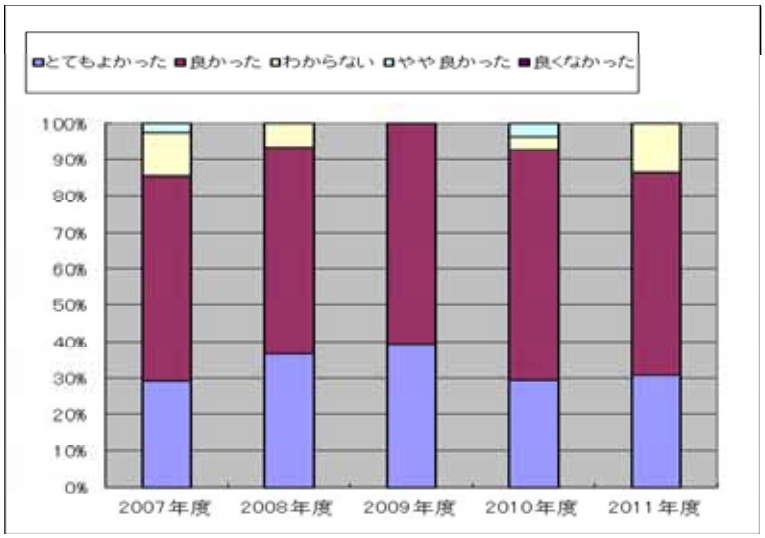
（６）資格を取得した方にお尋ねします。本学の教育は資格取得に有効でしたか？

2011年度では2007年以降2010年まで、「全く効果がない」の強い否定的評価の比率が１０％以上である。全般的には肯定的評価は４０％程度に留まり、大差はない。否定的評価に関しては資格の種類と大学教育のマッチングの問題等も関与しているものと考えられる。



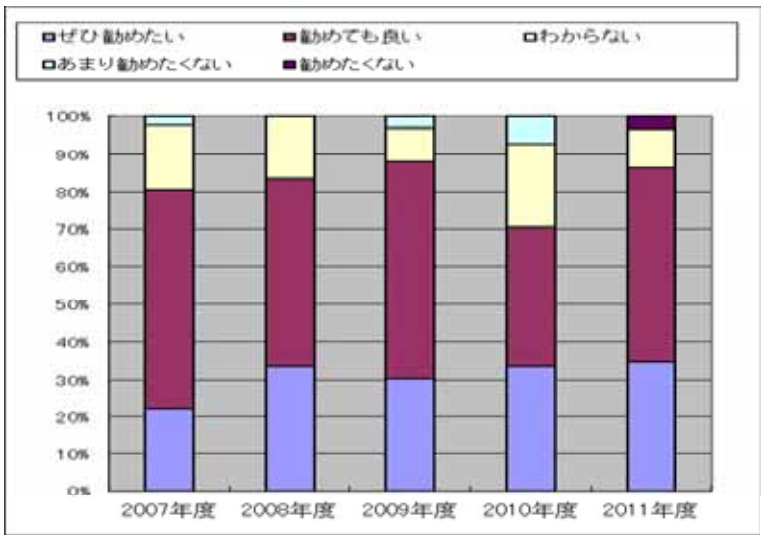
（７）あなたは、九州工業大学工学部を卒業してよかったと思いますか？

2011年度においては「とても良かった」「良かった」の肯定的評価が依然９０％近傍であるものの、「わからない」の中庸的評価をする割合も１０％程度みられる。全体的にはほとんどの卒業生が今の仕事を続けていく上で、本学で受けた教育の成果を肯定的に考えている。



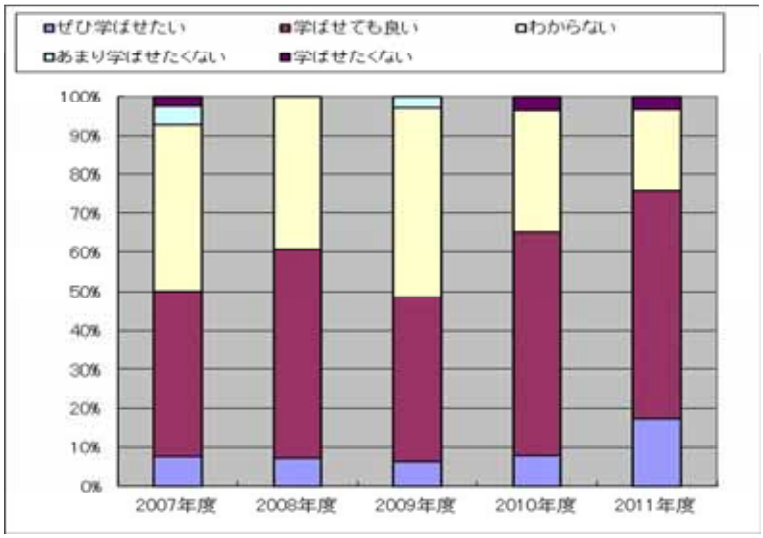
（８）あなたは、九州工業大学工学部を魅力ある学部として後輩に勧めたいと思いますか？

2011年度においては、「ぜひ勧めたい」、「勧めても良い」の肯定的評価の割合が2010年度の７０%から約２０%程度増加している。いずれにおいても、九州工業大学工学部を魅力ある学部として後輩に勧めたいと思うように更なる努力が必要であろう。



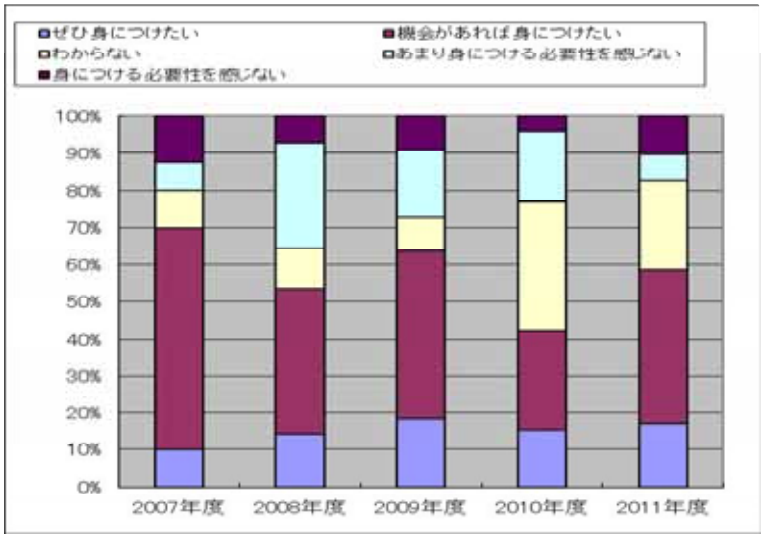
（９）あなたは、将来、子供ができたら、九州工業大学に学ばせたいと思いますか？

2011年においては、「ぜひ学ばせたい」、「学ばせても良い」の割合が75%以上に達している。これはここ５年間では最高の数字であり、今後も更なるこの流れを継承し、より魅力ある大学にする努力が必要である。



（１０）あなたは、更に高度な学力（修士、博士）を身につけたいと思いますか？

2011年度は2010年と比較して、高度な専門性の学力習得に肯定的評価をするものが２０%以上増加している。一方、高度な専門性の学力習得に否定的回答の割合が５%程度から１０%程度に増加している。同様に「わからない」と回答した割合も減少している。かなりの数の学生がその必要性に迷いを持つようになっていることは明らかである。



2．あなたが九州工業大学 工学部 に在学して良かった点がありましたらご記入下さい。

九州工業大学で学んだことが十分職場で役立っている。特に研究室に入ってからの研究と教育によって習得したことが有効であったと考えられる。専門教育やその教育レベルの高さについての満足度は高く、研究指導では学術面の指導のみならずサークルや共同研究を通じての有意義な人的交流も特筆されている。

- **在学中に得た専門的な知識と研究室での経験。**
- **専門的な学問とその分野のエキスパートな先生の元で学ぶことができた。**
- **実験設備等が優れていたと思います。**
- **伝統ある学校であり、多岐企業に諸先輩が在籍されており、交流が出来る。**
- **推薦も多数あり、企業とのつながりも強いので、大学できちんと学べば就職率が高いということは非常にうれしい点だった。 専門分野の教科書は仕事を始めてからも活用できるので良いと思う。**
- **他の大学に比べて教育のレベルが高い。**
- **就職率が良いところ。**
- **現在の業務に関わりの深い、無線の知識を身に付けられてよかった。会社内にも九工大ＯＢが多く、コミュニケーションがとれる。**
- **九州では良く知られていて、説明し易い。**
- **学生の学ぶ意識が高く、お互いに高め合える点。学問に対して厳しい指導を頂き、内容は違えど、考える力は入社後も役に立っています。**
- **工学部での専門教育のレベルの高さ、学生のレベルの高さを肌で感じることが出来た。また、就職してからもＯＢの方々との懇親会などで様々な知識を得ることが出来る。つながりの強さが今でも役立っている。（他の大学の卒業生よりＯＢとの繋がりを強く感じる。）**
- **工学分野の基礎を学び、会社で作業を行う際に助けとなる事が多々有る。**
- **ある科目を履修していれば、卒業後に資格が取得できる点。**
- **最近では大学でもＣＡＤの導入が進んでいるが、私の所属していた機械知能工学科では必修科目の製図の講義では手書きで図面作成を行った。当時は非常に辛かったが、今ではいい思い出である。また、九州工業大学は非常に歴史のある大学であるため、会社にも多くのＯＢがいらっしゃるため、そこのつながりにより、気軽に仕事の相談などを行え、強みの１つとなっている。**
- **専門的な知識を多く学ぶことが出来た。**
- **入社後の大学のつながりが強いこと。**
- **教育環境が整っており、先進的/専門的な分野について深く学べる点。**
- **研究室の先生のおかげでもあると思いますが、学部生のときに学会で発表できたことです。早い段階で良い経験が出来ました。**
- **３年次からのコース選択実施により、材料学に特化した学問を学ぶことが出来た。金属の組織学を専攻していたこともあり、現在の会社に就職したこと。**

3．あなたが九州工業大学 工学部 に在学して不満を感じた点、こう改善すべきだと感じた（例えばこういった技術（科目）を教えてほしかった）点がありましたらご記入ください。

学部の教育の目的や課程と日常の会社業務遂行に必要とされる能力や資格の差異については本人の意識も截然としていないため、アンケートには「不満」として表れてしまったように見受けられる。特に卒業後の業務内容との関係で一般教育や専門科目に対する要望が示されている傾向にあり、そのため実践的教育を望む声が多い。大学教育における論理的思考能力の育成という基本的課題との調和を図りながら、英語教育、プログラミング言語、CAD 等の科目のより一層の充実が求められている。

- **英語をより強化すべき。**
- **設備の充実。グローバルな文化に触れる環境づくり。語学学習のサポートの充実。**
- **やはりこれからはグローバル化が進んでいくので、英語にもう少し力を入れていいのではないかと思った。（私自身、働き始めてから英語が出来なくて苦労しているという現状があるので。）**
- **実業系の科目がないので、大学で学んだ知識がほとんど仕事に直接活かせない。**
- **英語の授業が3年次にも欲しかった。1，2年次基礎、3，4年次専門という分け方があったように思う。1，2年次に簡単な専門科目があればと思う。専門では疲労力学、破壊力学が欲しかった。**
- **入社後は英語が必要で、TOEICを受験するが、大学時代あまり力を付けられなかった感がある。（自分の責任もあり。）**
- **英語の授業レベルが低い。（もっと英語を伸ばす取組みをしてはどうでしょうか。）←留学以外で、全体的にレベルを向上させるような。**
- **学部で卒業しましたが、専門知識が薄く困ることが多々ある。学部卒でも専門知識を活かせるような（実践で使えるような）教育をしてほしいと思います。**
- **語学（英語）に関して、勉強不足を痛感することが有る。TOEIC受験を必修とする事が有っても良いと感じた。**
- **英語をもっと学んでおきたかった。各教科毎のつながりが見えにくい⇒実験などを通して、その繋がりを把握すべき。**
- **社会人になり、英語を使うことが多々生じる。大学時には英語のリーディング、ライティングを学んできたが、英会話についてはほとんど学ぶ場がなかった。社会人になると、メールのやり取りでリーディング、ライティングのスキルが必要になるが、同頻度で会話能力も必要となる。大学時にしっかり英会話能力を高めておきたかった。**
- **高専では研究室にいましたが、大学3年次編入すると、研究室も無く一年間もったいない気がした。一般科目の単位を取るため希望した講義が人気が有ったようで、他の講義に回された。編入生は（おそらく）上期しか受けないので、興味の無い授業を受けさせられた記憶があります。**
- **もう少し語学（英語）の授業を増やすべきだと感じた。**
- **他の大学や外国、企業との交流の機会をより増やす事で、様々な考え方、知識、経験に触れ、技術者としての幅を拡げることが出来るのではないかと思います。**
- **学部から院に上がる時、自由に研究室を選べるようにして欲しいです。研究室で学んだ内容が就職に多少なりとも反映します。進みたい道を選び直す機会を増やして欲しいです。**
- **英語を必修とする単位を増やして欲しかった。**

４．全体としての傾向

回答のあった卒業生は２９名（回答率 20.7%）であった。問２の「在学して良かった点」と問３の「不満を感じた点」で相反する形の回答が散見され、各人の在学中や就職後の充実感・手応えと言ったものが多様であること、また卒業生の向上心が高いことを反映している。

学部教育と大学院前期、そして大学院後期の教育の目的と実社会の業務遂行における能力・資格の差異が本人にも截然と意識されていないためアンケートには「不満」として表現されてしまったような部分が見受けられる。

大学教育における論理的思考能力の育成という基本的課題との調和を図りながら、英語教育、実験・実習、プログラミング、プレゼンテーションなど実践的科目のより一層の充実が求められている。

２．６　教育達成度評価アンケート：修了生
（２００９年３月以前修了生）

※アンケート実施年月日　平成２４年　６月　１日

※アンケート回収率

配付枚数	回収枚数（回答率）
１８８名	２４名（12.7%）

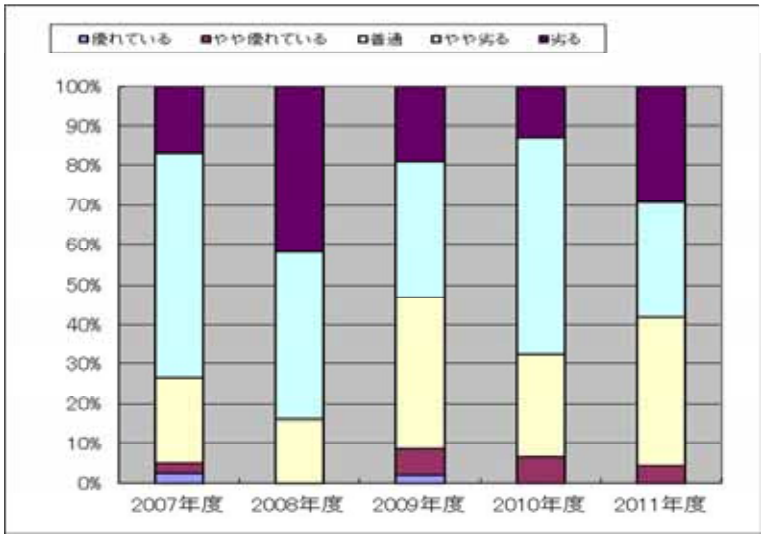
１．教育の達成度について、該当項目に○をつけてください。

（１）あなたが受けた教養教育のレベル

2010年度は「優れている」と「やや優れている」の割合が2009年度より微増している。教養教育のレベルについては肯定的に評価されている。しかし、2011年度は肯定的に評価している割合が４０％弱に減少している。

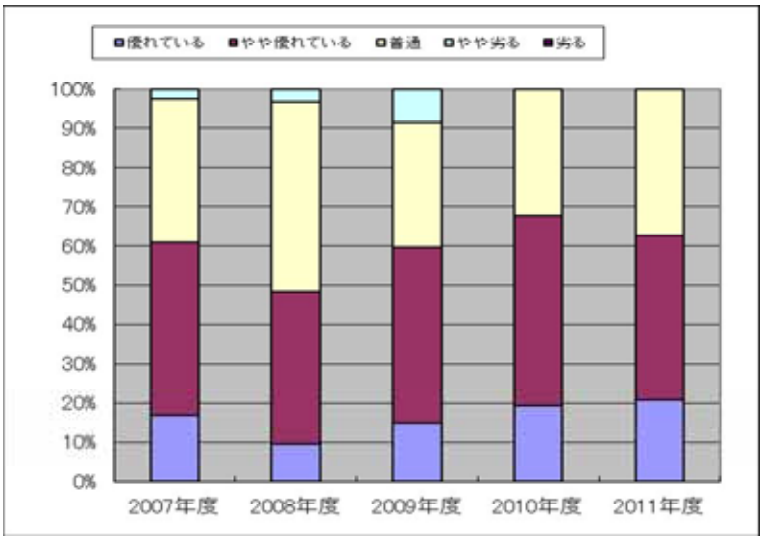
（２）あなたが受けた語学（特に英語）教育のレベル

英語等の語学教育については、現状の批判的評価が2008年度より見てみると次第に減少したが、2011年度は幾分増加した。しかし、中庸的評価が減少し、肯定的評価も増加している。今後も特に英語教育を改善する必要がある。



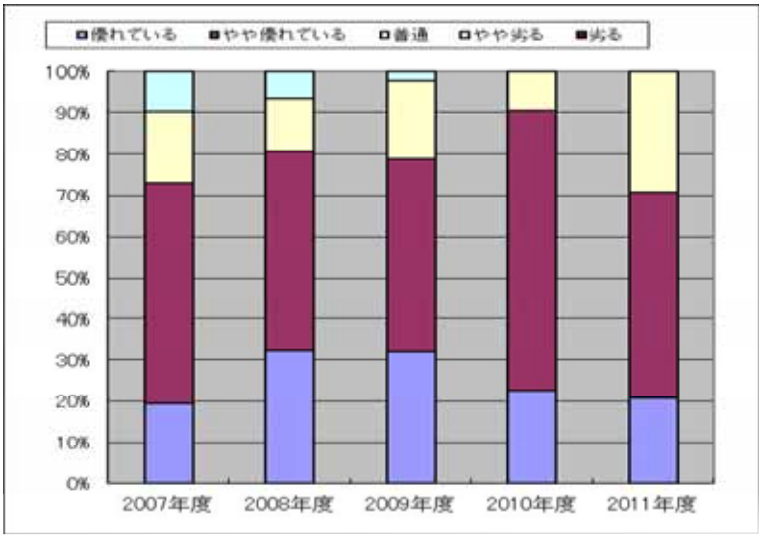
（３）あなたが受けた理数系教育のレベル

理数系の教育レベルについては、肯定的評価が７割程度であり良い評価を得ている。2009年度に10%程度あった「やや劣る」は2010年度においては消えており、改善が進んでいることがわかる。2011年度もこの傾向がうかがわれる。



（４）あなたが受けた専門教育のレベル

専門教育のレベルについては、肯定的評価が９０％程度あり現在の教育内容が高く評価されていると判断できる。全体的に肯定的評価が７０％を超えている。

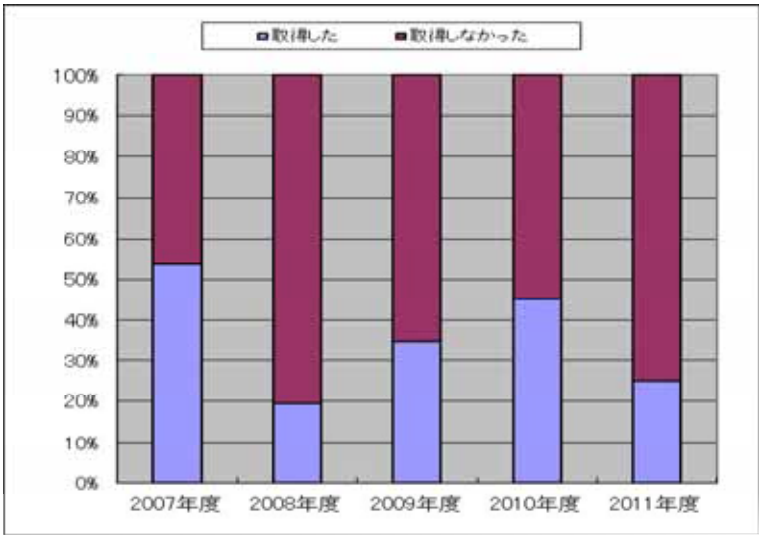


（５）あなたは入社後資格を取得しましたか？

○入社後取得した資格（具体的に）

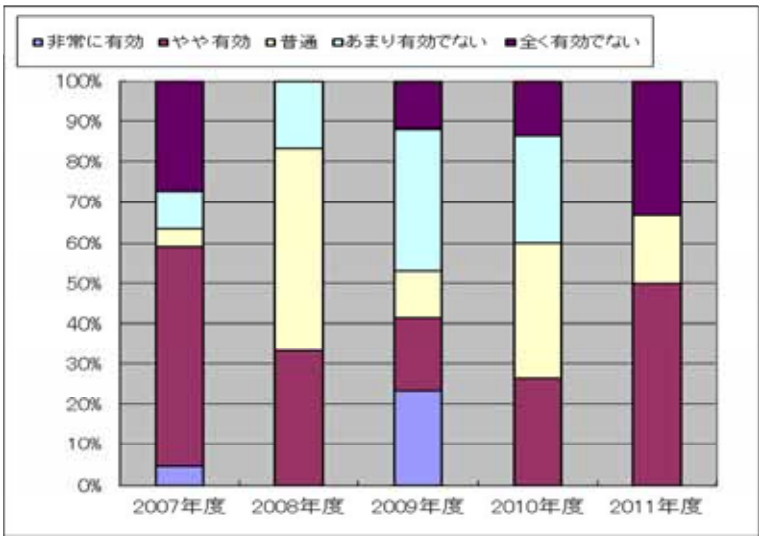
- **玉掛、酸欠硫化水素危険作業主任者等。**
- **技術士補、土地区画整理士。**
- **公害防止管理者（ダイオキシン）、危険物２４。**
- **床上操作式クレーン技能講習、玉掛技能講習。**
- **危険物取扱者甲種。**
- **公害防止管理者。**

入社後に何らかの資格を取得した者の比率が 2010 年度より 10%減少している。



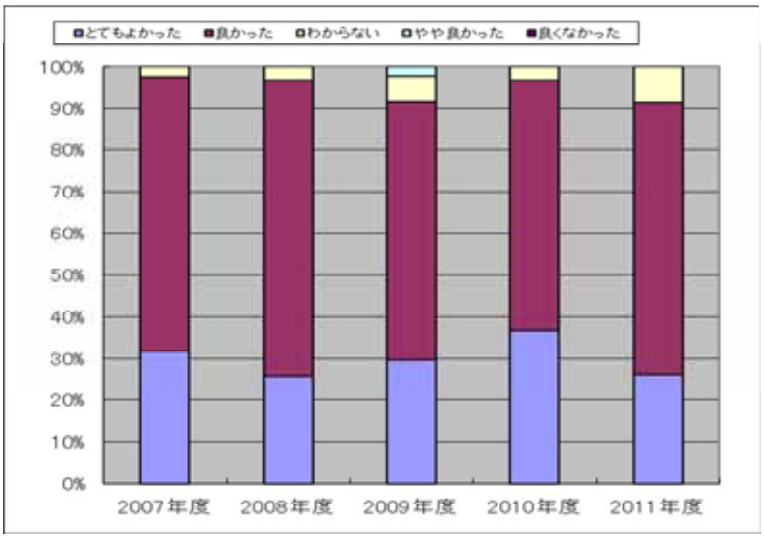
（６）資格を取得した方にお尋ねします。本学の教育は資格取得に有効でしたか？

資格取得に対する本学の教育を肯定的に評価する者の数が減り、「普通」以下の評価をする者の数が増えた。2010年度に続いて強く肯定した者はいない。今後の調査が必要である。



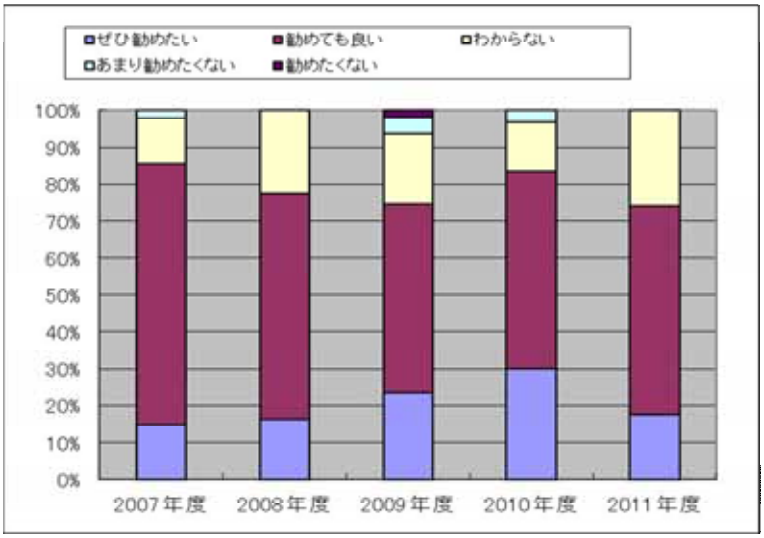
（７）あなたは、九州工業大学大学院工学研究科（博士前期又は後期課程）を修了してよかったと思いますか？

工学研究科の教育のあり方としては、2011年度も、これまで同様、大多数から肯定的評価を受けていると判断できる。



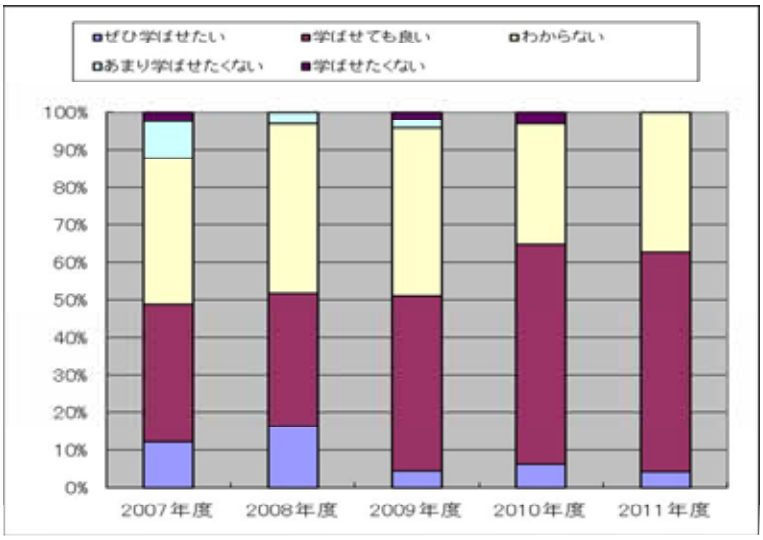
（８）あなたは、九州工業大学大学院工学研究科を魅力ある研究科として後輩に勧めたいと思いますか？

2010年度から2011年度にかけて「ぜひ勧めたい」が10%程低下したものの、依然、肯定的評価が７０％を超えている。今後は「わからない」の中庸的評価の比率を下げていく必要がある。



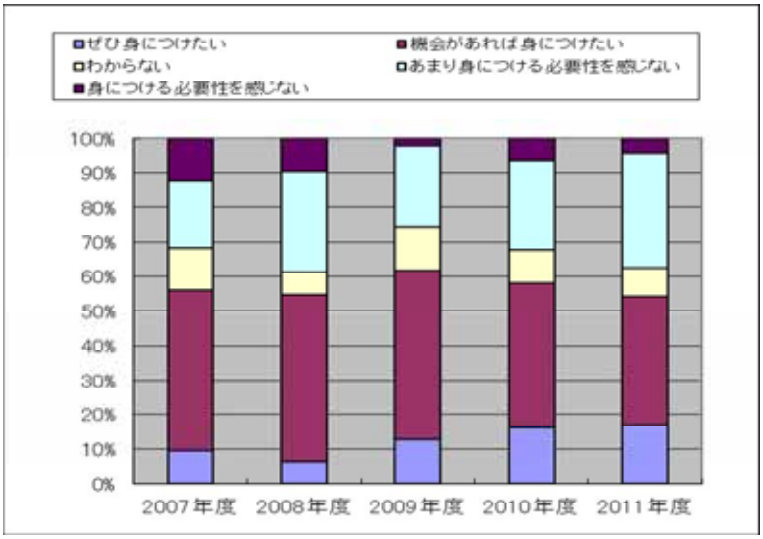
（９）あなたは将来、子供ができたら、九州工業大学に学ばせたいと思いますか？

2011度の傾向を見ると、「ぜひ学ばせたい」と「学ばせても良い」が合計で60%程度にまで上昇し、2010年と同様、この５年間で最も高い評価を得ている。しかし依然「わからない」以下の回答も多い。より魅力ある大学にする努力が必要である。



（10）あなたは、更に高度な学力（博士）を身につけたいと思いますか？

「ぜひ身につけたい」と「機会があれば身につけたい」の肯定的評価は６０％近傍にあり、例年と大差は無い。一方で、「あまり身につける必要性を感じない」と「身につける必要性を感じない」は１０％以上程度増加している。高度な学力を身につける意義を周知する必要がある。



２．あなたが、九州工業大学大学院工学研究科に在学して良かった点がありましたらご記入ください。

大学院に在籍して良かった点として、研究指導を通しての教員とのコミュニケーション、在籍中に学んだ専門知識、研究室での先輩、同輩、後輩との交流や深いつながり、学会発表、産学連携などを挙げている。このような評価は昨年と同様であり、今後もその維持と一層の高度化を図りたい。

- **伝統校であるため、就職活動にて困らなかった点。**
- **専門的な知識を学ぶことが出来た。**
- **網羅的な教育のおかげで、仕事のテーマが変わっても、大学で学んだことそのものではないにしても当たりがついて役立つ。**
- **仲間や友人のつながりが強い点。**
- **業務に活かせることが稀にある。**
- **就職の際、院卒は有利。就活時点ですでに自分の研究テーマを持っているため、話す内容に困らない。また、就職後のイメージも出来るため、院への進学はお勧めする。**
- **研究過程において、物事の真理を見抜くトレーニングを積むことが出来たこと。建設の分野において、専門的な学習を出来たこと。**

- 専門的に学ぶことが出来たのが良かった。その為、就職活動でのアピールがしやすかった。また同じ内容をより深く学ぶことができたのも良かった。
- 研究内容が現在の業務と近いものがあり、役に立っている。数学、電気知識に関しては不自由していない。
- より深い知識を学ぶことが出来た。最新の研究に関わることができたので、自分の中に新しい考え方を入れることが出来た。
- 卒業後もお互いに連絡を取り合う友人に出会えたこと。 入社後も大学の先輩と親しくなれたこと。
- 好きなことをやらせてもらえた点。具体的には、人力飛行機製作チームや、研究でも人力飛行機に関連すること。
- ＰＣ作業に詳しくなれた。
- 講義の量のバランスが良く、研究に十分な時間が取れた点。
- 理数系の教育内容は高いレベルにあると感じている。 利便性が高い（交通、生活、etc）。 就職に優利な点がある（ＯＢ、ＯＧ）
- 工学の基礎から丁寧に分かり易く学べた点。
- 会社にＯＢの方が多い。
- 学会参加を通してプレゼンテーション能力を養えたこと。
- 専門教育において、先生に非常に恵まれたと感じています。

３．あなたが、九州工業大学大学院工学研究科に在学して不満を感じた点、こう改善すべきだと感じた（例えばこういった技術（科目）を教えてほしかった）点がありましたらご記入ください。

英語教育の必要性を求める意見と、より実践的な専門科目や社会的に必要とされる教育やスキルを求める声が多い。今後は高度な専門教育と同時に企業等で求められるビジネスマインドを涵養するような教育への対応を考える必要がある。

- 物作りの実習をもっと増やしてほしかった。 英語は「学習」ではなく「実習」が良いと思う。
- もっと奥深くまで、その専門的な知識をどう活かすのか、どう実現するのか、そこまで深く学びたかった。（例えば制御理論を学習した後、これをプログラミングして実際に物体を動かしてみる等）
- 組込みシステムに関する技術を教えて欲しかった。実験に関して、各々のテーマは良かったが、当時はきちんと理解して実験できていなかった。レポートの提出で終わりになっているので、その後の原理の解説等のフォローに力を入れて欲しかった。
- インターシップを学生に対して積極的に行い、企業で社会人としての考え方が学生との違いを身をもって体験する機会を増やして欲しい。
- 具体的にロボットを作るなど、モノづくりに直結する内容でより実践的な授業を受けたかった。
- リクルーターをもっと呼んで欲しかった。九州にはない企業が多いので、説明会に行くのにもコスト面で苦しかった。
- 建築を学べる機会をもっと早く作って欲しかった。 ＪＡＢＥＥ認定をもっと早くして欲しかった。周囲の同僚は技術士を二次から受けることが出来ている。 社会を学べる機会をもっと増やして欲しかった。カリキュラムが専門技術に特化しすぎていると思う。 女性の技術者をもっと育成するしかけがあっていいと思う。
- 最近ではどの工学系の場合でもIT系が関係していることが多いので、プログラム、ＰＣ関係の内容を強化したほうが良い。

- **英語能力に関しては非常に劣っており、不便な点が多々ある。また、はんだこての扱いを一年次に学習するが、業務で使用するチップ抵抗等の大きさはミリメートルレベルのものであり、そのサイズのはんだ付けを在学中に経験しておきたかった。**
- **知識や本研究がその後の仕事や生活に直接的に関わる事は少ないので、智恵の出し方？を学ぶ機会がもっとあっても良いと思う。（新しい取組みは初めのうちはすべて生徒に任せてみるとか）**
- **流体力学、燃焼についての講義を受ければよかったと思う。**
- **語学教育レベルが低すぎること。また３Ｄ－ＣＡＤ等を使用した実践的な教育が無いこと。**
- **受身になって聞くだけの講義ではなく、問題に対する解決策を創意工夫できる力を育てる事が重要だと思います。よく言われる事ですが、仕事を通して改めて実感しました。**
- **語学力の強化を考慮する必要を感じる。 実践に近い形での実験、研究等が早い段階にあっても良い。**
- **語学留学などの機会を与え、もっと英語にふれあう機会が多かったらと思う。**
- **普通鋼だけでなく特殊鋼の技術も学べれば良かった。**

４．全体としての傾向

回答者 24 名、回答率 12.7%で昨年度より回答率が半減しているものの、昨年と同様に修了生の工学研究科に対する評価はかなり高く、研究室での生活が充実したものであったことがわかる。また、専門性、プレゼンテーション能力、問題解決能力の向上にも十分な満足度が得られているものと判断される。しかし、英語教育については 1.の(2)にあるように、依然修了生は不足感を感じており、大学院の英語教育のあり方を議論し、対策を施す必要がある。

3　大学院工学研究院・工学府・工学部の管理運営

3．1　大学院工学研究院・工学府・工学部の組織図

平成23年度の管理運営組織並びに意志決定体制を、図3．1．1及び図3．1．2に示す。

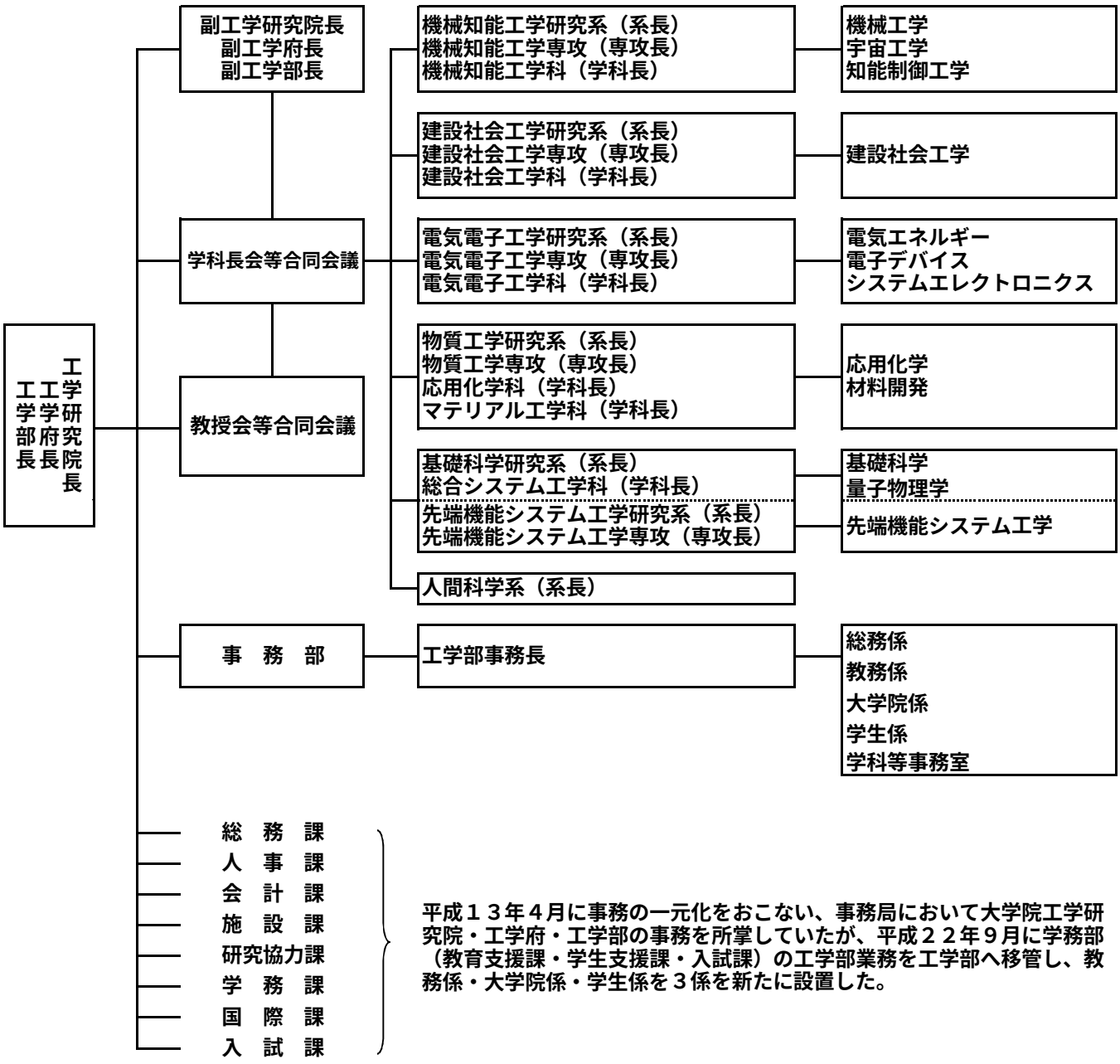


図3．1．1　組織図

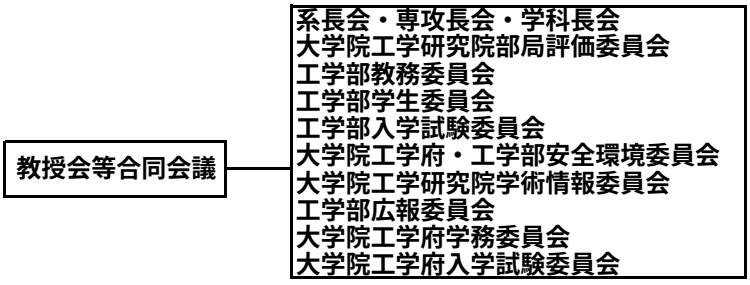


図3．1．2　各種委員会

３．２．１ 大学院工学研究院部局評価委員会

１．今年度取り組んだ課題

（１）平成２２年度卒業生、修了生アンケートの解析・まとめ
（２）平成２２年度企業アンケートの実施と解析・まとめ
（４）「現状と課題」平成２２年度版の発行
（５）平成２３年度の各種アンケートに関する検討
（６）平成２４年度に実施される教育職員評価方法の検討

２．今年度採択した事項

（１）各種アンケートの結果をまとめ、「現状と課題（平成２２年度版）」に掲載した。
（２）平成２３年度卒業生・修了生アンケート内容を検討した。
（３）平成２３年度企業アンケート内容および実施方法を検討した。
（４）平成２４年度に実施される教育職員評価に対する準備を行った。

３．残された課題または将来解決すべき事項

（１）各種アンケート結果の効果的な活用

卒業生，雇用主等への各種アンケートは教育システムの評価に不可欠のものであり、今後も継続して実施すべきである。しかし、この結果を評価だけではなく、教育システムの改善にさらに効果的に反映させる方法を考える必要がある。

（２）教育職員評価

大学評価委員会において平成２４年度実施の教育職員評価方法の検討が行われ、部局評価委員会においても各系の意見を集約して提言等を行った。評価方法は、教育職員の評価をできるだけ公平に行えるよう、多くの議論を行って決定した。ただ、教育職員の分野の多様性、評価される側、評価する側の考え方の違いがあり、まだ改善の必要はあると思われる。平成２４年度実施される教育職員評価の反省をふまえて更に改善の努力が必要である。

４．委員会の議論に使用された主な資料

・工学研究院部局評価委員会内規
・平成２１年度工学研究院部局評価委員会委員会報告
・教育達成度評価アンケート実施のための情報提供依頼文書（案）
・雇用主アンケート（案）
・修了・卒業後３年が経過した修了生・卒業生に対するアンケート（案）
・平成２２年度第４回大学評価委員会議事要旨（案）
・平成２４年度に実施する教育職員評価の方針に対する意見について
・平成２３年度第１回大学評価委員会の報告について
・教育職員評価に関する具体的検討（案）
・企業アンケート分析結果について
・卒業生・修了生アンケートについて

・「現状と課題」２２年度版について

５．工学部の現状に関する意見または改善に関する提言

上記３．（１）（２）と同様。

６．昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

（１）各種アンケート結果の効果的な活用

卒業生，修了生，企業を対象とした３種類のアンケートを応用化学科で行っているＪＡＢＥＥプログラムに必要なアンケートと兼ねるため、本アンケートの目的を修正した。ただ、その他の教育システムへの反映については十分と言えず、何か方策を考える必要がある。

（２）教育と研究の活性化システム

各種アンケート結果を教育と研究の活性化に使用するためには、この結果をフェードバックするループが必要である。これは、以前からの課題であり、今年度も議論はしたが良い考えは得られなかった。今後も引き続き検討する必要がある。

（３）教育職員の評価

大学評価委員会において、平成２１年度実施の教育職員評価をふまえて、勘案すべき評価項目について検討を行った。部局評価委員会においても、大学評価委員会の議論を随時フィートバックし、意見の反映に努めた。ただ、まだ十分とはいえず、２４年度の実施結果に基づいてさらに改善する必要がある。

３．２．２　工学部教務委員会

１．今年度取り組んだ課題

（１）教育関係

●教育目標

①ディプロマポリシーおよびリキュラムポリシーの作成について

●中期計画・中期目標

①平成 23 年度中期計画・中期目標について

②平成 24 年度年度計画について

③AHELO 関連の調査のについて

●成績

①学修自己評価システムの運用上の問題点について

②卒業査定について

③進級査定について

●学生

①学習支援室について

②Web 上の教育支援資源の調査について

③英語能力試験を受験するための支援環境調査について

④ＴＡの活動状況の調査・検討について

⑤平成 24 年度コース分けについて

●単位認定

①外国語能力試験の成績に基づく単位認定について

②オールドドミニオン大学（ODU）夏期コース受講に係る工学部授業科目の認定について

③e ラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位

●新入生、編入生

①推薦入試合格者の入学前教育について

②平成 24 年度オリエンテーションスケジュールについて

③平成 23 年度編入生の単位認定について

④編入生の単位認定について

●平成２４年度

①平成 24 年度学年暦について

②平成 24 年度時間割の作成について

③平成 24 年度シラバスについて

（２）授業関係

①キャリア科目及びインターンシップについて

②PBL 教育科目の増設について

③工学部基礎共通実験実習経費について

④大学院入門科目について

⑤昌原大学校との短期プログラムに係る授業科目について

⑥読替科目一覧表の確認について

⑦人間社会科目のカリキュラム変更について

（３）修学指導

①平成 23 年 3 月 31 日に休学期間満了となる学生について

②全学生の保証人への成績郵送について

③履修登録をしていない学生について

④１年次生保証人への単位修得状況の通知について

⑤学生の修学状況の確認について

⑥除籍対象学生への通知について

⑦連続する２年間で３０単位を修得できない学生について

⑧指導スケジュールの策定について

（４）その他
①福岡県立ひびき高校との高大連携に係る公開授業について
②工学部学修細則の一部改正について

２．今年度採択した事項

（１）教育関係
●教育目標
①ディプロマポリシーおよびリキュラムポリシーの作成について
全学のディプロマポリシーおよびリキュラムポリシーに基づき、学部のディプロマポリシーおよびリキュラムポリシーを作成した。さらに、学科ごとに、ディプロマポリシーおよびリキュラムポリシーを作成した。
●中期計画・中期目標
①平成 23 年度中期計画・中期目標について
平成 23 年度計画を実施した。
②平成 24 年度年度計画について
平成 24 年度年度計画を策定した。
③AHELO 関連の調査について
AHELO 関連の調査を行うためにワーキンググループを立ち上げた。ワーキンググループより他大学の動向についての調査結果が報告された。
●成績
①学修自己評価システムの運用上の問題点について
学修自己評価システムの運用上の問題点を調査するためにワーキングループを立ち上げた。学修自己評価システムの運用上の問題点を検討した。教員にも本システムを有効に利用してもらうため，新たに、工学部教員用「利用手引き」を作成し配付した。
②卒業査定について
卒業査定を行った。
③進級査定について
進級査定を行った。
●学生
①学習支援室について
新しい取り組みとして、学習支援室教員と教務委員長との懇談会を開催した。
・学習支援室に来室する学生の理解度は向上しているとの調査結果を得た。
・学生の利用率を向上させるための方策等を検討した。
懇談会にて得られた問題点等を明らかにするために以下の調査を行った。
・学生の利用状況を調査した。
・建設社会工学科において、アンケートを実施し、利用していない学生の理由を調査した。
懇談会ならびに上記調査結果をもとに、教務委員会で学習支援室活用法を検討し、以下の方策を実施した。
・講義の際に、学習支援室について紹介し、利用を促した。
・学生掲示版だけでなく、数学，物理，化学の授業が行われる講義室の入口に学習支援室のポスターを貼り，学生への周知を行った。
・前期末に１年生の保証人に対して成績通知を送付する際に、学習支援室のチラシを同封し、広報を強化した。
・「新入生サポートウイーク」において、学習支援室の紹介を行うこととした。
・専門科目中における自然科目（数学，物理，化学）に関する内容について支援を開始することとした。
②Web 上の教育支援資源の調査について
Web 上の教育支援資源に関する現状を調査した結果、Moodle の利用や、教員の HP 上に講義資料を掲載するなどの取り組みが多くなされているなど、全学科で広く資源開発が行われていることを確

認した。教育資源開発を助けるため、教務情報システム（LiveCampas ポータルサイト）に Web 上で使用できる「小テスト機能」を追加した。
③英語能力試験を受験するための支援環境調査について
英語能力試験を受験するための支援環境として，附属図書館等に保有されている教育資源の調査を行った。・調査によって得られた教育資源を有効に利用してもらうため，学生に周知する方法を検討し、以下のとおり実施した。
・英語教育に関する教材（附属図書館の教材、e-ラーニング）の利用促進を図るため、ポスターを作成し、学生への周知を行った。
・教務情報システム（LiveCampas ポータルサイト）に英語の e-ラーニング教材へのリンクを貼り、利便性の向上を図った。
④ＴＡの活動状況の調査・検討について
TA の活用状況を調査・検討するため、今年度新たに、各学科にて、TA の事前指導に関する調査を行った。
⑤平成 24 年度コース分けについて
コース分けを実施した。
●単位認定
以下の単位について認定した。
①外国語能力試験の成績に基づく単位
②オールドドミニオン大学（ODU）夏期コース受講に係る工学部授業科目について
③e ラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位
●新入生、編入生
①推薦入試合格者の入学前教育について
入学前教育内容を検討するためのワーキンググループを立ち上げ、入学前教育参加者のアンケート結果を調査・分析した。
・アンケートの結果から、参加者が概ね満足しており、学習意欲向上に有効であることが確認できた。
・「研究室での研究活動」に対する関心が強いとの意見を受け、複数の学科で、研究室見学を取り入れ、ガイダンスの内容を改善した。
②平成 24 年度オリエンテーションスケジュールについて
平成 24 年度オリエンテーションスケジュールを作成した。
③平成 23 年度編入生の単位認定について
平成 23 年度編入生の単位認定を承認した。
④編入生の単位認定について
JABEE 認定に向け、編入学生の単位認定手続について検討を行い、単位認定対応表などの様式を整備した。
●平成２４年度
①平成 24 年度学年暦について
平成 24 年度学年暦を作成した。
②平成 24 年度時間割の作成について
平成 24 年度時間割を作成した。
③平成 24 年度シラバスについて
平成 24 年度のシラバスを、冊子で配付することとした。

（２）授業関係
①キャリア科目及びインターンシップについて
・インターンシップを推進するため，平成２３年度入学生から「キャリア形成入門」を授業科目として新設した。
・平成２４年度開講予定の「インターンシップ実習」を、今年度早期開講した。
・インターンシップを推進するための情報共有を行うため、キャリアセンター長との懇談会を実施し。

②PBL 教育科目の増設について
・2 科目の PBL 科目（応用化学科「応用化学実験 B」、マテリアル工学科「マテリアルデザイン工学」を PBL 科目）を増設した。
・機械知能工学科で、バイクの分解・組立を用いた PBL 科目の開設が検討され、H24 年度入学生から「機械知能工学基礎実習」が開講される。
③工学部基礎共通実験実習経費について
工学部基礎共通実験実習経費について、平成 23 年度案を作成し、承認した。
④大学院入門科目について
大学院入門科目受講の申請を審議し、承認した。
⑤昌原大学校との短期プログラムに係る授業科目について
授業科目を審議し、承認した。
⑥読替科目一覧表の確認について
読替科目の確認を行った。
⑦人間社会科目のカリキュラム変更について
人間社会科目の新カリキュラムを審議し、カリキュラムを変更することとした。
（３）修学指導
以下①～⑦について、保証人宛に通知文書を郵送した。
①平成 23 年 3 月 31 日に休学期間満了となる学生について
②全学生の保証人への成績郵送について
③履修登録をしていない学生について
④１年次生保証人への単位修得状況の通知について（平成 22 年度より開始）
⑤学生の修学状況の確認について
⑥除籍対象学生への通知について
⑦連続する２年間で３０単位を修得できない学生について
⑧指導スケジュールの策定について
平成２３年度入学生から２年間３０単位未満の除籍条件に休学が含まれなくなることを考慮し、新しい指導スケジュールを審議し策定した。
（４）その他
①福岡県立ひびき高校との高大連携に係る公開授業について
昨年に引き続き公開授業を実施することとした。
②工学部学修細則の一部改正について
学修細則の改正を行った。

３．残された課題または将来解決すべき事項
（１）出席管理システムの運用方法の検討
（２）卒業要件単位数ならびに各科目の単位数の妥当性の検討
（３）学修自己評価システムの問題点の改善

４．委員会の議論に使用された資料
（１）九州工業大学中期計画・中期目標
（２）教育委員会資料
（３）教務委員会資料等

５．工学部の現状に関する意見または改善に関する提言
（１）１５回の授業ならびに十分な授業調整期間・試験期間等を確保するため方策（５時限目の活用、土曜日の活用等）の検討を行う必要がある。

６．昨年度の改善に関する提言に対する、改善状況と未改善及び新たな問題点
（１）各学科コース等が行っている優れた教育活動事例の相互紹介
・Web 上の教育支援資源に関する取り組みを相互紹介した。

・TA の事前指導に対する取り組みを相互紹介した。
・ＰＢＬを含む実験・演習を相互紹介した。

（２）図書館などの施設の新たな活用方法模索

附属図書館等に保有されている英語能力試験支援教育資源の調査を行った。そして、得られた教育資源を有効に利用してもらうため、学生に周知する方法を検討し、以下のとおり実施した。

・英語教育に関する教材（附属図書館の教材、e-ラーニング）の利用促進を図るため、ポスターを作成し、学生への周知を行った。
・教務情報システム（LiveCampas ポータルサイト）に英語の e-ラーニング教材へのリンクを貼り、利便性の向上を図った。

3．2．3 工学部学生委員会

1．今年度取り組んだ課題

⑴ 中期目標･中期計画の立案と実行
⑵ 授業料特別免除に代わるインセンティブ効果のある学生支援について
⑶ 不正行為防止について
⑷ 不正行為に係る学生の処分
⑸ 試験における不正行為（防止）に関する取り進めについて
⑹ 工大祭への対応
⑺ 新入生研修の実施日程及び研修資料策定に係る部局意見の検討
⑻ 学期初回授業における学生への注意喚起
⑼ 安全保障輸出管理に係る外国人留学生受入実施要項の検討
⑽ 授業料特別免除推薦候補者選考基準の改定
⑾ 自転車の迷惑駐輪の防止策の検討
⑿ 日本学生支援機構奨学生の選考
⒀ 意見箱へ寄せられた学生からの意見への対応

2．今年度採択した事項

⑴ 試験における不正行為（防止）に関する取り進めについて
⑵ 昨年度まで議論されてきた授業料特別免除に代わるインセンティブ効果のある学生支援策を更に議論し全学学生委員会に提案し、来年度より優秀賞が2年次および3年次に努力賞が3年次に新設されることになった。
⑶ 校内で自転車の迷惑駐輪が多いことからその対応策について議論し、工学部事務長との連名で総務課長、会計課長、学務課長に意見を具申した。

3．残された課題、又は将来解決すべき事項

⑴ 授業料特別免除に代わるインセンティブ効果のある学生支援策の策定
　具体的な実施方法を検討し、全学に対して提案する。また、全学のものは学科1名程度しか採択されないため、さらにインセンティブ効果を与えるべく工学部独自で低予算で人数を増やした表彰制度などの検討が必要である。
⑵ 学生のマナーアップに対する取り組み

4．委員会の議論に使われた資料

･九州工業大学中期目標･中期計画

5．工学部･工学研究府の現状に関する意見、又は改善に関する提言

　試験における不正行為は再三の注意喚起にも関わらず発生している。幸い後期には不正行為は一件も発生しなかったが、注意喚起を継続して行くと共に学生に不正行為をさせないような環境作りも必要だと思われる。現在は学生が多いときのみ試験監督の補助があるが、不正行為を抑止するため学生の人数が少ない場合でも最低2名以上は必要である。予算的な問題もあると思うが議論が必要である。
　また自転車の迷惑駐輪も問題である。学生への注意喚起をしながら、駐輪場の確保およびそれを学生に知らせるサインの仕組み等についても議論していく必要がある。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

特に該当事項なし。

３．２．４　工学部入学試験委員会

１．今年度、本委員会が取り組んだ課題

（１）平成２４年度編入試について
（２）平成２５年度入学者選抜要項について
（３）中期目標・中期計画について
（４）平成２５年度推薦入試Ⅱ（センター試験を課す推薦入試）について
（５）平成２４年度推薦入試について
（６）平成２４年度私費外国人留学生試験について
（７）平成２５年度私費外国人留学生入試の日程について
（８）平成２７年度入試における大学入学者選抜者において課す教科・科目について

２．今年度、本委員会が採択し、実施した事項

通常の選考・審査、募集要項の作成については例年どおり実施した。ここでは、新たに実施した事項についてのみ記す。

（１）　平成２４年度編入学試験について
- 昨年と同様、合格者が定員を満たさなかった場合の説明に使用するため、各学科で不合格理由について記録を残し、入試委員が把握しておくことに当初していたが、後に学科長会や工学部入試委員会で本件について審議したところ、不合格記録理由についての記録は危機管理上問題があるので以後から残さないことにした。
- 昨年と同様、面接員は専門学科の教員のみとした。面接員の人数は学科・コースごとに５名で構成することとした。
- 編入学試験応募者数は昨年より増加した。高専への広報活動の強化を引き続き継続することが必要と考えられる。
- 編入学試験選考方法は、現行通り行うことにした。

（２）　平成２５年度入学者選抜要項について
- アドミッションポリシーを掲載するため、学部、各学科のアドミンションポリシーの制定を行った。

（３）　中期目標・中期計画について
評価項目[I－3－02]（理数教育支援センターと連携して、小・中・高校生や高校教員等を対象とした教育への取り組みを検討する。）については入試委員会の審議事項と異なるため、昨年から引き続き担当委員会の変更について工学部へ意見を行った。

（４）　平成２５年度推薦入試Ⅱ（センター試験を課す推薦入試）について
- 配点および募集人数について決定した。センター試験の配点は前期日程の配点と同じとし、センター試験と調査書点の総合点の高いものから選抜することにした。

（５）　平成２４年度推薦入試について
- 推薦入試の合格点は６００点以上を目安とすることにした。
- 面接員の構成人数を 3－5 名と変更し、その他は昨年度とほぼ同様に実施した。
- 一部の学科では従来 2 日間で行ったいた面接試験を休み時間の短縮や試験終了時間の延長等によって 1 日で実施行うことを試行した。
- 不測の事態の対応するための事項を実施要項に追加した。
- 昨年度までは各学科で不合格理由について記録を残し、入試委員が把握しておくことにしていたが、後に学科長会や工学部入試委員会で本件について審議したところ、危機管理上の問題から不合格記録理由についての記録は残さないことにした。

（６）　平成２４年度私費外国人留学生試験について
- これまで通り人間科学教室の教員に TOEIC、TOEFL 等の結果を１００点満点として英語能力検定試験結果へ換算して頂いていた。

・日本留学試験の配点は従来どおり行ったが、試験実施後、面接点の比重を多くすべきであるという意見があった。

（７） 平成２５年度私費外国人留学生入試の日程について
・留学生の入国手続きに合格通知書が必要となったため、入試日程を２週間程度早めてほしいとの国際課からの要請を受け、平成２５年度については２月１２日に試験を実施することにした。

（８） 平成２７年度入試における大学入学者選抜者において課す教科・科目について
・平成２４年度から実施される新高等学校指導要領よる数学・理科の平成２７年度大学入試センター試験および個別学力検査の出題教科・科目について他大学の動向を伺いつつそれらの決定を行った。

３．残された課題、又は将来解決すべき事項

（１）推薦入試や編入試については各学科（コース）が主体となり実施されている。そのため、試験実施の要項はそれぞれバラバラである。特に緊急事態が発生した際は、混乱が生じる可能性がある。そのため、各学科の実施要項の点検を行い、緊急事態が発生した際の取り決めに関しては学部で統一すべきである。

（２）現状の推薦入試実施の仕組みでは、面接員の人数が限られているためこれ以上の受験者数の増員には対応できない。また、2 日間に渡って複数会場で試験を実施している学科があるが、問題種類の増加や試験会場による点数差の調整が必要となるなど、公平な選抜は困難となっている。そのため、現状の実施スタイル(1 人 30 分の口頭試問)が適切であるのか、検討する必要がある。他大学（筑波大、電通大）で実施しているスタイルの試験(事実上の筆記試験)が参考になると思われる。

（３）私費外国人留学生試験について、配点数が本学以外の試験の配点が多数を占めている。本制度で入学した学生の成績の追跡調査をして、この配点バランスが適切であるか検討する必要がある。

（４）他部局を含め入試実施においてヒヤリハットが多発した。発生した原因の追究と解消方法、さらに入試実施要領をあらためて確認する必要がある。また、万が一ミスが発生した場合の対処方法も整備する必要がある。

（５）アドミッションポリシーを制定したが、ディプロマポリシーと同時進行して作成したため、必ずしも最適なポリシーとなってはいない。そのため、内容を再度確認し、修正していく必要があると思われる。

４．委員会の議論に使われた資料

（１）平成２４年度、平成２５年度入学者選抜要項
（２）平成２４年度、平成２５年度編入学学生募集要項
（３）平成２４年度、平成２５年度帰国子女特別入試学生募集要項
（４）平成２４年度、平成２５年度推薦入試学生募集要項
（５）平成２３年度、平成２４年度私費外国人留学生入試学生募集要項
（６）平成２４年度、平成２５年度一般入試学生募集要項
（７）平成２５年度欠員補充第２次学生募集要項
（８）中期目標・中期計画（案）

５．工学部の現状に関する意見、又は改善に関する提言

（１）広報委員会の努力により、工学部の受験倍率は前期日程が２．６１倍、後期日程が３．２７倍と高い倍率となった。高い倍率を維持することは、レベルのそろった学生を獲得する上で重要であるので、今後も広報活動についての一層の努力を期待したい。

（２）編入学試験の応募者については、平成２３年度の３９名に比べると、本年度は５２名と大幅に増加した。今年度の増加は昨年度の広報活動の強化による効果が現れた可能性がある。引き続きさらなる広報活動の強化対策を工学部として考えて行く必要がある。
（３）私費外国人留学生入試の志願者数は平成２３年度の４８名に比べると、本年度では２１名と大幅に減少したが、昨年の人数が例外的でありほぼ例年並みの人数であったといえる。志願者人数が急増減する理由を解明し、特に急増した場合の対応法を議論する必要がある。
（４）平成２５年度よりセンター試験を課す推薦入試Ⅱが実施される。どの程度の人数やどれ程度のレベルの学生が集まるか全く予測が付かないが、数年間実施した後、合格者の入試成績や入学後の成績の追跡調査を行い、本試験の意義について議論する必要がある。

６．昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

（１）入試問題に関しての解答例や出題意図の開示について引き続き検討が行われているが、工学部入試委員会で決めるのではなく出題委員長を交えて出題委員の意見を反映させるべきである。出題は、負担平等でローテーションでできるものではない現状であり、出題委員に負担をかけるようことになると出題ミスなどの事態を招きかねない。本年度の工学部入試委員会でも、解答例のみならず出題意図も開示しないとの意見が強い現状である。さらに出題委員の選出方法を含めて議論する必要がある。
（２）一般入試の後期日程において、合格者発表後、入学手続き者数が定員を満たさない学科が生じた。そのため追加合格候補者（６名）が合格者等選考方法に基づいて作成された補欠者リストから選出した。追加合格者が昨年に引き続き発生したが、その原因究明とそれが今後起こらないようにするための対策を講じる必要がある。
（３）中期目標・中期計画の入学試験委員会に関わる課題の準備を行う。

３．２．５　大学院工学府・工学部安全環境委員会

１．今年度取り組んだ課題

（１）研究室単位の「安全衛生教育」、「安全衛生ミーティング」の実施および実施結果の評価
（２）「学部２と３学年安全衛生教育」の実施および実施結果の確認
（３）「講義室安全環境チェック」の実施および必要箇所の改善
（４）「実験・実習における安全の手引き」の改訂
（５）戸畑地区安全衛生委員会の依頼による学生実験「ヒヤリハット調査」の実施
（６）会計課の作成した建物内の避難経路図の確認

２．今年度採択した事項

（１）「安全衛生教育」、「安全衛生ミーティング」の実施状況を踏まえ、「安全衛生ミーティング」報告書の提出期限を各学期の後半とした。
（２）「講義室安全環境チェック」において問題となった、雨天時や結露による濡れた床に対処するため、必要な個所にマットを設置し、各建物入り口に雨天時の転倒に注意するよう呼びかける張り紙を掲示した。
（３）「実験・実習における安全の手引」を各担当者に依頼して改訂した。緊急時の応急手当方法については保健センターの協力を得て内容を大きく更新した。

３．残された課題、又は将来解決すべき事項

（１）結露によって濡れた床について、発生時に施設課の検分を受けて対処方法を検討してもらう手筈を整えたが、今年度はその後その現象は発生しなかった。
（２）「実験・実習における安全の手引」裏表紙にある、地震・火災時の防災マニュアルの見直し

４．委員会の議論に使われた資料

（１）安全教育等実施要項
（２）平成 22 年度講義室安全環境チェック　指摘事項・対応一覧
（３）工学部平成 22 年度版「実験・実習における安全の手引」

5. 工学部･工学研究府の現状に関する意見、又は改善に関する提言

本委員会の委員長は毎月開催される戸畑地区安全衛生委員会にオブザーバーとして安全衛生委員会に出席し、重要課題は本委員会に報告することになっている。安全衛生に関する巡視報告や禁煙場所についての審議内容など、両委員会の情報共有を密にするため、安全衛生委員会の記録を各委員に配信することを提言する。

地震・火災の際の建物内の避難経路は会計課資産管理係によって整備されたが、建物外に出てからの避難経路の整備など他部署に関わる業務についても、本委員会が工学部・工学府の安全を見守る役割を認識して推進を支援する必要がある。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

安全衛生教育で挙げられた問題点を、現場に限らず広く共有する体制整備の必要性が昨年度提言されていたが、今年度は安全衛生教育の定着が確認されたにとどまった。

３．２．６　大学院工学研究院学術情報委員会

１．今年度,委員会が取り組んだ課題

（１）本委員会組織に関わる検討
- Ａ．正副委員長の選出と本委員会の業務等確認
- Ｂ．情報ネットワーク・セキュリティ専門部会への委員の参加
- Ｃ．情報セキュリティポリシー実施 WG への委員の参加
- Ｄ．情報基盤整備計画策定 WG への委員の参加
- Ｅ．工学部工学専門教育用計算機・ネットワークシステム運営委員会へ委員の参加
- Ｆ．ＭＳＣＡ仕様策定委員会への委員の参加

（２）違法行為防止、及びセキュリティ向上についての検討と対処
- Ａ．平成 23 年度前学期情報モラル向上週間の実施
- Ｂ．平成 23 年度後学期情報モラル向上週間の実施
- Ｃ．平成 24 年度前学期情報モラル向上週間の企画
- Ｄ．スキルアップ講習会の企画と実施
- Ｅ．外部公開サーバのセキュリティ強化に関する議論と提案

（３）全学運用情報化関連ソフトウェアの工学部での運用方法の検討と実施
- Ａ．情報科学センターによる戸畑地区無線 LAN 整備計画への協力
- Ｂ．ウィルス対策ソフトウェアの運用
- Ｃ．ＭＳＣＡの工学研究院における運用
- Ｄ．Mathematica の工学研究院における運用

（４）工学研究院の情報化に係る施設設備に関する検討
- Ａ．情報科学センターの無線 LAN 整備計画の戦略経費申請への協力
- Ｂ．次世代ファイアーウォール整備計画
- Ｃ．省エネへの協力

（５）附属図書館に関する検討
- Ａ．工学部学生用図書購入予算額配分
- Ｂ．ヨミダス文書館の利用
- Ｃ．九州工業大学研究報告
- Ｄ．学生選書ツアーの実施

２．今年度、委員会が採択した事項

（１）本委員会組織に関わる検討

Ａ．正副委員長の選出と本委員会の業務等確認（第１回）
正副委員長を選出し,副委員長が全学委員会へオブザーバー参加することを確認した。
また本委員会における業務等をまとめ確認した。

Ｂ．情報ネットワーク・セキュリティ専門部会への委員の参加（第１回）
標記部会へ本委員会から委員を推薦しているが,平成 22 年度に情報ネットワーク・セキュリティ専門部会委員を務めた渡辺委員の工学研究院学術情報委員会の任期が平成 23 年 3 月末で切れたため,残任期間に水町委員を推薦することとした。

Ｃ．情報セキュリティポリシー実施 WG 委員への委員の参加（第１回）
標記ＷＧへ本委員会から委員を推薦した。

Ｄ．情報基盤整備計画策定 WG への委員の参加（第１回）
標記ＷＧへ本委員会から委員を推薦した。

Ｅ．工学部工学専門教育用計算機・ネットワークシステム運営委員会への参加（第１回）
標記ＷＧへ本委員会から委員を推薦した。

Ｆ．新仕様のＭＳＣＡの契約に伴う仕様策定委員会への委員の参加（第６回）
ＭＳＣＡを新たな仕様において契約するため,工学研究院から委員長の反町が,全学の仕様策定委員会の委員として参加することになった。

Ｇ．情報ネットワーク・セキュリティ専門部会と情報セキュリティポリシー策定専門部会への委員への参加（第１０回）
上記専門部会へ本委員会から委員を推薦した。

（２）違法行為防止、及びセキュリティ向上についての検討と対処

Ａ．平成 23 年度前学期情報モラル向上週間の実施（第１回）

昨年度に決定した企画の内容を確認し実施した。実施内容としては,1 年生については「情報リテラシー」の講義においてオンライン資料を用いて口頭で説明した。2・3 年生については,各教室において、ガイダンス時などにオンライン資料、パワーポイント資料、パンフレット「ネットワークをよりよく安全に使うために」などを用いて説明を実施した。4 年生と大学院生に対しては,各研究室にて 2･3 年生と同様の説明を実施した。以上の実施記録を委員会に報告し、実施状況を一覧としてまとめた。

Ｂ．平成 23 年度後学期情報モラル向上週間の企画と実施（第３・９回およびメールによる実施結果報告）

平成 23 年後学期の情報モラル向上週間は, 前年度後学期とほぼ同様の内容を企画・実施した。1 年生に対しては,「情報ＰＢＬ」の時間に「情報倫理デジタル小品集 3」を閲覧させた。2・3 年生に対しては,ガイダンスなどの時間に「情報倫理デジタル小品集 3」を閲覧し、moodle を用いて小テストを受講するよう指導したり、ポスターを用いて情報セキュリティに関する説明を行ったりした。4 年生および大学院生に対しては,各研究室にて 2・3 年生と同様の指導を行った。教員に対しては,「情報倫理デジタル小品集 3」を閲覧するよう教室会議やメールで周知した。以上の実施記録をメールで報告し, 実施状況を一覧としてまとめた。

Ｃ．平成 24 年度前学期情報モラル向上週間の企画（第８回）

平成 23 年度と同様に実施することとした。

Ｄ．スキルアップ講習会の企画と実施（第２・６回）

情報科学センターの中村委員の協力を得て、工学研究院および戸畑キャンパスの各センターのサブネットワーク管理者を対象に第２回スキルアップ講習会を実施した。

Ｅ．外部公開サーバのセキュリティ強化についての議論と提案（第３・４・６・８回）

全学の情報基盤室より、外部公開サーバのセキュリティ強化についての原案が示された。工学研究院では,情報基盤室の原案について,各学科等の意見を求めた。その結果に基づき,原案およびアンケートの形式に関して工学研究院の意見をまとめ,全学委員会に提案した。

（３）全学運用情報化関連ソフトウェアの工学部での運用方法の検討と実施

Ａ．MSCA・ウィルス対策ソフトウェア・ＣＡ申請システムの運用について（第１・９・１０回）

①学生がプロダクトキーの用紙を持っている,②研究室のパソコンを学生が申請している、③技術職員が申請責任者になっている,④３年生から４年生にあがった学生の指導教員の変更（情報基盤室→研究室教員）が徹底されていない,などの問題について,それぞれ適切に扱うよう周知徹底することとした。また⑤学部を卒業して大学院に入学した学生が,学部卒業時の学生番号で申請している点について、今後対応策を検討することとした。

また、学生個人所有のＰＣへのインストール可能台数が本年度から変更されることに伴い,①１インスタンス対応,②卒業・修了時の継続利用申請、③紙ベースで申請済みの学生について、④ＣＡシステムに登録するメールアドレスについて,⑤生協販売のPCの取り扱いに関する変更と確認について,それぞれ適切に対応することになった。

Ｂ．ＣＡ申請システムの運用 （第７・８回）

学生個人所有のＰＣへのインストール可能台数が次年度から変更されるため,ＣＡ申請システムの運用を変更することになった。

また,情報基盤室長の池永委員が工学研究院のＣＡ申請システムのライセンス管理方法を全学の学術情報委員会で報告した。

Ｃ．ウィルス対策ソフトウェアの運用（第１回）

大学所有 PC と個人所有 PC とで項目を分けて記載することが承認された。

Ｄ．ＭＳＣＡの工学研究院における運用（第１回）

大学所有 PC と個人所有 PC とで項目を分けて記載することが承認された。

学生個人所有のＰＣへのインストール可能台数が次年度から変更されるため,工学研究院におけるＭＳＣＡの運用の仕方を変更することになった。

Ｅ．Mathematica の運用停止と代替措置について（第１・２・５回）

Mathematicaの契約が打ち切られることに伴い,工学部におけるMathematicaの使用状況と代替措置について調査を行った。基礎科学系委員から,工学部の学務委員会での審議の結果, 工学

部ではフリーソフトの Maxima で置き換えることになったとの報告があった。

（４）工学研究院の情報化に係る施設設備に関する検討

Ａ．情報科学センターの無線 LAN 整備計画の戦略経費申請への協力（第１回）

情報科学センターが戦略経費を用いて戸畑地区の無線 LAN 環境を整備しようという計画への協力

Ｂ．次世代ファイアーウォール整備計画（第１・５回）

ネットワークの安全な環境作りを推進するために、工学研究院の各サブネットワークの入り口に P2P ファイル交換ソフトウェアの使用を検出して遮断できる機能を持つ次世代ファイアーウォールを設置することを,平成 23 年度教育戦略経費の募集に応じて提案した。その結果,工学部だけでなく、全学的観点またはキャンパス単位の観点から実施すべき内容であるとのことで不採択となったが、提案自体の重要性は認められた。

Ｃ．省エネへの協力（第２回）

全学的に省エネを実施するため,空調特殊運転室の判定のための現地調査について,サーバ,端末が置かれている部屋について本委員会からの委員が調査に立ち会うよう依頼があり,審議の結果,分担して委員が調査に立ち会った。

（５）附属図書館に関する検討

Ａ．工学部学生用図書購入予算額配分（第１回）

従来通り各系に予算を按分することを了承し，選書を実施した。

３．残された課題、又は将来解決すべき事項

以下の事項について,引続き主体的に取り組んでいく必要がある。

（１）情報セキュリティポリシーの不断の周知徹底
（２）ファイル共有ソフトをはじめとした情報モラル向上のための啓蒙活動
（３）ソフトウェアライセンス管理の徹底とＣＡ申請システムの継続的運用
（４）戸畑キャンパスネットワークの安定的な運用管理体制の整備と維持

４．委員会の議論に使われた資料

（１）本委員会組織に関わる検討
- 平成 23 年度大学院工学研究院学術情報委員会委員名簿
- 大学院工学研究院学術情報委員会内規
- 大学院工学研究院学術情報委員会委員長ローテーション
- 平成 22 年度大学院工学研究院情報化推進委員会議題等一覧
- 平成 22 年度大学院工学研究院情報化推進委員会（現状と課題）
- 九州工業大学情報ネットワーク・セキュリティ専門部会要項
- 工学部工学専門教育用計算機・ネットワークシステム運営委員会内規

（２）違法行為防止、及びセキュリティ向上についての検討と対処
- 工学研究院 情報モラル向上週間での取組企画
- 平成 23 年度前期情報モラル向上週間における講習会実施状況一覧
- 公開サーバの申請・許可制度導入について
- 外部公開サーバの申請・許可に関するルール（案）について（依頼）
- 平成 23 年度後期情報モラル向上週間における講習会実施状況一覧

（３）全学運用情報化関連ソフトウェアの工学部での運用方法の検討と実施
- マイクロソフトライセンスプログラムキャンパスアグリーメント（ＭＳＣＡ）に関する工学研究院の基本方針（2011 年度版）
- ウィルスバスターの運用に関する工学研究院の基本方針（2011 年度版）
- ＭＳＣＡ・ウィルス対策ソフトウェア・ＣＡシステムの運用に関する問題点
- Mathematica を利用している科目の来年度以降の運用について
- マイクロソフト　キャンパスアグリーメント学生使用許諾証明書について
- マイクロソフト社・キャンパスアグリーメントインストール許可申請書

（４）工学研究院の情報化に係る施設設備に関する検討
- 平成 23 年度戦略的経費所用額調（案）（情報科学センター）
- 空調特殊運転室の判定のための現地調査について（依頼）
- 平成 23 年度戦略的経費（教育）の採択について（通知）

（５）附属図書館に関する検討

・ 平成 23 年度 工学部学生用図書購入予算額配分（案）
・ 平成 23 年度 工学研究院研究報告発行スケジュール

５．工学研究院の現状に関する意見、又は改善に関する提言

情報セキュリティの向上については，中期目標・中期計画にも記載されており，重要な課題である。その中でも特に，学生・職員に対する情報セキュリティの研修プログラムに関しては，最終的には，各部局で責任を持って実施することになる。効果的な方法を策定するには，情報基盤室も含めた工学研究院におけるこれまでの取り組みや特性を考慮に入れ，情報科学センターと連携するとともに，全学委員会及び関連部会・ＷＧと密接に連携することが重要と考えられる。

６．昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

（１）情報セキュリティポリシーの不断の周知徹底

ネットワークの安全性については，一昨年度から開始したサブネットワーク管理者へのスキルアップ講習会の第２回目を開催し，アンケートによれば成果が上がっているという結果がでている。引き続き情報を共有するとともに安全性を維持・向上していくことが期待される。

（２）ファイル共有ソフトをはじめとした情報モラル向上のための啓蒙活動

情報の向上については，新入生のオリエンテーションおよび情報モラル向上週間の取り組みで学生に周知を行っている。教職員（責任者・システム管理者・一般職員）向けの講習会についても適宜実施している。今後，各所への伝えるべき情報を精査・区分し，省力化を念頭に効果的な周知徹底の方法を確立させていくことを期待したい。

（３）ソフトウェアライセンス管理の徹底とＣＡ申請システムの継続的運用

一昨年度導入したＣＡ申請システムが２年目を迎え，システムの改善が進んでいる。学生個人所有のＰＣへのインストール可能台数が本年度から変更されるため，昨年度途中から新契約内容への対応を図っているところである。今後もＣＡ申請システムの改良と運用体制を確立していくことが必要である。

（４）戸畑キャンパスネットワークの安定的な運用管理体制の整備と維持

今後とも，情報基盤室や情報科学センターと連携しつつ，戸畑キャンパスのネットワークの改善・維持をすすめるとともに，戸畑キャンパスにおける無線ＬＡＮの整備とネットワーク管理体制の整備について検討していくことを期待したい。

３．２．７　工学部広報委員会

１．今年度、貴委員会が取り組んだ課題

工学部広報委員会は学部学生募集活動の実施母体である。全学の学部学生募集専門部会（以下「募集部会」という。）を通して情報工学部と連携を取りながら、全学的に統一性のある学生募集活動の充実に努めた。また、工学研究院広報室（以下「広報室」という。）と密接に連携して、質の高い学生募集活動の充実に努めた。これらの活動のために、本委員会は、各学科及び人間科学系から各１名、工学研究院広報室長から構成されており、本委員会の委員長及び副委員長、広報室長は募集部会の構成員となっている。また、本委員会の委員は広報室の構成員でもある。このような組織の下、主に以下の定例的な課題について検討を行い実施した。

（ａ）オープンキャンパス
（ｂ）高校訪問（大学説明会）
（ｃ）進学説明会
（ｄ）本学主催入試説明会
（ｅ）高校からの工学部訪問への対処
（ｆ）大学案内の編集補助
（ｇ）進学情報誌等の掲載原稿の校正

２．今年度、貴委員会が採択した事項

前項目の各課題に対応するため下記事項を採択し実施した。

（ａ）オープンキャンパス

（１）今年度のオープンキャンパス開催日は８月５日(金)と６日(土)であった。参加人数は１８０７人で、過去最高の来場者数であった。

（２）内容は昨年度と同様とし次の通り実施した。午前の部では、学科・コースの説明を記念講堂にて行った後に、本学が用意した見学コースに沿って各学科の施設見学を行った。見学コースは、①機械知能・建社・総合システムと②電気電子・応化・マテリアルの 2 コースとし、移動距離が短く、極力日陰を歩くことができるように見学順路を設定した。この見学時間に保護者・引率者向けの大学紹介を記念講堂で行った。午後の部では、テーマ別の自由見学を実施した。午前の部で見学できなかった学科への見学を促すために、スタンプラリーを実施した。アンケートの回収は、スタンプラリーの景品交換場所をメインとし、各学科に回収箱を設置するとともに、正門に広報室事務補佐員を配置した。また、鳳龍会館において教員による「学科相談コーナー」、事務による「総合相談コーナー・入試相談コーナー」を実施した。

（３）各学科の説明においては、昨年度と同様に説明者の服装、態度に関して配慮をお願いすると共に、平易な説明を心がけていただけるよう依頼した。

（４）期間中にボランティアで誘導に協力していただく生協学生委員に対して、昨年同様、服装、態度に関して配慮をお願いすると共に、説明内容をキャンパス生活などに限定するように依頼するとともに、チラシの作成を認め内容を確認した。また、前期末試験中であったため試験に支障が出ないように対応するように指導した。

（５）生命体工学研究科と工学部キャリアセンターの参加を認めた。なお、今年度は九州地区国立大学進学説明会も鳳龍会館にて開催された。

（６）平成 24 年度オープンキャンパスの開催日程について検討し、学年歴に入れていただくように教務委員会に依頼した。

（７）昨年度のオープンキャンパスで撮影した WEB オープンキャンパスの公開内容について確認を行い e-ラーニング事業推進室と最終調整を実施した。

（ｂ）高校訪問（大学説明会）

募集部会にて「高校訪問（大学説明会）実施に関する事務処理申し合わせ」に基づき決定された高校及び予備校を訪問し生徒向けの説明会を実施した。説明には全学共通のスライドを用い、事前にその内容を検討した。また、昨年度の高校訪問報告書のまとめを参照し質問への対応に活用した。

（ｃ）進学説明会

募集部会にて「企業主催による進学説明会への参加の基本方針」に基づき決定された進学説明会に参加した。「平成 23 年度進学説明会ブースでの説明手順」に従い対応を行った。

（ｄ）本学主催入試説明会

本学主催の入試説明会に出席し、スライドを用いて工学部に関する説明を行い質問へ対応した。

（ｅ）高校からの工学部訪問

理数教育支援センターで受付けている大学訪問に対して大学説明を実施した。

（ｆ）大学案内の編集補助

今年度は学生募集活動専門部会にて示された方針に基づき大幅改定を実施した。本委員会では、工学部の関連する事項、特に学科ページについて対応した。これまでは、特徴的な研究室の活動を取り上げることで学科を紹介することを主な内容にしていたが、今回は教育やカリキュラムについて全学的に統一して紹介することを大きな狙いとしており、この方針に沿って各学科にて分かりやすい内容とした。ただし、非常に限られた時間内で内容を策定する必要があったため、来年度に十分に見直しを行い、本学の魅力をさらに分かりやすく伝えられるものにしていくことが期待される。関連して、これまでは学科パンフレットを作らずに大学案内に情報を集約するという全学的な方針があったが、大学案内の内容が教育やカリキュラムを主体とする内容になったため、学科での必要性に応じて学科パンフレットを作成してもよいという考えに切り替える必要を感じた。

（ｇ）進学情報誌等の掲載原稿の校正

進学情報誌等に掲載される原稿について工学部の観点からの校正を行った。

（ｈ）その他

全学広報戦略会議からの依頼で「夢ナビ」及び「夢ナビライブ」に対応する教員を各学科から１名推薦した。

３．残された課題、又は将来解決すべき事項

充実したオープンキャンパス、高校訪問等を目標に活動を行ってきた。これからも、同内容の活動を着実に遂行していくことが重要であると思われる。直近での課題としては、オープンキャンパスの参加者増加への対応が懸念される。午前の記念講堂での全体説明では通路にまで人が溢れている状態であった。保護者・引率者を別の会場に案内して大学紹介を行うなどの仕組み作りが必要であると思われる。

４．委員会の議論に使われた資料

募集部会資料、大学案内、オープンキャンパスアンケートおよび調査結果。

５．工学部・工学研究科の現状に関する意見、又は改善に関する提言

特になし

６．昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

特になし

３．２．８　大学院工学府学務委員会

１．今年度取り組んだ課題

（１） 授業関係・教育関係

工学府授業科目の特例履修に関する単位の認定について
平成２４年度工学府学生便覧等の原稿作成について
平成２４年度社会人修学支援講座について
工学府学修細則の一部改定（案）について
工学府社会人修学支援講座実施要項の改定について
工学府社会人修学支援講座実施要項について
平成２４年度工学府時間割表について
教育・学習系統図について

（２） 学生関係

学生の派遣について
外国人研究生受入について
外国人研究生受入に係る申し合せについて
長期履修期間変更申請について
外国人特別研究学生受入について
国費外国人留学生（研究留学生）受入について
特別研究学生の受け入れについて
修了査定について
日本学生支援機構大学院奨学生の選考について
長期履修申請について
外国人特別研究学生受入について
日本学生支援機構大学院予約奨学生の選考方法について
平成２３年度（１０月入学者）博士後期課程指導教員グループについて
学生の除籍について
学生異動について
ダブルディグリー学生の単位認定について
早期修了（博士前期課程）について
博士後期課程指導教員グループの変更について
外国人特別研究学生の受入期間変更について
早期修了（博士前期課程）について
日本学生支援機構大学院第一種奨学金返還免除候補者選考に係る取り扱いについて
日本学生支援機構大学院第一種奨学金の返還免除候補者推薦枠の配分（案）について
長期履修期間変更申請について
大学院工学府における研究指導体制について
外国人研究生受入に係る申し合せについて
平成２３年度博士後期課程指導教員グループの決定について
博士後期課程指導教員グループの変更について
「大学院工学府における研究指導体制に関する申合せ」の改正について
日本学生支援機構大学院第一種奨学金返還免除候補者推薦について
日本学生支援機構大学院第一種奨学金返還免除候補者選考に係る取り扱いについて

（３） 中期目標・中期計画

中期目標・中期計画について

（４） ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシー

工学府のディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーについて

２．今年度採択した事項

（１）授業関係・教育関係

ｲ．工学府社会人修学支援講座実施要項について

工学研究院長より本講座は工学府社会人プログラムの一環となっていることから、さらに充実させて実施するようにとの要望があり、担当教員の変更があった科目について、講義内容一

覧の変更を行うこと、および開講年度について西暦としているが、案内文等は和暦で記載しているため、和暦に統一することとした。

（2）学生関係

イ．嘱託教育職員の副指導教員について

嘱託職員が在職中に担当していた学生に限り、副指導教員を担当できることに伴い、大学院工学府における研究指導体制に関する申合せの改定を行った。

ロ．外国人研究生について

工学部・工学府の外国人研究生について、本人以外が記載した願書による出願の事例があったため、なりすまし出願の危険性を回避するための申し合せの作成を行った。

ハ．ダブルディグリー学生について

ダブルディグリー学生の単位の認定について審議し承認した。

二．特例履修の制度について

大学院生が学部在学中に履修した大学院入門科目について、６単位まで大学院の修了要件単位として認定することができる特例履修の制度について審議し承認した。

ホ．早期修了の書類提出時期について

博士前期課程の早期修了の書類提出時期が早すぎることについての説明があり、審議の結果、１ヶ月遅らせることとした。

ヘ．日本学生支援機構奨学生の推薦者選考について

全学学生委員会より候補者選考についての申合せ等の作成を行うようにとの依頼があり、各専攻（分野）での選考方法について文書化して対応することとした。

（3） 中期目標・中期計画

イ．部局間相互評価について

年度計画のスケジュールにより、平成２２年度の年度計画は部局間相互評価を行うこととなり、特色ある事項についての調査書を作成した。

ロ．平成２３年度中期計画・中期目標の調査の進め方について

調査の際にはエビデンスを残しておくこととし、大学評価室が各取組についてコメントを出しているので、今後の取組みで参考とした。

ハ．入力データの修正点について

修正点については以下のとおり。

・Ⅰ-1-05　クウォーター制の導入について、担当可能な教員がいるかどうかを、各委員持ち帰り確認を行い、いるようであれば年度計画を「部分的クウォーター化の再検討と試行」とする。

（4）工学府のディプロマポリシー及びカリキュラムポリシー

イ．ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーの作成について

全学案及び工学部案をもとに、担当するグループを決め、分担して工学府のディプロマポリシー及びカリキュラムポリシー案を作成し、最終的には工学府専攻長会及び教授会にて承認された。

３．残された課題、又は将来解決すべき事項

（1）中期計画・中期目標

クゥオーター制の導入に関して、引き続き検討が必要である。

４．委員会の議論に使われた資料

教育委員会「中期計画・中期目標」資料、日本学生支援機構奨学金返還免除選考資料、全学ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシー案資料、九州工業大学保険センター資料、平成 22 年度計画評価特記事項、独立行政法人　大学評価・学位授与機構資料

５．工学府の現状に関する意見または改善に関する提言

特になし

６．昨年度の改善に関する提言に対する、改善状況と未改善および新たな問題点

特になし

３．２．９　大学院工学府入学試験委員会

１．今年度取り組んだ課題

（１）大学院入学試験専門部会委員を選出した。
（２）出願資格認定委員会委員を選出した。
（３）平成２４年度工学府博士前期課程入学試験（推薦、第１回）実施日程を決定した。
（４）ダブルディグリー取得学生の博士後期課程進学時の面接について審議した。
（５）平成２４年度博士前期課程入学試験（推薦選抜）合格候補者を選考した。
（６）平成２４年度工学府博士前期課程入学試験募集人員の変更を行った。
（７）平成２４年度工学府博士前期、後期課程入学試験の出願資格認定を行った。
（８）中期目標・中期計画について審議した。
（９）大学院博士前期課程の入試統一同時開催について審議した。
（10）工学府入学試験委員会内規の１部改正について審議した。
（11）平成２４年度（平成２３年１０月入学）工学府博士後期課程入学試験（外国人留学生特別選抜）面接免除候補者を選考した。
（12）平成２４年度大学院工学府博士後期課程入学試験の出願資格を認定した。
（13）平成２４年度博士前・後期課程（第１回募集）入学試験合格者を選考した。
（14）国際共同教育学生選抜実施要項に基づく平成２３年１０月入学大学院工学府博士前期課程入学試験合格者候補者を選考した。
（15）平成２４年度工学府博士前期課程入学試験の充足状況を確認した。
（16）平成２５年度九州工業大学大学院工学府入試日程(案)及び募集人員(案)について審議した。
（17）平成２４年度工学府博士課程入学試験（第２回募集）実施日程を決定した。
（18）大学院入試専門部会からの課題事項（定員充足率 130%）について審議した。
（19）大学院博士課程外国人留学生特別選抜の早期実施について審議した。
（20）各大学院入試の同一日開催、及び第二志望の取り扱いを決定した。
（21）アドミッション・ポリシーの見直しについて審議し、決定した。
（22）学部３年次学生を対象とする特別選抜に関する申し合わせ事項について審議し、修正した。
（23）平成２５年度九州工業大学大学院工学府学生募集要項について審議した。
（24）平成２４年度博士前・後期課程（第２回募集）入学試験合格者を選考した。
（25）大学院工学府社会人プログラムリーフレットについて審議した。

２．今年度採択した事項

（１）九州工業大学大学院工学府、情報工学府、生命体工学研究科の入試日程を同一日としたが、第二志望の取り扱いは本年度とは異なり、生命体（第２回募集）時期に行う。
（２）一般選抜出願にあたって、生命体工学研究科を第二志望とすることを可能とした。工学府内の第二志望（先端機能システム）に関しては、今年度限りとし、次年度以降は実施しない。
（３）工学府博士前期課程の入学定員数を厳守（定員の１．３倍）することとした。　昨年の通りとする。次年度以降はより周知が図れるようにする。
（４）工学府入学選抜におけるＴＯＥＩＣの扱いについて決めた。
（５）工学府博士前期課程の外国人留学生特別選抜において、指導を希望する教員との事前コンタクトならびに願書に記入を求めるように決定した。

３．残された課題、又は将来解決すべき事項

（１）工学府博士前期課程の入学定員数を厳守（定員の１．３倍）に関して、飛び級入学、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜については、この定員に入れないことの現実実施の周知を確かにする。
（２）博士後期課程の定員充足に関しては抜本的な改善策はなく、今後の検討が必要不可避である。これに関連して、飛び級入学、私費外国人留学生の入学定員枠についても議論が必要である。

４．委員会の議論に使用された資料

（１）各専攻の入試実施期日に関する希望調査
（２）「中期目標・中期計画」
（３）各専攻のＴＯＥＩＣの取り扱いについての提言
（４）平成２５年度九州工業大学大学院工学府入学者選抜要項（案）
（５）平成２５年度九州工業大学大学院工学府博士前期課程学生募集要項（案）
（６）平成２５年度九州工業大学大学院工学府博士後期課程学生募集要項(案)

５．工学府の現状に関する意見または改善に関する提言

（１）工学府博士前期課程の入学定員数の厳守（定員の１．３倍）に関して、昨年度からの急激な変化には十分対応できなかった。周知徹底が図られることにより翌年度からはより可能になると推測している。

（２）博士前期課程の課程Ｂの対象者がわずかであり、あまり機能していると言えず、今後早急な対応が必要である。

６．昨年度の改善に関する提言に対する、改善情況と未改善及び新たな問題点

（１）外国人留学生特別選抜に関しては、受験生の数は増加したが、受入学生の質の維持ができているかどうかの検証はできていない。

（２）ダブルディグリー制度については、既に修了生も出ており改善されているが、制度的整備が十分とは言えず、今後見直しが迫られるであろう。

3．3　教員組織

3．3．1　　教員の配置

① 大学院工学研究院

表3．3．1　大学院工学研究院教員現員一覧　　（平成２３年４月１日現在）

系	講座名	教　授		准教授		講　師		助　教		合計	技術職員等
		現員	氏名	現員	氏名	現員	氏名	現員	氏名	現員	現員
機械知能工学研究系	機械工学部門	6	梅景　俊彦 金元　敏明 鶴田　隆治 野田　尚昭 水垣　善夫 宮崎　康次	6	河部　　徹 吉川　浩一 黒島　義人 清水　浩貴 坪井　伸幸 長山　暁子	1	高藤　和樹	3	谷川　洋文 田丸　雄摩 吉田　幸一	16	13
	宇宙工学部門	4	赤星　保浩 橘　　武史 松田　健次 米本　浩一	1	平木　講儒	0		2	各務　　聡 西川　宏志	7	
	知能制御工学部門	6	石川　聖二 大屋　勝敬 金　　亨燮 黒木　秀一 坂本　哲三 田川　善彦	1	相良　慎一	0		2	西田　　健 ﾀﾝ･ｼﾞｭｰｸｲ	9	5
	小計	16		8		1		7		32	50
建設社会工学研究系		7	秋山　壽一郎 毛井　崇博 幸左　賢二 永瀬　英生 仲間　浩一 松田　一俊 山口　栄輝	8	穴井　　謙 伊東　啓太郎 鬼束　幸樹 重枝　未玲 寺町　賢一 徳田　光弘 日比野　誠 廣岡　明彦	0		2	加藤　九州男 合田　寛基	17	3
	小計	7		8		0		2		17	20
電気電子工学研究系	電気エネルギー部門	3	白土　竜一 匹田　政幸 三谷　康範	3	大塚　信也 豊田　和弘 渡邊　政幸	0		1	小迫　雅裕	7	9
	電子デバイス部門	4	和泉　　亮 大村　一郎 高木　精志 松本　　聡	2	川島　健児 内藤　正路	0		6	佐竹　昭泰 鶴巻　　浩 羽野　一則 松平　和之 山内　貴志 渡邉　晃彦	12	
	システムエレクトロニクス部門	5	桑原　伸夫 芹川　聖一 中藤　良久 前田　　博 水波　　徹	5	池永　全志 生駒　哲一 市坪　信一 中司　賢一 水町　光徳	0		4	河野　英昭 張　　力峰 山脇　　彰 楊　　世淵	14	
	小計	12		10		0		11		33	42

物質工学研究系	応用化学部門	6	横野　照尚 鹿毛　浩之 古曳　重美 清水　陽一 竹中　繁織 柘植　顕彦	7	新井　　徹 荒木　孝司 植田　和茂 岡内　辰夫 北村　　充 坪田　敏樹 山村　方人	0		6	下岡　弘和 馬渡　佳秀 高瀬　聡子 村上　直也 毛利　恵美子 森口　哲次	19	6
	材料開発部門	3	惠良　秀則 大谷　博司 松本　　要	6	秋山　哲也 篠崎　信也 高須　登実男 廣田　健治 山口　富子 横山　賢一	0		5	伊藤　秀行 大坪　文隆 北村　貴典 山根　政博 和才　京子	14	4
	小計	9		13		0		11		33	43
基礎科学研究系	数理科学部門	3	池田　敏春 酒井　　浩 仙葉　　隆	7	浅海　賢一 井上　創造 木村　　広 鈴木　智成 平山　至大 藤田　敏治 三浦　元喜	0		0		10	0
	量子物理学部門	4	鎌田　裕之 出口　博之 西谷　龍介	3	岸根　順一郎 中尾　　基 美藤　正樹	0		0		7	
	小計	7		10		0		0		17	17
先端機能システム工学研究系		4	小森　望充 鈴木　芳文 趙　　孟佑 本田　　崇	6	大門　秀朗 坂井　伸朗 孫　　勇 高原　良博 竹澤　昌晃 脇迫　　仁	0		1	岩田　　稔	11	0
	小計	4		6		0		1		11	11
人間科学系		5	ｱﾌﾟﾄﾞｩﾊﾝ恭子 田吹　昌俊 鳥井　正史 本田　逸夫 ﾗｯｸｽﾄﾝ・ｲｱﾝ.c	8	大野　瀬津子 反町　裕司 中村　雅之 虹林　　慶 八丁　由比 東野　充成 水井　万里子 ﾛﾝｸﾞ・ﾛﾊﾞｰﾄ	0		0		13	0
	小計	5		8		0		0		13	13
合計		60		63		1		32		156	196

② 大学院工学府

表３．３．２　大学院工学府連携講座（定員外）　（平成２３年４月１日現在）

専攻名	教　授		准教授		講　師		助　教		合計	技術職員等
	現員	氏名	現員	氏名	現員	氏名	現員	氏名	現員	現員
先端機能システム工学専攻	1	納冨　　啓	1	西　　敏郎	0		0		2	0
合計	1		1		0		0		2	0

３．４　事務組織

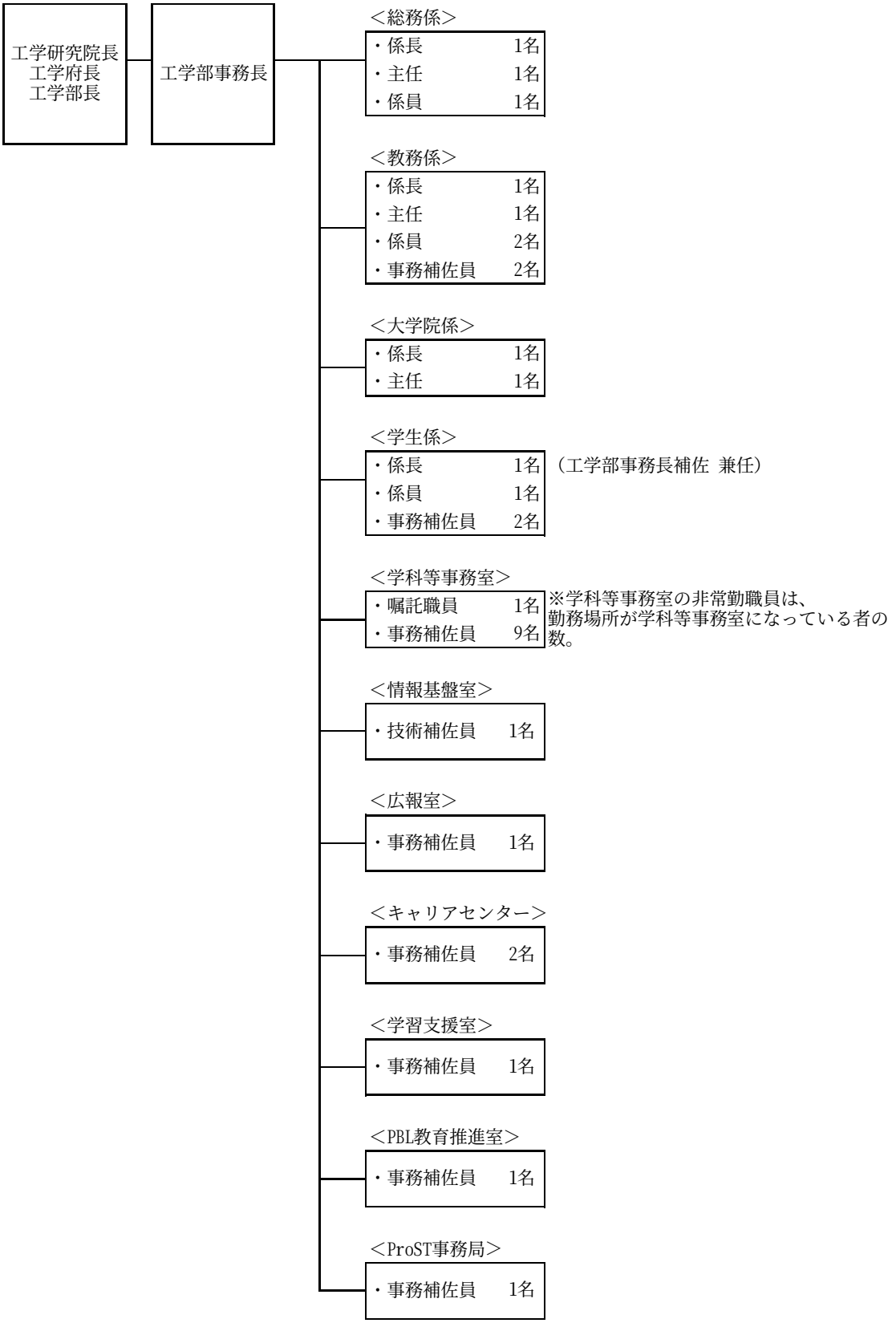


図３．４．１　事務組織図（平成２３年４月１日現在）

4　大学院工学研究院・工学府・工学部の財政

4．1　運営費交付金配分状況

表4.1.1　　運営費交付金配分額、学部運営費、教室配分額年次変化

（単位：千円）

区分＼年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
運営費交付金配分額	409,336	381,132	480,984	488,920	478,118
学部運営費 （うち光熱水費保留分）	101,843 (11,460)	100,975 (11,313)	194,407 (116,320)*	198,584 (116,773)	211,206 (124,136)
各学科等配分額	307,493	280,157	286,577	290,336	266,912

（＊）平成２１年度より光熱水費の全額を部局で管理することとなったため、額が例年よりも大きくなっている。

表4.1.2　　平成２３年度費目別配分額

（単位：千円）

費　　目	配分額	比率（%）
研究経費	65,520	13.71%
教育経費	149,661	31.30%
業績等配分経費	20,799	4.35%
事項指定経費	30,932	6.47%
学部運営費	87,070	18.21%
光熱水費	124,136	25.96%
その他	0	0.00%
合　　計	478,118	100.00%

表4.1.3　過去５年間の学科等別積算校費配分額の推移

（単位：千円）

年度・科目＼学科等		機械知能工学科	建設社会工学科	電気電子工学科	物質工学科	共通講座		機能ｼｽﾃﾑ創成工学専攻	その他
平成19年度	教育・研究費								
	研究経費	13,089	6,967	17,504	14,861	15,400		6,371	300
	教育経費	37,310	16,395	40,249	32,817	6,540		13,270	7,175
	業績等配分経費	4,232	1,621	5,712	4,530	2,445		1,726	7,579
	その他	1,422	0	33,928	1,652	0		2,218	114,023
年度・科目＼系		機械知能工学研究系	建設社会工学研究系	電気電子工学研究系	物質工学研究系	基礎科学系	人間科学系	先端機能ｼｽﾃﾑ工学研究系	その他
平成20年度	教育・研究費								
	研究経費	13,282	7,533	16,232	14,836	7,527	7,418	5,516	0
	教育経費	33,475	15,284	37,650	34,375	0	2,257	18,378	0
	業績等配分経費	3,629	1,646	5,667	5,423	1,476	1,177	1,419	0
	その他	1,564	0	32,443	1,526	0	0	3,072	108,307
平成21年度	教育・研究費								
	研究経費	13,984	7,600	15,200	15,592	7,192	7,600	4,400	0
	教育経費	35,464	17,051	38,413	35,279	0	2,929	17,384	0
	業績等配分経費	4,325	1,827	5,338	5,432	549	1,282	1,629	0
	その他	753	0	32,439	1,502	0	0	3,023	204,797
平成22年度	教育・研究費								
	研究経費	16,500	8,500	17,988	17,400	9,000	8,500	6,688	0
	教育経費	36,305	16,421	38,276	34,348	0	2,218	18,971	0
	業績等配分経費	3,646	1,752	5,921	5,126	1,653	1,126	1,115	7,511
	その他	981	0	257	1,267	0	0	3,963	223,487
平成23年度	教育・研究費								
	研究経費	13,600	6,800	13,200	13,968	7,168	5,584	5,200	0
	教育経費	40,469	17,985	33,744	32,308	970	2,287	21,888	10
	業績等配分経費	3,766	1,604	5,374	5,144	1,545	917	2,449	0
	その他	1,072	0	281	346	0	0	4,330	236,109

４．２　科学研究費補助金の採択状況

※金額は、直接経費のみ。
（転出を含み、転入を除く）

表4.2.1　科学研究費補助金採択状況

（単位：千円）

種目＼年度	平成１９年度		平成２０年度		平成２１年度		平成２２年度		平成２３年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
特別推進研究	2	26,700	1	11,700	1	11,700	—	—	—	—
特定領域研究	4	18,400	1	2,600	—	—	1	4,900	—	—
特別研究促進費	—	—	1	8,000	—	—	—	—	—	—
新学術領域研究	—	—	—	—	1	3,300	1	3,300	—	—
基盤研究（S）	—	—	—	—	—	—	—	—	1	40,500
基盤研究（A）(海外)	—	—	1	11,600	1	10,600	1	5,000	1	4,600
基盤研究（A）(一般)	3	33,200	3	28,200	3	20,000	1	15,200	1	13,100
基盤研究（B）(一般)	12	40,600	7	42,800	10	43,200	10	32,100	8	29,000
基盤研究（C）(一般)	21	30,900	26	28,300	22	26,000	30	30,900	34	43,000
挑戦的萌芽研究	8	11,100	4	4,900	3	3,200	5	5,800	9	12,650
研究活動スタート支援	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2,000
奨励研究	—	—	1	580	—	—	1	570	1	600
若手研究（A）	1	2,100	2	4,000	—	—	2	8,400	2	14,500
若手研究（B）	17	23,600	16	17,600	13	17,600	11	13,700	8	6,600
特別研究員奨励費	1	900	—	—	4	2,500	5	3,700	3	1,900
計	69	187,500	63	160,280	58	138,100	68	123,570	70	168,450

表4.2.2　平成２３年度科学研究費補助金学科等別申請、採択状況

（上段数字は継続課題で内数）

系＼事項	機械知能工学研究系	建設社会工学研究系	電気電子工学研究系	物質工学研究系	基礎科学研究系	人間科学研究系	先端機能システム工学研究系	合計
申請件数	25	11	31	30	13	8	9	127
採択件数	12	6	5	6	5	2	3	39
	20	8	10	9	3	9	7	66

※申請件数・採択件数ともに、非常勤研究員を含む。
　また、申請・採択件数には、奨励研究費及び特別研究員奨励費を含まない。

４．３　外部資金導入状況

４．３．１　寄附金（奨学寄附金）

表4.3.1　寄附金受け入れ状況　（単位：千円）

年度／学科等	平成１９年度		平成２０年度		平成２１年度		平成２２年度		平成２３年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
機械知能工学研究系	18	13,070	14	13,902	17	12,800	19	12,767	17	13,007
建設社会工学研究系	15	22,800	20	57,130	13	15,390	12	19,936	17	10,673
電気電子工学研究系	11	8,550	22	12,670	18	18,987	23	32,440	16	15,923
物質工学研究系	35	23,225	36	28,170	26	19,240	32	28,425	27	23,021
共通講座	4	5,980	—	—	—	—	—	—	—	—
基礎科学研究系	—	—	3	954	2	1,950	2	310	2	280
人間科学系	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0
先端機能ｼｽﾃﾑ工学研究系（機能ｼｽﾃﾑ創成工学専攻）	6	3,900	5	49,723	8	5,010	4	2,000	4	1,600
合計	89	77,525	100	117,799	84	73,377	92	95,878	83	64,503

※注意事項：継続研究員である増山特任教授は先端機能システム工学研究系で集計。

４．３．２　民間等との共同研究

表4.3.2　民間等との共同研究受け入れ状況　（単位：千円）

年度／学科等	平成１９年度		平成２０年度		平成２１年度		平成２２年度		平成２３年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
機械知能工学研究系	8	7,489 (7,489)	19	19,260 (19,260)	13	11,650 (11,650)	19	24,848 (24,848)	23	33,691 (33,691)
建設社会工学研究系	4	8,500 (8,500)	4	3,000 (3,000)	4	13,986 (13,986)	4	9,540 (9,540)	8	11,418 (11,418)
電気電子工学研究系	27	39,649 (39,649)	34	49,657 (49,657)	31	74,909 (74,909)	37	66,063 (66,063)	36	61,958 (61,958)
物質工学研究系	26	32,791 (32,791)	34	43,154 (43,154)	38	41,120 (31,555)	33	36,492 (36,492)	36	35,268 (35,268)
共通講座	3	3,750 (3,750)	—	—	—	— —		— —		— —
基礎科学研究系	—	—	3	2,400 (2,400)	6	5,119 (5,119)	4	2,000 (2,000)	4	4,500 (4,500)
人間科学系	—	—	0	0 (0)	0	0 (0)		0 (0)		0 (0)
機能ｼｽﾃﾑ創成工学専攻（先端機能ｼｽﾃﾑ工学研究系）	7	14,699 (14,699)	2	12,598 (12,598)	4	12,970 (12,970)	8	120,428 (120,428)	5	34,468 (34,468)
合計	75	106,878 (106,878)	96	130,069 (130,069)	96	159,754 (159,754)	105	259,371 (259,371)	112	181,303 (181,303)

※下段の（　）数字は民間負担分の歳入金額で内数。
※複数年契約を含む。
※注意事項：継続研究員である増山特任教授は先端機能システム工学研究系で集計。

４．３．３　受託研究

表4.3.3　受託研究受け入れ状況　（単位：千円）

学科等＼年度	平成１９年度		平成２０年度		平成２１年度		平成２２年度		平成２３年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
機械知能工学研究系	12	18,514	13	30,148	13	25,448	9	10,862	7	14,370
建設社会工学研究系	3	19,015	5	18,483	2	12,000	3	1,180	7	10,956
電気電子工学研究系	17	79,013	21	58,781	23	68,501	18	62,414	20	31,547
物質工学研究系	10	149,586	18	109,638	19	97,956	18	134,331	24	192,184
共通講座	2	4,640	—	—	—	—	—	—	—	—
基礎科学研究系	—	—	1	2,000	2	4,860	2	3,600	1	1,800
人間科学系	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0
機能ｼｽﾃﾑ創成工学専攻（先端機能ｼｽﾃﾑ工学研究系）	7	21,737	3	21,072	4	18,092	12	87,282	9	56,982
合計	51	292,505	61	240,122	63	226,857	62	299,669	68	307,839

※複数年契約を含む。

※注意事項

・束ね契約もありますが、申請を１件としています。

・知的クラスターは１テーマを１件とし、代表者の所属で分けています。

・受託事業は含まれていません。

・継続研究員である長谷部特任教授は物質工学研究系、増山特任教授は先端機能システム工学研究系で集計。

４．３．４　寄附講座

表4.3.4　寄附講座受け入れ状況　（単位:千円）

名称	所属学科	寄附者	年度別受け入れ金額					教員組織
			平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
電力系統制御工学	電気電子工学科	九州電力㈱	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	平成23年度 客員教授　1 寄附講座教員　1

４．３．５　寄附金の利息

大学院工学研究院・工学府・工学部では、寄附金の利息を共通経費として運用している。
表4.3.5に平成２３年度の使用内訳を示す。

表4.3.5　平成２３年度寄附金共通経費使用報告

(単位:円)

受入額		使用額	
事項	金額	事項	金額
前年度より繰越	4,109,807	今年度使用なし	
寄附金オーバーヘッド分	2,569,451		
合計	6,679,258	合計	6,679,258

5　大学院工学研究院・工学府・工学部と社会のつながり

5．1　地域貢献活動

5．1．1　大学公開

大学公開事業の一環として実施している高校生のためのオープンキャンパス（学内見学会）の実施状況を表５．１．１に示す。

年度	参加者数（名）		
	大学全体	学部別	
平成１９年度	1,701	（工）	1,065
		（情）	636
平成２０年度	2,198	（工）	1,285
		（情）	913
平成２１年度	2,427	（工）	1,502
		（情）	925
平成２２年度	2,767	（工）	1,594
		（情）	1,173
平成２３年度	3,012	（工）	1,807
		（情）	1,205

５．１．２　公開講座等

表5.1.2　公開講座等実施状況　（単位：名）

年度	講座名	対象	参加者数
平成１９年度	第13回ジュニア･サイエンス･スクール 「折り紙を組んで作るふしぎな立体」	小学生以上	97
	第14回ジュニア･サイエンス･スクール 「JSS in 環境ミュージアム」	小学生以上	
	第15回ジュニア･サイエンス･スクール 「見て、触れて楽しもう！北九州工学体験工房」	中学生	41
	第16回ジュニア･サイエンス･スクール 「人力飛行機で学ぶ飛行機の仕組み」	小学4年生～中学生	41
	第17回ジュニア･サイエンス･スクール 「正方形や長方形や三角形の折り紙をたたんでみよう!」	小学生以上	86
	第18回ジュニア･サイエンス･スクール 「光と色のマジック！～発光体～」	小学生以上	67
	第19回ジュニア･サイエンス･スクール 「天気のなぞに挑戦しよう！」	小学4年生以上	69
	第20回ジュニア･サイエンス･スクール 「身近な化学…しょっぱいだけじゃない塩水の不思議」	小・中学生	131
	第21回ジュニア･サイエンス･スクール 「折り紙をたたんで切って開いてできる、ふしぎな模様」	小学生以上	79
	第21回ジュニア･サイエンス･スクール(2回目) 「折り紙をたたんで切って開いてできる、ふしぎな模様」	小学生以上	70
	第22回ジュニア･サイエンス･スクール 「燃える不思議―花火のひみつ（２）」	小学4年生以上	85
	もりつね祭ブース出展	一般	
	毎日新聞社主催「ふしぎ発見ワークショップ」への協力	一般	
	インフォネットフェスティバル2007への協力	一般	
	青少年の為の科学の祭典　実験ブース出展	一般	
	北九州市児童文化科学館「わくわくサイエンスキッズ」 への協力	一般	
	こどもエコクラブ全国フェスティバルin北九州	一般	
平成２０年度	第23回ジュニア･サイエンス･スクール 「JSS in 環境ミュージアム」	小学生以上	ブース 出展
	第24回ジュニア･サイエンス･スクール 「折り紙ユニットで作るふしぎな立体」	小学生以上	105
	第25回ジュニア･サイエンス･スクール 「天体観望会：大型望遠鏡で月や惑星をみよう」	中学生	228
	第26回ジュニア･サイエンス･スクール 「見て、触れて楽しもう！北九州工学体験工房」	小学4年生～中学生	29
	第27回ジュニア･サイエンス･スクール 「JSS in 水環境館」	小学生以上	ブース 出展
	第28回ジュニア･サイエンス･スクール 「正６画形で作るふしぎな立体」	小学生以上	78
	第29回ジュニア･サイエンス･スクール 「人力飛行機の最新技術」	小学4年生以上	30
	第30回ジュニア･サイエンス･スクール 「音と楽器の科学」 「ミニチュア電子ピアノの作製」	小・中学生 中学生	28 16
	第31回ジュニア･サイエンス･スクール 「折り紙ユニットで作るふしぎな立体(初級)」 「折り紙ユニットで作るふしぎな立体(中級)」	小学生以上	36 44
	第32回ジュニア･サイエンス･スクール 「磁石を使って魚ロボットを動かしてみよう」	小学生以上	28
	もりつね祭ブース出展	一般	
	青少年の為の科学の祭典　実験ブース出展	一般	ブース 出展
	北九州市児童文化科学館 「わくわくサイエンスキッズ」への協力	一般	ブース 出展
	福岡市少年科学文化会館 「音と楽器の科学」への協力	一般	ブース 出展

	福岡市少年科学文化会館 「わくわく科学カーニバル」への協力	一般	ブース 出展
	北九州市立中原市民センター	小学 1～6 年生	約 30
	北九州市立三六市民センター	小学生（主に 1～3 年生）	約 40
	福岡県高校化学部会研修会	高校教員	20
	天文講演会 「生命の歩み-君はどこからきたのか-」	小学校高学年以上一般まで	162
	中学理科教員サークル研修 「天気のなぞに挑戦しよう！」 「光の不思議を体験しよう」	中学教員	約 20
	飛幡中学校 「燃える不思議-花火のひみつ-」	中学 1・2 年	14
	インターンシップ 福岡県立八幡工業高等学校	高校生	2
平成２１年度	福岡県高校化学部会研修会	高校教員	20
	第 33 回ジュニア･サイエンス･スクール 「JSS in 環境ミュージアム」	小学生以上	ブース 出展
	第 34 回ジュニア･サイエンス･スクール 「多角形をたたんで作るふしぎな模様」	小学生以上	59
	北九州市立永犬丸市民センター	小学 1～6 年生	約 50
	北九州市立前田市民センター	小学 1～6 年生	25
	第 35 回ジュニア･サイエンス･スクール 「皆既日食観察会」	小学生以上	420
	第 36 回ジュニア･サイエンス･スクール 「見て、触れて楽しもう！ 北九州工学体験工房」	中学生	42
	日本化学会九州支部「化学への招待」への協力	小学生以上	63
	北九州市児童文化科学館 「わくわくサイエンスキッズ」への協力	一般	ブース 出展
	戸畑区「いいっちゃ戸畑」への協力	一般	ブース 出展
	戸畑区まちづくり推進課推進課 「安川・松本家と戸畑の百年」記念事業への協力	一般	33
	天文講演会 「宇宙を身近に～宇宙開発者たちに聞いてみよう～」	小学校高学年以上一般まで	103
	第 37 回ジュニア･サイエンス･スクール 「折り紙ユニットで作るふしぎな立体(初級)」 「折り紙ユニットで作るふしぎな立体(中級)」	小学生以上	32 40
	北九州市立三六市民センター	小学 1～6 年生	約 40
	第 38 回ジュニア･サイエンス･スクール 「ソルバトクロミズム：周りの環境で色が変わるカメレオン分子を作ってみよう」	小学生以上	45
	第 39 回ジュニア･サイエンス･スクール 「家庭の科学―電気製品の仕組みと安全な使用法」	小学生以上	30
平成２２年度	第 40 回ジュニア･サイエンス･スクール 「ドライアイスで遊ぼう！」	小学生以上	41
	福岡県立戸畑高等学校文化祭に参加 「折り紙ユニットで立体を作ってみよう」 「超高速カメラでおもしろ実験」	小学生以上	ブース 出展
	第 41 回ジュニア･サイエンス･スクール 「JSS in 環境ミュージアム」	小学生以上	ブース 出展
	第 42 回ジュニア･サイエンス･スクール 「多角形を切って作るふしぎな模様」	小学生以上	100
	天文講演会 「星をながめて」	小学校高学年以上一般まで	82
	福岡県高校化学部会研修会	高校教員	19
	読売新聞企画　社会見学受入れ 「液体窒素の実験」	小学生	30
	第 43 回ジュニア･サイエンス･スクール 「見て、触れて楽しもう！ 北九州工学体験工房」	中学生	33
	第 44 回ジュニア･サイエンス･スクール 「ＤＮＡを調べよう」	小学生以上	58

	出張！オープンキャンパス　in イムズ 「折り紙ユニットで立体をつくってみよう」 「宇宙空間ってどんなところ？」	一般	ブース出展
	北九州市児童文化科学館 「わくわくサイエンスキッズ」への協力	一般	ブース出展
	フクオカサイエンスマンス 「光と電気のふしぎ体験」	小学生以上	ブース出展
	科学で遊ぼう！夢テクノロジ 2010 in 中津	小学生以上	ブース出展
	理数教育研究セミナー2010	一般	28
	第 45 回ジュニア・サイエンス・スクール 「手作り望遠鏡教室」	小学生以上	29
	第 46 回ジュニア・サイエンス・スクール 「折り紙ユニットで作るふしぎな立体（中級）」	小学生以上	52
平成２３年度	第 47 回ジュニア・サイエンス・スクール 「JSS in 環境ミュージアム」	小学生～一般の方	ブース出展
	缶サット甲子園 2012　九州大会	高校生	
	福岡県高校化学部会研修会	高校教員	
	平成 23 年度「先端科学技術体験合宿」 「超伝導体の電気磁気特性　～電気抵抗ゼロの世界～」 「ものづくりの道具　金型の構造と作り方を学ぶ」 「多面体と折り紙と数学と」 「マイコンでオリジナルプログラムを組んでみよう！」		
	第 48 回ジュニア・サイエンス・スクール 「見て、触れて楽しもう！ 北九州工学体験工房」	小学生（5 年生以上），中学生 （保護者は、見学のみ）	32
	読売新聞企画　社会見学受入れ 「液体窒素の実験」	小学生	30
	第 49 回ジュニア・サイエンス・スクール 「天体観測」	一般（中学生以下は保護者同伴）	71
	SAFnet 世界一行きたい科学広場 IN 北九州 2011 「冷却パックを作ろう」		
	戸畑図書館　夏休み特別企画 「科学であそぼう」	小学生	60
	第 50 回ジュニア・サイエンス・スクール 「科学実験と楽しい工作」	小学生	49
	アインシュタイン展 LOVE 特別展　科学実験教室 「ドップラー効果から宇宙を知る」 「アインシュタインのノーベル賞理論を体験しよう ～光電効果の実験～」	小学 4 年生以上	
	北九州市児童文化科学館 「わくわくサイエンスキッズ」への協力 「『えきじょうか』ってな～に」	一般	ブース出展
	第 51 回ジュニア・サイエンス・スクール 「正六角形で作るふしぎな立体」	小学生以上（一般の方の参加も歓迎します）	75
	フクオカサイエンスマンス 2011 「折り紙ユニットで立体を作ってみよう」		ブース出展
	第 52 回ジュニア・サイエンス・スクール 「コロコロ装置作りに挑戦！」	小学校　4　年生以上	30
	JICA 青年研修受入れ	大洋州 8 ヶ国研修生	21
	第 53 回ジュニア・サイエンス・スクール 「簡単な電子工作～オルゴールを作ろう～」	小学校　5　年生以上	20
	ユニセックワークショップ		
	第 54 回ジュニア・サイエンス・スクール 「ＤＮＡをつくろう」	小学校　4　年生以上	40
	第 55 回ジュニア・サイエンス・スクール 「折り紙ユニットで作るふしぎな立体（初級）」	小学生以上 （一般の方の参加も歓迎します）	63
	理数教育研究セミナー2012 「竜巻ってなあに？」	一般	28

５．１．３　北九州市民カレッジへの協力

本学は、福岡・北九州地域リカレント教育推進協議会主催のリカレント教育の実施大学の一つになっていたが、その後継事業として、平成１７年度から北九州市民カレッジが始まった。これらの事業にこの５年間に協力したセミナーの実施状況を表５．１．３に示す。

表 5.1.3　　北九州市民カレッジ（ﾘｶﾚﾝﾄ教育）協力セミナー実施状況　　（単位：名）

年　　度	セミナー名	参加者数	備　　考
平成１９年度	申込者が少数のため実施なし		市民カレッジ
平成２０年度	現代社会を支える化学－最先端機能物質から環境・リサイクルまで	18	市民カレッジ
平成２１年度	原語で読む現代ドイツ文学 ―ダニエル･ケールマン『陽の下で』―	27	市民カレッジ
平成２２年度	前期 原語で読む現代ドイツ文学（２） ―ダニエル･ケールマン『陽の下で』―	21	市民カレッジ
	後期 講師の都合により中止		
平成２３年度	学校ではぜったい教わらない北九州のマチモノガタリ	21	市民カレッジ

５．１．４　出前講義

近年、社会的問題となっている、いわゆる青少年の「科学離れ」「理工系離れ」対策の一環として、小・中・高等学校の生徒を対象に本学の教官が小・中・高等学校に出向き、理工系分野の学問の最前線の話題や魅力等について分かり易く講義をする。

表5.1.4　　出前講義

年度	講義名	実施件数	対象者
平成１９年度	「アポロ１３」はただの冒険映画じゃない　ー技術者ってかっこいい！ー	4	中・高校生
	ニューラルネットのロボットへの応用　ー脳をまねてロボットを動かすはなしー	5	高校生
	やさしい情報通信の世界　ーインターネットの基礎と応用ー	2	高校生
	テレビはなぜ見える！　ーテレビ・ラジオの原理と電波のふしぎー	4	小・中・高校生
	シミュレーションで学ぶディジタル通信の仕組み	1	高校生
	聞こえないことと、その支援方法	1	中・高校生
	視覚障害者のための福祉機器について　ー視覚障害を体験して考えてみるー	1	中・高校生
	電気のいろいろな作り方　ー身近なもので電気をつくろうー	3	小学生
	超伝導体による浮上実験　ー超伝導体と磁石はどう違うか？ー	8	小・中・高校生
	シャボン玉から知る複合材料の科学	2	中・高校生
	携帯電話もパソコンもテレビも車も集積回路（LSI）がぎっしりーLSI ってなに？半導体ってなに？ー	3	小・中・高校生
	水の不思議　ー20℃で、あたたかい氷をつくってみよう！ー	1	小・中・高校生
	遺伝子とゲノムと生命　ーやさしい遺伝子のはなしー	1	中・高校生
	医薬品の安全で効果的な体内取り込み技術　ー生物に学ぶドラッグデリバリーシステムー	2	高校生
	マイクロ波が促進する化学反応　ー電子レンジで化学の実験ー	1	小・中・高校生
	身のまわりのプラスチックとリサイクル　ーペットボトルやビニールについてもっと知ろうー	2	小・中・高校生
	あっ、プラスチックが水に溶ける！ープラスチックのリサイクルを考えるー	2	高校生
	生ゴミからプラスチックと肥料をつくる　ーリサイクルを考えようー	2	小・中学生
	魚のすみやすい川づくり	1	中・高校生
	風を生活に役立てる最先端研究ー何がわかってて、何がわかってない？ー	1	高校生
	エネルギーと環境　ーおまけ　僕や私の生きる道（技術者編）ー	6	中・高校生
	天気予報のしくみと地球の気候変動　ー気象現象の物理と数学ー	3	高校生
	身近な物理現象と、大学での研究例との関係　ー多様な知識と好奇心が共通にあるー	1	小・中・高校生
	３次方程式の解法　ー楽しい数学ー	2	高校生
	宇宙とは何か？時間とは何か？人間とは何か？	1	高校生
	相対性理論と４次元時空間　ーアインシュタインが目指したものー	1	高校生
	やってみなくちゃ分からない折り紙飛行機　ーものづくりの秘密ー	2	小・中学生
	「紅の豚」はただのアニメじゃないー技術者っていいもんだ！ー	4	中・高校生

	進化する機械工学とグローバル化時代に期待される技術者	2	高校生
平成２０年度	もてる男の顔・対称性とその顔認証への応用　ーバイセキュリティの世界ー	4	小・高校生
	やさしい情報通信の世界　ーインターネットの基礎と応用ー	3	高校生
	テレビはなぜ見える！　ーテレビ・ラジオの原理と電波のふしぎー	3	小・高校生
	音声のブラインド信号分離　ー聖徳太子プロジェクトー	2	高校生
	世界最速のディジタルオーディオ IC	1	高校生
	脳と機械の「見る」　ー人間の視覚のしくみとロボットへの応用ー	3	小・高校生
	ニューラルネットのロボットへの応用　ー脳をまねてロボットを動かすはなしー	2	高校生
	環境にやさしいプラスチックで作る自在に曲がる電子デバイス　ーポリマーで拓く未来の情報機器とロボットー	1	高校生
	携帯電話もパソコンもテレビも車も集積回路（LSI）がぎっしり　ーLSI ってなに？半導体ってなに？ー	4	高校生
	超伝導体による浮上実験　ー超伝導体と磁石はどう違うか？ー	10	小・中・高校生
	生物の生み出すナノ工作の世界　ー生物の働きを生み出すタンパク質達を眺めてみようー	1	高校生
	ＤＮＡと遺伝子　ーやさしい遺伝子のはなしー	5	高校生
	医薬品の安全で効果的な体内取り込み技術　ー生物に学ぶドラッグデリバリーシステムー	3	高校生
	エコポ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化　ー自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てようー	3	小学生
	魚のすみやすい川づくり	1	高校生
	風を生活に役立てる最先端研究　ー何がわかってて、何がわかってない？ー	2	高校生
	地球温暖化問題と自然エネルギー　ー風力発電を含めてー	2	小・高校生
	エネルギーと環境　ー新聞から学ぶ　原発と温暖化対策ー	1	高校生
	お日様パワーは地球を救う　ー太陽電池のはなしー	2	高校生
	光触媒を使った環境浄化について	1	高校生
	生ゴミからプラスチックと肥料をつくる　ーリサイクルを考えようー	3	小・中学生
	あっ, プラスチックが水に溶ける！　ープラスチックのリサイクルを考えるー	1	高校生
	ためになるけど、ホントはコワイ確率の話。ー確率にだまされるな。確率は人の生命も左右する鋭い牙にもなる。確率は科学の大事な根っこ。ー	1	高校生
	正多面体のはなし　ー折り紙でいろいろな立体をつくろうー	1	小学生
	宇宙とは何か？時間とは何か？人間とは何か？	1	高校生
	天気予報のしくみと地球の気候変動　ー気象現象の物理と数学ー	2	高校生
	「アポロ１３」はただの冒険映画じゃない　ー技術者ってかっこいい！ー	2	高校生
	「紅の豚」はただのアニメじゃない　ー技術者っていいもんだ！ー	4	高校生
	自動車の出来るまで　ーものづくりの現場を見てみようー	5	高校生
	工学部ってどんなところ？	5	高校生
	僕や私の生きる道（工学編）　ー人生なんとかなるもんだー	2	高校生
平成２１年度	もてる男の顔・対称性とその顔認証への応用 ーバイセキュリテ	9	高校生

	ィの世界―		
	情報工学のもたらす新世界探訪 ―情報工学の可能性は∞―	3	高校生
	やさしい情報通信の世界 ―インターネットの基礎と応用―	1	高校生
	テレビはなぜ見える！ ―テレビ・ディジタルテレビの原理と電波のふしぎ―	4	高校生
	音声のブラインド信号分離 ―聖徳太子プロジェクト―	1	高校生
	世界最速のディジタルオーディオ IC ―２０年目の夢―	3	高校生
	見えないことと，その支援方法	1	高校生
	聞こえないことと，その支援方法	1	高校生
	いつも働いている脳 ―早寝、早起き、脳にご飯を―	2	高校生
	人間の見るしくみをしらべてロボットの見るしくみをつくってます ―脳の視覚のしくみをコンピュータで実現―	10	中・高校生
	自動ピアノから学ぶ人間の不思議 ―人の感覚を探る―	2	高校生
	生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場 ―先端医療デバイスからアミューズメントロボットまで	3	高校生
	ニューラルネットのロボットへの応用 ―脳をまねてロボットを動かすはなし―	2	高校生
	携帯電話もパソコンもテレビも車も集積回路（IC）がぎっしり ―IC ってなに？半導体ってなに？―	2	高校生
	カーボンナノチューブによる半導体ナノテクノロジー ―カーボンナノチューブとは？―	3	高校生
	超伝導体による浮上実験 ―超伝導体と磁石はどう違うか？―	11	小・中・高校生
	電気のいろいろな作り方 ―身近なもので電気をつくろう―	2	小学生
	生物のつくるナノ構造を観察しよう！ ―コンピュータを使った新しい自然観察―	1	高校生
	ＤＮＡと遺伝子 ―やさしい遺伝子のはなし―	1	高校生
	医薬品の安全で効果的な体内取り込み技術 ―生物に学ぶドラッグデリバリーシステム―	1	高校生
	なぜ砂糖や塩に味を感じるのか？	1	高校生
	エコポ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化 ―自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てよう―	1	高校生
	魚のすみやすい川づくり	1	高校生
	風を生活に役立てる最先端研究 ―何がわかってて、何がわかってない？―	2	高校生
	地球温暖化問題と自然エネルギー ―風力発電を含めて―	2	高校生
	お日様パワーは地球を救う ―太陽電池のはなし―	4	高校生
	電子レンジで化学の実験 ―マイクロ波が促進する化学反応―	3	高校生
	生ゴミからプラスチックと肥料をつくる ―びせいぶつの不思議な世界―	1	高校生
	生ゴミからプラスチックと肥料をつくる ―リサイクルを考えよう―	1	高校生
	あっ，プラスチックが水に溶ける！ ―プラスチックのリサイクルを考える―	1	高校生
	データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜く ―血液型で性格判断できるってホント？認識って実は何？―	2	高校生
	正多面体のはなし ―折り紙でいろいろな立体をつくろう―	3	中・高校生
	相対性理論と４次元時空間 ―アインシュタインが目指したもの―	1	高校生

	宇宙とは何か？時間とは何か？人間とは何か？ －科学と技術－	2	高校生
	「アポロ１３」はただの冒険映画じゃない －技術者ってかっこいい！－	2	高校生
	「紅の豚」はただのアニメじゃない －技術者っていいもんだ！－	4	高校生
	自動車の出来るまで －ものづくりの現場を見てみよう－	5	高校生
	工学部ってどんなところ？	3	高校生
平成２２年度	もてる男の顔・対称性とその顔認証への対応 －バイオセキュリティの世界－	10	高校生
	情報工学のもたらす新世界探訪 －情報工学の可能性は∞－	5	高校生
	テレビはなぜ見える！ －テレビの基本原理と電波のふしぎ－	6	小学・高校生
	世界最速のオーディオＩＣ －２０年目の夢－	3	高校生
	見えないことと，その支援方法	1	高校生
	いつも働いている脳 －早寝，早起き，脳にご飯を－	5	高校生
	データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜く －血液型で性格判断できるってホント？認識って実は何？－	1	高校生
	人間の見るしくみをしらべてロボットの見るしくみをつくってます －脳の視覚のしくみをコンピューターで実現－	8	高校生・その他
	迷路とマイクロマウス －人工知能ってなに－	1	高校生
	機械情報工学って何？ －身近な機械情報工学，医療・ロボット開発で活躍する情報工学技術－	5	高校生
	世界初！蝶ロボットの開発 －何故，蝶は飛ぶことができるのか？－	3	高校生
	自動ピアノから学ぶ人間の不思議 －人の感覚を探る－	3	高校生
	生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場 －先端医療デバイスからアミューズメントロボットまで－	4	高校生
	ニューラルネットのロボットへの応用 －脳をまねてロボットを動かすはなし－	5	高校生
	からくり人形とロボットの不思議	3	高校生
	超精密の不思議 －身の回りにある超精密－	3	高校生
	「鉄＆鉄子」の楽しみ －身近な電車の中の先端技術－	1	高校生
	ミクロの機械の不思議 －マイクロマシン（微小な機械）－	1	高校生
	携帯電話もゲームもパソコンも自動車も集積回路（ＬＳＩ）がぎっしり －ＬＳＩってなに？半導体ってなに？－	9	高校生
	自動車の出来るまで －ものづくりの現場を見てみよう－	3	高校生
	カーボンナノチューブによる半導体ナノテクノロジー －カーボンナノチューブとは？－	2	高校生
	生命に学ぶナノテクノロジー －機械工学へのナノテク応用－	2	高校生
	シャボン玉から知る複合材料の科学	1	高校生
	超伝導体による浮上実験 －超伝導体と磁石はどう違うか？－	15	小学・中学・高校生
	電気のいろいろな作り方 －身近なもので電気をつくろう－	3	小学生
	お日様パワーは地球を救う －電気から学ぶ資源とエネルギー－	1	高校生
	地球温暖化問題と自然エネルギー －風力発電を含めて－	2	高校生
	エコポ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化 －自分のデザインした植木鉢をつくって植物を育てよう－	1	高校生
	魚のすみやすい川づくり	2	高校生
	風を生活に役立てる最先端研究 －何がわかってて，何がわかってない？－	2	中学・高校生

	地盤災害はどうして起こる？	4	高校生
	生ゴミからプラスチックと肥料をつくる　－リサイクルを考えよう－	5	中学・高校生
	生ゴミからプラスチックと肥料をつくる　－びせいぶつの不思議な世界－	3	高校生
	あっプラスチックが水に溶ける！　－プラスチックのリサイクルを考える－	2	高校生
	生命がつくるナノ構造を覗き見る　－コンピュータをつかった新しい自然観察－	3	中学・高校生
	ＤＮＡと遺伝子　－やさしい遺伝のはなし－	2	高校生
	医薬品の安全で効果的な体内取り込み技術　－生物に学ぶドラッグデリバリーシステム－	2	高校生
	総合的学問「建築」への招待	3	高校生
	生き物の分子をデザインする　－遺伝子や蛋白質の美しさと生命科学の世界－	1	高校生
	驚きのマイクロ波化学　－電子レンジがＣＯ２を減らす－	1	高校生
	宇宙とは何か？時間とは何か？人間とは何か？	1	高校生
	正多面体のはなし　－折り紙でいろいろな立体をつくろう－	3	高校生
	「アポロ１３」はただの冒険映画じゃない　－技術者ってかっこいい！－	7	高校生
	「紅の豚」はただのアニメじゃない　－技術者っていいもんだ！－	1	高校生
	工学部ってどんなところ？	3	高校生
平成２３年度	もてる男の顔認証　－バイオセキュリティの世界－	10	小学・中学・高校生
	情報工学のもたらす新世界探訪　－情報工学の可能性は∞－	5	高校生
	テレビはなぜ見える！－テレビの基本原理と電波のふしぎ－	5	中学・高校生・その他
	世界最速のオーディオＩＣ　－２０年目の夢－	2	高校生
	見えないことと,その支援方法	2	高校生
	環境にやさしいプラスチックで作る自在に曲がる電子デバイス－ポリマーで拓く未来の情報機器とロボット－	2	高校生
	データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜く　－血液型で性格判断できるってホント？認識って実は何？－	2	高校生
	人間の見るしくみをしらべてロボットの見るしくみをつくってます　－脳の視覚のしくみをコンピューターで実現－	5	高校生・その他
	迷路とマイクロマウス －人工知能ってなに－	1	高校生
	機械情報工学って何？ －身近な機械情報工学,医療・ロボット開発で活躍する情報工学技術 －	4	高校生
	世界初！蝶ロボットの開発 －何故,蝶は飛ぶことができるのか？－	1	高校生
	ロボットから学ぶ人間の不思議　－人の感覚を探る－	3	高校生
	生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場　－先端医療デバイスからアミューズメントロボットまで－	6	高校生
	ニューラルネットのロボットへの応用　－脳をまねてロボットを動かすはなし－	2	高校生
	超精密の世界　－身の回りの超精密－	5	中学・高校生
	「鉄＆鉄子」の楽しみ　－身近な電車の中の先端技術－	2	高校生

ミクロの機械の不思議　－マイクロマシン（微小な機械）－	2	高校生
携帯電話もゲームもパソコンも自動車も集積回路（ＩＣ）がぎっしり　－ＩＣってなに？半導体ってなに？－	5	中学・高校生
日本刀に学ぶマテリアル工学	2	高校生
自動車の出来るまで　－ものづくりの現場を見てみよう－	8	高校生
シャボン玉から知る複合材料の科学	4	高校生
最先端のハイテクを支える錯塩の科学に触れよう！　－制がん剤から新幹線まで－	2	中学・高校生
超伝導体による浮上実験　－超伝導体と磁石はどう違うか？－	7	小学・中学・高校生
電気のいろいろな作り方　－身近なもので電気をつくろう－	3	小学生・その他
お日様パワーは地球を救う！　－電気から学ぶ資源とエネルギー－	1	高校生
地球温暖化問題と自然エネルギー　－風力発電を含めて－	5	小学・中学・高校生
見えない“流れ”を視る！　－何故,ボールは変化する？何故,昆虫は飛ぶことができる？－	2	高校生
エコポ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化－自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てよう－	3	小学生・その他
地盤災害はどうして起こる？	5	小学・高校生
生ゴミからプラスチックと肥料をつくる　－リサイクルを考えよう－	1	中学生
生命が創るナノ構造を覗きみよう　－コンピュータを使った新しい自然観察法－	2	高校生
ＤＮＡと遺伝子　－やさしい遺伝のお話－	1	高校生
３Ｄデザインで健康を科学します－メタボ、がん、肌、毛髪まで－	2	高校生
医薬品の安全で効果的な体内取り込み技術　－生物に学ぶドラッグデリバリーシステム－	3	高校生
総合的学問「建築」への招待	1	高校生
生命の起源と進化を考える　－卵が先か,ニワトリが先か－	2	中学・高校生
光や電磁波を使っている最新技術をみてみよう　－電子線,蛍光,ミリ波,マイクロ波,ラジオ波って何だろう－	1	高校生
正多面体のはなし　－折り紙でいろいろな立体をつくろう－	1	高校生
「アポロ１３」はただの冒険映画じゃない　－技術者ってかっこいい！－	1	高校生
「紅の豚」はただのアニメじゃない　－技術者っていいもんだ！－	3	中学・高校生
工学部ってどんなところ？	3	高校生
大学ってどんなところ？　－当世大学・学生事情－	1	高校生
理系（技術系）人材養成のためのプロジェクト学習について　－企業で求められる人材とは？－	3	高校生

５．１．５　情報公開

大学院工学研究院・工学府・工学部の情報公開の実施状況を表５．１．５に示す。

表5.1.5　　各種情報公開の現状

現在公開（公表）している情報等	編集方針	年間発行回数、発行時期	公開・情報提供先	編集組織の名称
大学院工学研究院・工学府・工学部自己点検・評価報告書	大学院工学研究院・工学府・工学部とその関連部局における自己点検・評価を行い、その結果を公表する。	１回・２月	大学公式ホームページ上で、学内外へ公開	大学院工学研究院部局評価委員会

表5．2．1　外国人留学生（国籍別・課程別・費用別）在学状況一覧表

◎外国人留学生在学状況

平成23年5月1日現在　（単位：人）

所属・課程・費用別等		国籍	中国	韓国	マレーシア	ベトナム	インドネシア	バングラデシュ	タイ	ラオス	フランス	ネパール	インド	シリア	ブラジル	台湾	ミャンマー	イラン	スリランカ	リベリア	ペルー	オーストラリア	アルジェリア	フィジー	合計	
工学部・工学府・工学研究科	課程別	博士後期課程	7	3			3	2									1						1		17	
		博士前期課程	34	2		2				2	1					1				1				1	44	
	内訳	学部生	6	1	4	1				1															13	
		研究生/聴講生	11	9							1											1			22	
	費用別	国費	2	2				1									1			1			1	1	9	
	内訳	本国政府派遣			4																				4	
		私費	56	11		3	3	1		3	2					1						1			81	
		JASSO		2																					2	
	国籍	小計	58	15	4	3	3	2	0	3	2	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	1	1	96	14ヶ国
情報工学部・情報工学府・情報工学研究科	課程別	博士後期課程	2		2	1	2	2	3						1										13	
		博士前期課程	17	1		1	1																		20	
	内訳	学部生	12	2	1	2				1		1													19	
		研究生/聴講生	6			1	1																		8	
	費用別	国費	1				1					1													3	
	内訳	本国政府派遣			1																				1	
		私費	36	3	2	5	2	2	3	1					1										55	
		JASSO					1																		1	
	国籍	小計	37	3	3	5	4	2	3	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	10ヶ国
生命体工学研究科	課程別	博士後期課程	6	4	2	1		1			1		1												16	
		博士前期課程	4						1		1			1				1	1		1				10	
	内訳	研究生/聴講生	3																						3	
	費用別	国費		1					1									1	1		1				5	
	内訳	本国政府派遣																							0	
		私費	13	3	2	1		1			2		1	1											24	
		JASSO																							0	
	国籍	小計	13	4	2	1	0	1	1	0	2	0	1	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	29	12ヶ国
合計	課程別	博士後期課程	15	7	4	2	5	5	3	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	46	
		博士前期課程	55	3	0	3	1	0	1	2	2	0	0	1	0	1	0	1	1	1	1	0	0	1	74	
	内訳	学部生	18	3	5	3	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	
		研究生/聴講生	20	9	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	33	
	費用別	国費	3	3	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	1	1	17	
	内訳	本国政府派遣	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
		私費	105	17	4	9	5	4	3	4	4	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	160	
		JASSO	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	国籍	合計	108	22	9	9	7	5	4	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	185	22ヶ国

※ 「JASSOは，独立行政法人日本学生支援機構による大交流計画奨学金または留学生交流支援制度(短期受入れ)によって在籍する者

※ 研究生/聴講生は，協定校等からの特別聴講（研究）学生を含む

表５．２．２　外国人留学生（学科別・専攻別）在学状況一覧

【改組前入学者】　（平成２３年５月１日現在）（単位：人）

所属 / 区分	機械知能工学科 機械知能工学専攻			建設社会工学科・専攻	電気電子工学科 電気電子工学専攻		物質工学科 物質工学専攻		機能システム創成工学専攻	合計
	機械工学コース	宇宙工学コース	制御工学コース		電気電子工学コース	電子通信システムコース	応用化学コース	マテリアル創成加工学コー		
博士後期課程										0
博士前期課程										0
学部生　２年生以上		1			1					2
学部生　１年生										0
研究生・聴講生										0
短期留学生										0
合計	1			0	1		0		0	2

【改組後入学者】　（平成２３年５月１日現在）（単位：人）

所属 / 区分	機械知能工学科 機械知能工学専攻			建設社会工学科 建設社会工学専攻			電気電子工学科 電気電子工学専攻			物質工学専攻		総合システム工学科 機能ｼｽﾃﾑ創成工学専攻 先端機能システム工学専攻		合計
	機械工学コース	宇宙工学コース	知能制御工学コース	建築学コース	地域環境デザインコース	都市再生デザインコース	システムエレクトロニクスコース	電気エネルギー学コース	電子デバイスコース	応用化学科	マテリアル工学科	機能システム創成専攻	先端機能システム工学専攻	
博士後期課程	3		4				2	4		3			1	17
博士前期課程	8		4		6		7	4	4	6			5	44
学部生　２年生以上		2	2		2				1			1		8
学部生　１年生		1			2									3
研究生・聴講生		7			3			9		1	1		1	22
短期留学生														0
合計	31			13			31			10	1	8		94

表５．２．３　学生の海外派遣

年度	国名	交流協定校	学　生　派　遣　数
19	イギリス	サリー大学	短期留学１名
	アメリカ	オールド・ドミニオン大学	語学研修８名（工学部８名）
	オーストラリア	モナシュ大学	語学研修１２名（情報工学部１２名）
	韓国	忠州大学校	相互交流１２名（工学部１２名）
		浦項工科大学	合同ワークショップ２４名（生命体工学研究科２４名）
20	イギリス	サリー大学	短期留学２名
	アメリカ	オールド・ドミニオン大学	語学研修８名（工学部８名）
	オーストラリア	モナシュ大学	語学研修１２名（情報工学部１２名）
	フランス	ロレーヌ工科大学	短期留学１名
	韓国	忠州大学校	相互交流１２名（工学部１２名）
21	イギリス	サリー大学	短期留学１名（工学府１名）
	アメリカ	オールド・ドミニオン大学	語学研修８名（工学部８名）
	フランス	国際宇宙大学	短期留学３名（工学府３名）　派遣先：アメリカ
	ニュージーランド	オークランド工科大学	語学研修２名（情報工学部２名）
	オーストラリア	シドニー工科大学	短期留学２名（工学部１名、工学府１名）
	インド	バナラスヒンドゥー大学	短期留学１名（生命体工学研究科１名）
	韓国	釜山大学	短期留学１名（工学府１名）
		忠州大学校	相互交流１２名（工学部１２名）
		浦項工科大学	合同ワークショップ１３名（生命体工学研究科１３名）
22	アメリカ	オールド・ドミニオン大学	語学研修８名（工学部８名）
	イギリス	サリー大学	語学研修12名（工学府8名、情報工学府2名、生命体工学研究科2名）
	フランス	ロレーヌ工科大学	短期留学2名（工学府1名、生命体工学研究科1名）
		国際宇宙大学	短期留学３名（工学府３名）
	オーストラリア	シドニー工科大学	短期留学１名（工学部１名）
	韓国	忠州大学校	相互交流１４名（工学部１４名）
23	アメリカ	オールド・ドミニオン大学	語学研修８名（工学部８名）
		クラークソン大学	短期留学２名（情報工学府２名）
	イギリス	サリー大学	短期留学１名（情報工学府１名）
			語学研修１２名（工学府７名、情報工学府４名、生命体工学研究科１名）
	フランス	国際宇宙大学	短期留学２名（工学府２名）　派遣先：オーストラリア
	オーストラリア	ウォロンゴン大学	語学研修１名（情報工学部1名）
	韓国	韓国交通大学校 （旧名・忠州大学校）	相互交流１４名（工学部１４名）

６．おわりに

このアンケート調査は既に 10 年を超えます。グローバル人材育成の大切さが学内外で強調される昨今、「表現力」・「コミュニケーション能力」・「語学」が鍵となると思いますが、それらを学部時代から鍛えていく必要性がアンケート結果に現れています。特に「語学」の評価が低いのは長年の課題で、改善の努力として如何にフィードバックできてきたのか部局評価委員会としても総括しないといけないかもしれません。来年度から、工学部・工学府において英語教育に関する様々な取り組みが始まりますが、それらが効果を発揮しはじめるには、まだまだ時間がかかります。企業が新入社員に求める「国際化」のレベルは年々あがってきております。本学の国際化教育のアウトプットが、企業からの要求レベルに追い越されないよう、早急な努力が必要であるかと思います。

趙　孟佑（大学院工学研究院部局評価委員会委員長）

２０１３年（平成２５年）２月

平成２４年度　大学院工学研究院部局評価委員会委員

趙　　孟佑	工学研究院 教授【委員長】
橘　　武史	工学研究院 教授【副委員長】
山口　栄輝	工学研究院 教授
大村　一郎	工学研究院 教授
清水　陽一	工学研究院 教授
池田　敏春	工学研究院 教授
鳥井　正史	工学研究院 教授
狩集　克己	工学部事務長